

TOKUSHIMA UNIV.

キャンパスライフ

第30回 学生生活実態調査報告書

CAMPUS LIFE

30 TH



徳島大学
Tokushima University

まえがき

キャンパスライフ「第30回学生生活実態調査報告書」は、本学学部生の生活の実状を把握し、今後の修学指導並びに福利厚生施設等の改善に資する基礎資料を得る目的で、令和3年11月に、全学部の学生全員にアンケート調査を実施したものです。本報告書には、①基本事項、②住居・通学、③収入・支出、④健康状態、⑤食事、⑥学生生活上の問題点、⑦修学状況、⑧課外活動、⑨進路・就職などについて、全部で73問の質問により調査されたアンケート結果に加えて、その結果から得られた各学部の現状と課題、これらをまとめた総括と提言が報告されています。

本学は、「自主と自律の精神に基づき、真理の探求と知の創造に努め、卓越した学術及び文化を継承し向上させ、世界に開かれた大学として、豊かで健全な未来社会の実現に貢献する」を教育理念とし、教育上の目標を「学生が志をもって学び、感じ、考え、生涯にわたって学び続ける知と実践にわたる体系的な教育を行う」「自律して人類の諸問題の解決に立ち向かう、進取の気風を身につけた人材の育成を行う」としており、この目標に向かって学生、教職員共に協働しながら努力しているところです。しかし残念ながら、入学後に将来の夢を持たず、目的意識・学習意欲を失い、留年や退学、また精神的に不安定に陥る学生が増加しているのも事実です。

社会から求められる人材が高度化・多様化する中、教育の目的が豊かで健全な未来社会の実現に貢献できる人づくりであることを考えると、高度で多様な人材の育成のためには、日頃の授業は勿論のこと、学生目線を重視したきめ細かい正課及び正課外の教育支援や学生生活支援が不可欠であり、一人一人の学生に合った適切な指導を行い、学生と共に考えることがわれわれ教職員の責務であります。本報告書が、学生の立場に立った教育改革に活用されることを強く望みます。

最後になりましたが、徳島大学高等教育研究センター学生支援部門学生生活支援室会議の委員の先生方、ご協力いただいたキャンパスライフ健康支援センターおよびキャリア支援部門の先生方、学務部職員の方々には、この調査に関してアンケート項目の設定から調査の実施、集計、結果の分析まで精力的に遂行していただき、早期に報告書を作成していただきました。小野公輔支援室長をはじめとする皆さんに深く感謝申し上げます。また、調査にご協力いただいた学生の皆さんにもこの場を借りて感謝いたします。

令和4年3月

徳島大学理事・副学長（教育担当）
高等教育研究センター長

河村保彦

目 次

まえがき	1
序 章 学生生活実態調査の概要	4
1 調査の目的	4
2 調査の組織	4
3 調査の対象及び方法	4
4 調査の時期	4
5 調査の内容	4
6 略語等の表示等	5
7 調査票の回収状況	5
調査票「令和3年度 学生生活実態調査（学部学生対象）」	7
第1章 住居・通学について	25
1-1 住居区分	25
1-2 1か月の家賃	25
1-3 通学方法	26
1-4 通学時間	27
1-5 通学中の交通事故	27
第2章 収入・支出について	29
2-1 家庭の年収	29
2-2 授業料の免除について（年収が500万円未満の家庭）	29
2-3 保護者からの援助額【自宅外通学者】	30
2-4 1か月の平均支出額【自宅外通学者】	31
2-5 経済状況	31
2-6 奨学金	32
2-7 1週間のアルバイト従事日数	32
2-8 1週間のアルバイト従事時間数	33
2-9 アルバイトと勉強	33
2-10 アルバイトの目的	34
2-11 アルバイトの種類	34
2-12 アルバイト収入	35
2-13 アルバイトのトラブル内容	35
第3章 健康状態について	37
3-1 睡眠時間	37
3-2 気になる症状	38
3-3 喫煙について	39
3-4 飲酒について	40
第4章 食事について	43
4-1 朝食	43
4-2 昼食	44

4-3	夕食	44
4-4	昼食の利用場所	45
第5章	学生生活上の問題点	46
5-1	大学生活の意義	46
5-2	悩みと相談	47
5-3	迷惑行為	49
5-4	大学事務室の対応への満足度	55
5-5	盗難等犯罪被害	56
第6章	修学状況について	58
6-1	本学を選んだ理由と所属学部の満足度	58
6-2	授業の満足度	59
6-3	学修支援制度の利用状況	60
6-4	図書館の利用状況	61
第7章	課外活動について	63
7-1	サークル加入状況	63
7-2	加入の動機	64
7-3	サークルに加入していない理由	65
7-4	学生行事	67
7-5	ボランティア活動	69
	まとめと今後の課題	69
第8章	進路・就職について	70
8-1	進路情報入手手段	70
8-2	就職・進学相談相手	70
8-3	就職・進学希望について	71
8-4	就職先選択で重視するもの	71
8-5	就職情報の入手方法	72
8-6	希望する職種	73
8-7	キャリア形成のための学外活動	73
8-8	キャリア支援室の利用状況	74
第9章	学部の現状と課題	76
9-1	総合科学部	76
9-2	医学部	78
9-3	歯学部	79
9-4	薬学部	83
9-5	理工学部（工学部を含む）	85
9-6	生物資源産業学部	87
第10章	総括と提言	90
	あとがき	93

序章 学生生活実態調査の概要

1 調査の目的

この調査は、本学学生の生活の実状を把握し、今後の福利厚生等の改善並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的として実施した。

2 調査の組織

この調査は、徳島大学高等教育研究センターキャリア支援部門学生支援班学生生活支援室の委員及び協力者が中心となり調査を実施し、分析作業を行った。

区分	氏名	所属	職名
室長	小野 公輔	大学院社会産業理工学研究部	教授
委員	山口 鉄生	大学院社会産業理工学研究部	教授
委員	鶴尾 吉宏	大学院医歯薬学研究部	教授
委員	藤猪 英樹	大学院医歯薬学研究部	教授
委員	滝口 祥令	大学院医歯薬学研究部	教授
委員	音井 威重	バイオイノベーション研究所産業生物系部門	教授
委員	TRAN HOANG NAM	高等教育研究センター学修支援部門国際教育推進班	講師
委員	井ノ崎 敦子	キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門	講師
協力者	武藤 裕則	高等教育研究センターキャリア支援部門	部門長 教授
協力者	井崎 ゆみ子	キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門	センター長 教授

3. 調査の対象及び方法

この調査は、本学に在学する学部学生全員 5,821 人（令和 3 年 11 月 1 日に在籍する者のうち休学者を除いた者）を調査対象とした。

調査方法は、教務システムのアンケート機能を利用し、WEB により実施した。

4. 調査の時期

この調査は、令和 3 年 11 月 1 日から 11 月 12 日まで実施し、11 月 1 日現在の実状について回答を依頼した。

5. 調査の内容

調査項目は、学部学生の生活全般を把握できるように精選した。

6. 略語等の表示等

本報告書中、一部の表記を以下に示すような略語表記として記載した。

また、端末処理の関係で合計が100%にならない場合や、複数回答の場合で実回答者数を母数として、それに対する各設問の回答数を百分率で表したグラフには合計が100%を超えるものがある。

工学部昼間コース	}	→	理工学部・工学部昼間
理工学部昼間コース			
工学部夜間主コース	}	→	理工学部・工学部夜間
理工学部夜間主コース			

平成29年度学生生活実態調査（学部学生） → 前々回調査

令和元年度学生生活実態調査（学部学生） → 前回調査

7. 調査票の回収状況

調査票の回収状況は、調査対象者 5,821 人のうち回答数は 2,453 人で、回収率は 42.1%であった。学部・学科別、学年別、男女別の回収状況は次表のとおりである。

令和3年度学生生活実態調査集計表

<学部・学科別>

学部	学科	対象者数	回収数	回収率 (%)
総合科学部	人間文化学科	2	1	50.0
	社会創生学科	4	3	75.0
	総合理数学科	1	2	200.0
	社会総合科学科	723	325	45.0
	計	730	331	45.3
医学部	医学科	720	292	40.6
	医科栄養学科	203	98	48.3
	保健学科	514	243	47.3
	計	1,437	633	44.1
歯学部	歯学科	242	95	39.3
	口腔保健学科	62	48	77.4
	計	304	143	47.0
薬学部	薬学科	291	152	52.2
	創製薬科学科	124	53	42.7
	計	415	205	49.4

工 学 部	建 設 工 学 科	3	0	0.0
	機 械 工 学 科	7	1	14.3
	化 学 応 用 工 学 科	2	0	0.0
	生 物 工 学 科	0	0	0.0
	電 気 電 子 工 学 科	11	4	36.4
	知 能 情 報 工 学 科	4	0	0.0
	光 応 用 工 学 科	0	0	0.0
	計	27	5	18.5
理 工 学 部	理 工 学 科	2,501	977	39.1
生物資源産業学部	生物資源産業学科	407	159	39.1
合計		5,821	2,453	42.1

<学年別>

学 年	対象者数	回収数	回収率 (%)
1 年	1,372	782	57.0
2 年	1,319	510	38.7
3 年	1,369	564	41.2
4 年	1,358	454	33.4
5 年	195	50	25.6
6 年	208	93	44.7
計	5,821	2,453	42.1

<男女別>

学 部	回収率 (%)		
	男	女	計
総 合 科 学 部	41.0	48.2	45.3
医 学 部	40.0	46.7	44.1
歯 学 部	41.4	51.5	47.0
薬 学 部	46.0	52.6	49.4
工 学 部	20.0	0.0	18.5
理 工 学 部	38.0	47.0	39.1
生物資源産業学部	40.8	37.5	39.1
計	39.2	47.0	42.1

令和3年度 学生生活実態調査(学部学生対象)

令和3年11月
徳島大学

お願い

この調査は、みなさんの学生生活を把握し、今後の福利厚生等の改善並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的として実施するものです。

本調査は、令和3年11月1日現在、本学に在学する学部学生全員を対象に匿名で行います。本学学生の福利厚生・修学指導等の改善に用いる以外の目的で使用することはありませんので、ありのままを正確にお答えください。また、調査結果は3月ごろ徳島大学公式ホームページで公表します。調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

[調査実施期間 11月1日(月)～11月12日(金)]

<回答記入上の注意事項>

- 1 令和3年11月1日現在で記入してください。
- 2 回答内容の該当するものを一つだけ選んでください。ただし、複数回答可を指定している場合は、複数選んでも差し支えありません。
- 3 質問中、回答者を指定している箇所は、指定された人のみ回答してください。

学生生活実態調査票

A. 基本事項について

Q1 【全員】あなたはどちらですか

1. 日本人学生・男
2. 日本人学生・女
3. 留学生・男
4. 留学生・女

Q2 【全員】 所属学部はどこですか

1. 総合科学部
2. 医学部
3. 歯学部
4. 薬学部
5. 工学部（昼間コース）
6. 工学部（夜間主コース）
7. 理工学部（昼間コース）
8. 理工学部（夜間主コース）
9. 生物資源産業学部

Q3 【総合科学部】 学科・コースはどこですか。

1. 人間文化学科
2. 社会創生学科
3. 総合理数学科
4. 社会総合科学科（1年生）
5. 社会総合科学科国際教養コース
6. 社会総合科学科心身健康コース
7. 社会総合科学科公共政策コース
8. 社会総合科学科地域創生コース

Q4 【医学部】 学科・コースはどこですか。

1. 医学科
2. 医科栄養学科
3. 保健学科

Q5 【歯学部】 学科・コースはどこですか。

1. 歯学科
2. 口腔保健学科

Q6 【薬学部】 学科・コースはどこですか。

1. 薬学科
2. 創製薬科学科

Q7 【工学部】 学科・コースはどこですか。

1. 建設工学科
2. 機械工学科

3. 化学応用工学科
4. 生物工学科
5. 電気電子工学科
6. 知能情報工学科
7. 光応用工学科

Q8 【理工学部】 学科・コースはどこですか。

1. 社会基盤デザインコース
2. 機械科学コース
3. 応用化学システムコース
4. 電気電子システムコース
5. 情報光システムコース・情報系
6. 情報光システムコース・光系
7. 応用理数コース
8. 応用理数コース・数理科学系
9. 応用理数コース・自然科学系

Q9 【生物資源産業学部】 学科・コースはどこですか。

1. 生物資源産業学科（1年生）
2. 生物資源産業学科応用生命コース
3. 生物資源産業学科食料科学コース
4. 生物資源産業学科生物生産システムコース

Q10 【全員】 何年生ですか。

1. 1年生
2. 2年生
3. 3年生
4. 4年生
5. 5年生
6. 6年生

B. 住居, 通学について

Q11 【全員】 あなたの住居区分はどれですか。

1. 自宅（家族と同居）
2. アパート・マンション（家族と別居）
3. 学生寮

4. 間借り（下宿）
5. 親戚・知人宅
6. 国際交流会館・日亜会館
7. その他

Q12 【学生寮及び国際交流会館・日亜会館居住者を除く自宅外通学者】 一ヶ月の家賃（電気代，ガス代等諸費用を除く）はいくらですか。

1. 3万円未満
2. 3万円～4万円未満
3. 4万円～5万円未満
4. 5万円～6万円未満
5. 6万円～7万円未満
6. 7万円～8万円未満
7. 8万円以上

Q13 【全員】 あなたの主な通学方法は何ですか。

1. 徒歩
2. 自転車
3. バイク（原付自転車・自動二輪）
4. 自動車
5. バス・JR

Q14 【全員】 通学時間はどのくらいですか。

1. 15分未満
2. 15分～30分未満
3. 30分～1時間未満
4. 1時間～2時間未満
5. 2時間以上

Q15 【全員】 通学中に交通事故をおこしたこと，または交通事故の被害にあったことがありますか。

1. ある
2. ない

C. 収入・支出について

Q16 【全員】 あなたの生計を支援している家庭の年収（税込み）はどれくらいですか。（自活者は自己の年収）

1. 250万円未満
2. 250～500万円未満
3. 500～750万円未満
4. 750～1,000万円未満
5. 1,000～1,500万円未満
6. 1,500万円以上
7. わからない

Q17 【問16で「1」又は「2」を選んだ方（年収500万円未満の家庭）】授業料免除についてお尋ねします。（直近のものでお答えください）

1. 授業料免除は知っているが申請していない
2. 全額免除を受けている
3. 半額免除を受けている
4. 申請したが不許可だった
5. 授業料免除制度を知らなかった

Q18 【自宅外通学者】保護者等からの援助はいくらありますか。

1. 全くない
2. 3万円未満
3. 3～5万円未満
4. 5～7万円未満
5. 7～10万円未満
6. 10～15万円未満
7. 15～20万円未満
8. 20万円以上

Q19 【自宅外通学者】あなたの1か月の平均支出額（授業料支出は除く）はいくらですか。

1. 3万円未満
2. 3～5万円未満
3. 5～7万円未満
4. 7～10万円未満
5. 10～15万円未満
6. 15～20万円未満
7. 20～25万円未満
8. 25～30万円未満
9. 30万円以上

Q20 【全員】現在の経済状況について

1. ゆとりがある（家計支持者からの仕送りのみ）
2. 普通（あまり不自由を感じない）
3. やや苦しい（奨学金あるいは軽度のアルバイトで充足できる）
4. 大変苦しい（定期的なアルバイトが必要である）

Q21 【全員】奨学金を受けていますか。

1. 現在受給中であり、受給の継続を希望する
2. 現在受給中であるが、更に増額を希望する
3. 現在受給中であるが、次は希望しない
4. 現在受給していないが、新たに受給を希望する
5. 現在受給していないし、希望もしない

Q22 【全員】現在、アルバイトをしていますか。1週間の平均従事日数は何日ですか。

1. いいえ
2. 1日
3. 2日
4. 3日
5. 4日
6. 5日以上

Q23 【問22で「2」～「6」を選んだ方】1週間の従事時間は合計何時間ですか。（移動に要する時間も含む）

1. 5時間未満
2. 5～10時間未満
3. 10～15時間未満
4. 15～20時間未満
5. 20～25時間未満
6. 25時間以上

Q24 【問22で「2」～「6」を選んだ方】アルバイトによって勉学に支障が生じていますか。

1. 支障が生じている
2. 支障は生じていない

Q25 【問22で「2」～「6」を選んだ方】アルバイトは主にどのような目的でしていますか。〈複数回答可〉

1. 生活費や学費のため

2. レジャー・旅行費のため
3. 日常の娯楽・嗜好品等のため
4. 高額商品（自動車・パソコン等）購入のため
5. 課外活動費のため
6. 社会体験のため
7. その他

Q26 【問22で「2」～「6」を選んだ方】どのようなアルバイトをしていますか。〈複数回答可〉

1. 家庭教師・学習塾講師等
2. 会場設営・撤収, 搬入搬出
3. 受付・接客
4. イベントスタッフ補助
5. 商品販売
6. 商品等整理・包装
7. 飲食店等手伝い
8. 駐車場整理員
9. 引越しスタッフ
10. その他

Q27 【問22で「2」～「6」を選んだ方】あなたのアルバイトによる収入（1か月平均）はいくらですか。

1. 3万円未満
2. 3～5万円未満
3. 5～7万円未満
4. 7～10万円未満
5. 10～15万円未満
6. 15万円以上

Q28 【問22で「2」～「6」を選んだ方】アルバイトでトラブルを経験したことがありますか。どのようなトラブルですか。〈複数回答可〉

1. ない
2. 給料の不払い
3. 給料が契約より低かった
4. 客とのトラブル
5. 解雇
6. 雇用者との意見の不一致
7. 事故・ケガ

8. その他

D. 健康状態について

Q29 【全員】 1日の睡眠時間は平均何時間ですか。（休日を除く）

1. 4時間未満
2. 4～6時間未満
3. 6～8時間未満
4. 8～10時間未満
5. 10時間以上

Q30 【全員】 現在気になる症状は何ですか。〈複数回答可〉

1. 特にない
2. 頭痛・めまい
3. アトピー・アレルギー
4. 不眠
5. 動悸・不整脈
6. 下痢・便秘
7. 咳・痰
8. 生理痛・生理不順
9. その他

Q31 【問30で「9」を選んだ方】内容を記載して下さい。

（2000文字以内）

--

Q32 【全員】喫煙について

1. 喫煙したことはない
2. ときどき喫煙している
3. 毎日喫煙している
4. 過去に喫煙していたが、現在はしていない
5. その他

Q33 【全員】飲酒について

1. 飲酒はしない
2. たまに飲酒する

3. 1週間に1～2日飲酒している
4. 1週間に3～4日飲酒している
5. 1週間に5日以上飲酒している

Q34 【問33で「4」～「5」を選んだ方】 1回に飲む量はどのくらいですか。（日本酒ならコップ1杯(180ml), ビールなら中瓶1本(500ml)を1合としてお答えください)

1. 1合未満
2. 1合以上2合未満
3. 2合以上3合未満
4. 3合以上4合未満
5. 4合以上5合未満
6. 5合以上

D. 食事について

Q35 【全員】 朝食を取りますか。

1. 毎日食べる
2. 時々食べる
3. ほとんど食べない

Q36 【全員】 昼食を取りますか。

1. 毎日食べる
2. 時々食べる
3. ほとんど食べない

Q37 【全員】 夕食を取りますか。

1. 毎日食べる
2. 時々食べる
3. ほとんど食べない

Q38 【全員】 昼食は主にどこを利用していますか。

1. 常三島第1食堂（生協）
2. 常三島第2食堂（工学部構内）
3. 蔵本会館食堂
4. 弁当を購入
5. 自宅（下宿）
6. その他

F. 学生生活上の問題点

Q39 【全員】あなたは、大学生活で何を重視した生活をしていますか。

1. 勉強や研究
2. サークル活動
3. 趣味・娯楽
4. 豊かな人間関係を結ぶこと
5. 将来を考えた資格等の取得
6. アルバイト
7. 明確な目的はない
8. その他

Q40 【全員】現在悩みや不安はありますか。それは主にどんなことですか。〈複数回答可〉

1. ない
2. 経済状態
3. 勉学
4. 交友・異性関係
5. 身体的不調
6. 家族関係
7. 自分の性格
8. 就職や進路
9. 生き甲斐や目標
10. その他

Q41 【全員】悩み事は誰に相談しますか。〈複数回答可〉

1. 友人
2. 家族
3. クラス担任・指導教員
4. 担任・指導教員以外の教員
5. キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門(学生相談室)
6. 学務(教務)係
7. その他
8. 誰にもしない

Q42 【全員】あなたは、これまで迷惑行為を受けたことがありますか。〈複数回答可〉

1. 受けたことはない
2. 悪徳商法に引っかかった
3. いたずら電話を受けた

4. ストーカーにあった
5. 大学内でセクハラを受けた
6. 大学内でアカハラを受けた（アカハラとは、大学などで、指導教員等が学生に対し、教育・研究活動への妨害を含めた学習・研究上の嫌がらせを継続的に行うこと）
7. サークルを辞めようとしたが、辞めさせてもらえなかった
8. サークル内でいじめ（嫌がらせを含む）を受けた
9. カルトの勧誘を受けた
10. その他

Q43 【問42で「2」～「10」を選んだ方】内容を記載して下さい。

（2000文字以内）

Q44 【問42で「5」又は「6」を選んだ方】誰に相談しましたか。

1. 友人
2. 家族
3. クラス担任・指導教員
4. 担任・指導教員以外の教員
5. キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門(学生相談室)
6. 学務（教務）係
7. その他
8. 誰にもしない

Q45 【全員】キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門(学生相談室)を利用したことがありますか。

1. 利用したことがある
2. 総合相談部門(学生相談室)があるのは知っているが、利用したことはない
3. 総合相談部門(学生相談室)があるのを知らない

Q46 【全員】大学事務室の対応に満足していますか。

1. 満足している
2. ほぼ満足している
3. やや不満足である
4. 不満足である

Q47 【全員】あなたは、入学以来、盗難（盗み）、強盗、傷害、痴漢事件の被害に遭ったことがありますか。〈複数回答可〉

1. 被害に遭ったことはない
2. 盗難（盗み）
3. 強盗
4. 傷害
5. 痴漢
6. その他

Q48 【問47で「2」～「6」を選んだ方】あなたは、どこで被害に遭いましたか。〈複数回答可〉

1. 大学構内
2. 自宅, アパート
3. 路上
4. その他

G. 修学状況について

Q49 【全員】あなたが本学を選んだ主な動機は何ですか。〈複数回答可〉

1. 地元の大学だから
2. 親や親戚に進められたから
3. 高校の進学指導による
4. 希望する学部・学科があったから
5. 就職等将来を考慮して
6. 国立大学だから
7. ただ何となく
8. 先輩や友人に勧められて
9. その他

Q50 【全員】あなたは所属している学部・学科に満足していますか。

1. 満足している
2. ほぼ満足している
3. やや不満足である
4. 不満足である

Q51 【全員】あなたは、受講している授業に満足していますか。

1. 満足している
2. ほぼ満足している
3. やや不満足である
4. 不満足である

Q52 【問51で「3」、「4」を選んだ方】授業が満足できない理由は何ですか。〈複数回答可〉

1. 授業内容が難し過ぎて理解できない
2. 授業内容がつまらない
3. 教員の教え方に工夫が足りない
4. 受講者が多すぎて精神集中できない
5. 休講が多すぎる
6. 試験・レポートが多すぎる
7. 単位認定が厳しすぎる
8. その他

Q53 【全員】オフィスアワーを利用したことがありますか。

1. 利用したことがある
2. オフィスアワーがあるのは知っているが、利用したことはない
3. オフィスアワーがない
4. オフィスアワーについて知らない

Q54 【問53で「2」を選んだ方】オフィスアワーを利用しない主な理由は何ですか。

1. 講義内容を充分理解できるのでその必要がない
2. オフィスアワーの時間が短く利用しにくい
3. オフィスアワーの時間以外にいつでも利用できる
4. 教員に相談するのが面倒である
5. 講義の理解は充分ではないが、どのように質問してよいか分からない
6. その他

Q55 【全員】あなたは現在のクラス担任制度に満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

Q56 【問55で「3」「4」を選んだ方】理由を記載して下さい。

(2000文字以内)

--

Q57 【全員】図書館にどのくらいの頻度で来館（実際に登校して入館すること）しますか。

1. ほぼ毎日来館している

2. 1週間に2～3回くらい来館する
3. 1週間に1回程度来館する
4. 2週間に1回程度来館する
5. 1か月に1回程度来館する
6. 半年に1回程度来館する
7. 1年に1回程度か、それ以下の来館頻度である

Q58 【全員】図書館を利用する主な目的は何ですか（オンライン等の非来館利用も含む）。（複数回答可）

1. 図書等の貸し出し
2. 図書等の閲覧やコピー
3. 自習
4. グループ研究（学習）
5. パソコンの利用
6. 電子ジャーナル・データベース
7. 授業等の間の時間調整
8. その他

Q59 【全員】図書館のサービス（施設設備、図書・雑誌、電子ジャーナル等）に対する満足度はどの程度ですか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

Q60 【問59で「3」「4」を選んだ方】理由を記載して下さい。

（2000文字以内）

H. 課外活動について

Q61 【全員】学内外のサークル（以下同好会を含む）に加入していますか。（文化系、体育系及びサポート系サークルで、2つ以上に加入している人は、主として活動している方に回答してください）

1. 学内の文化系サークルに加入している
2. 学内の体育系サークルに加入している
3. 学内のサポート系サークルに加入している

4. 学外の文化系サークルに加入している
5. 学外の体育系サークルに加入している
6. 学外のサポート系サークルに加入している
7. 以前加入していたが現在は加入していない
8. 加入したことがない

Q62 【問61で「1」～「6」を選んだ方】サークルに加入した主な動機は何ですか。

1. サークルの活動内容に魅力があったから
2. 集団活動に魅力があったから
3. 友人を得るため
4. 先輩・友人に勧められたから
5. 学生生活を豊かにするため
6. 健康増進のため
7. 自分の特技を伸ばすため
8. 自分の短所を補うため
9. その他

Q63 【問61で「7」, 「8」を選んだ方】サークルに加入していない主な理由は何ですか。

1. 学業の妨げとなる
2. 練習がいやである
3. 活動するための体力・能力に自信がない
4. 個人の自由が束縛される恐れがある
5. 集団生活についていけない
6. アルバイトをしているので時間的余裕がない
7. 通学に時間がかかるので時間的余裕がない
8. 個人の金銭的負担が多すぎる
9. 魅力的なサークルがない
10. 特に理由はないが何となく

Q64 【全員】新入生歓迎会や大学祭などの学生行事について、どのように考えていますか。

1. 必要だと考えており積極的に参加している
2. 必要だと思うがあまり参加していない
3. どちらでもいい
4. なくてもいい

Q65 【全員】あなたは、大学入学後ボランティア活動をしたことがありますか。

1. 個人でしたことがある

2. 団体（組織）に入っていたことがある
3. ない

I. 進路・就職について

Q66 【全員】進路を考える上での情報入手手段は何ですか。〈複数回答可〉

1. 指導教員
2. 就職担当教員
3. 先輩・知人
4. 直接会社に照会
5. 就職情報誌・新聞・マスコミ
6. 家族等
7. 大学内資料
8. インターネット
9. キャリア支援室の情報
10. その他

Q67 【全員】進路、就職について信頼できる相談相手は誰ですか。〈複数回答可〉

1. 家族等
2. 教員
3. 職員
4. 知人・先輩
5. その他
6. 相談相手はいない

Q68 【全員】就職希望ですか。進学希望ですか。

1. 就職
2. 進学
3. その他

Q69 【問68で「1」を選んだ方】就職先選択で重視するものは何ですか。〈複数回答可〉

1. 収入
2. 就職先の将来性・安定性
3. 就職先の社会的評価
4. 能力を発揮できること
5. 勤務地の地理的条件
6. 研究評価をしてくれるところ
7. 先端技術を駆使しているところ

8. 人間関係の良いこと
9. その他

Q70 【問68で「1」を選んだ方】就職に際して、会社等の情報をどのように入手しましたか。

〈複数回答可〉

1. 就職担当教員
2. キャリア支援室の情報又は就職相談員
3. 新聞・就職情報誌
4. インターネット
5. ダイレクトメール
6. 直接会社等に照会
7. 会社等説明会
8. 先輩・知人
9. 家族等
10. その他

Q71 【問68で「1」を選んだ方】希望職種は何ですか。〈複数回答可〉

1. 大学・官公庁の教育・研究職
2. 1以外の公務員
3. 技術職
4. 企業等の研究職
5. 総合職・営業職
6. 事務職
7. 教育職
8. 専門職（医師・看護師等）
9. マスコミ関係
10. その他

Q72 【全員】社会人になるために必要なキャリア形成を目的として、学外で関わりをもったものに該当する項目は何ですか？〈複数回答可〉

1. ボランティア
2. インターンシップ
3. 留学
4. 起業
5. キャリア形成を意識したアルバイト
6. その他（キャリア形成を意識した社会人との交流）
7. その他（キャリア形成を意識した他大学学生との交流）

8. なし

Q73 【全員】 本学のキャリア支援室を利用したことがありますか。

1. 現在も利用している
2. 以前に利用したことがある
3. 利用したことがない

ご協力ありがとうございました

第1章 住居・通学について

1-1 住居区分 (図1-1)

全体として最も多いのが、アパートとマンション（58%）、次に自宅（29%）である。続いて、間借り（下宿）（11%）、学生寮（2%）となっている。全体として前回調査とほとんど同じである。自宅の割合は、学部別では、総合科学部（47%）と理工学部・工学部夜間（40%）が高く、薬学部（19%）が最も低い。医学部、歯学部、理工学部・工学部昼間、生物資源産業学部での自宅の割合は、25～34%である。総合科学部と理工学部・工学部夜間では、自宅の割合が40～47%であることから、この2つの学部では徳島県出身者が半数近くを占めると考えられる。

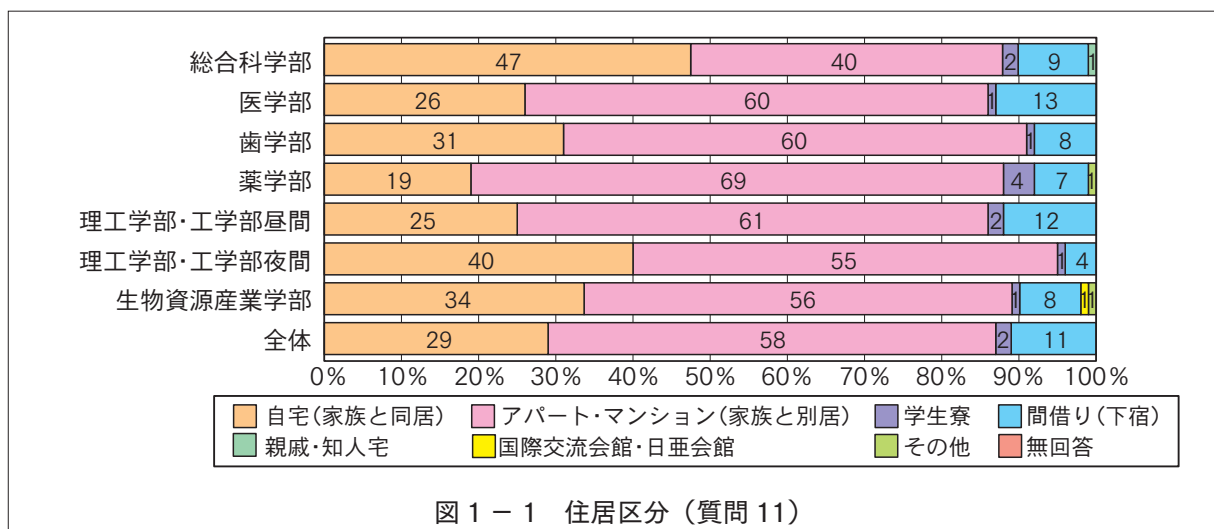


図1-1 住居区分 (質問11)

1-2 1か月の家賃 (図1-2)

全体として5万円未満の割合が79%であり、前回調査から4ポイント減少しているが、家賃に対する支出はここ数年ほぼ同じ割合を示している。

学部によって家賃支出の割合は異なり、総合科学部、薬学部、理工学部・工学部（昼間、夜間）、生物資源産業学部では4万円未満の物件の割合が多いが、医学部、歯学部では4万円以上の物件が半数を

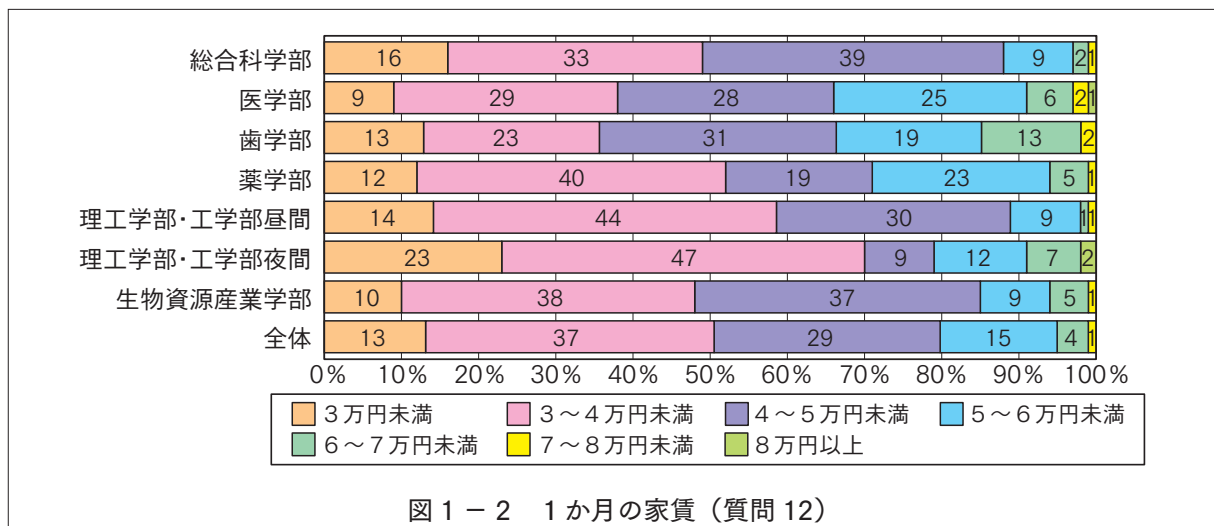


図1-2 1か月の家賃 (質問12)

超えている。これは、蔵本周辺の家賃相場や学生の家庭状況と関連するのかもしれない。医学部、歯学部の家賃支出は他の学部比べて高い傾向にあるが、主に5万円～7万円未満の価格帯の割合が他学部と比べて高い傾向にあることがその要因となっている。

1-3 通学方法 (図1-3①, 図1-3②)

全体として自転車の割合が73%で、前回調査と同様に自転車が主要な通学手段である。徒歩、バス・JR、バイク、自動車通学については、各学部とも、数%あるいは20%以下の割合である。学部別では、バス・JRの利用者の割合が、県内出身者の多い総合科学部(16%)、生物資源産業学部(13%)でやや高く、各学部とも、徒歩の割合が6～14%、自動車の割合が5～11%である。男女別では、前回調査と同じく、男子、女子ともに自転車を利用する割合が最も高く(男子76%、女子69%)、男子では、徒歩、バス・JR、自動車、バイクと続き、女子では、自動車あるいはバス・JR、徒歩、バイクの順である。

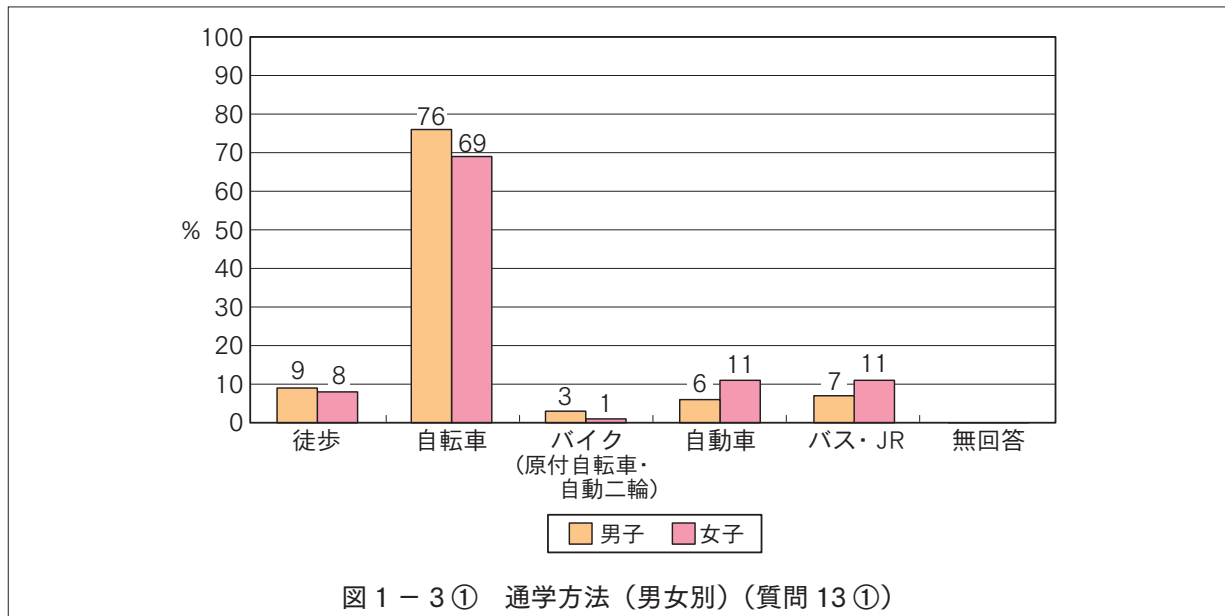


図1-3① 通学方法 (男女別) (質問13①)

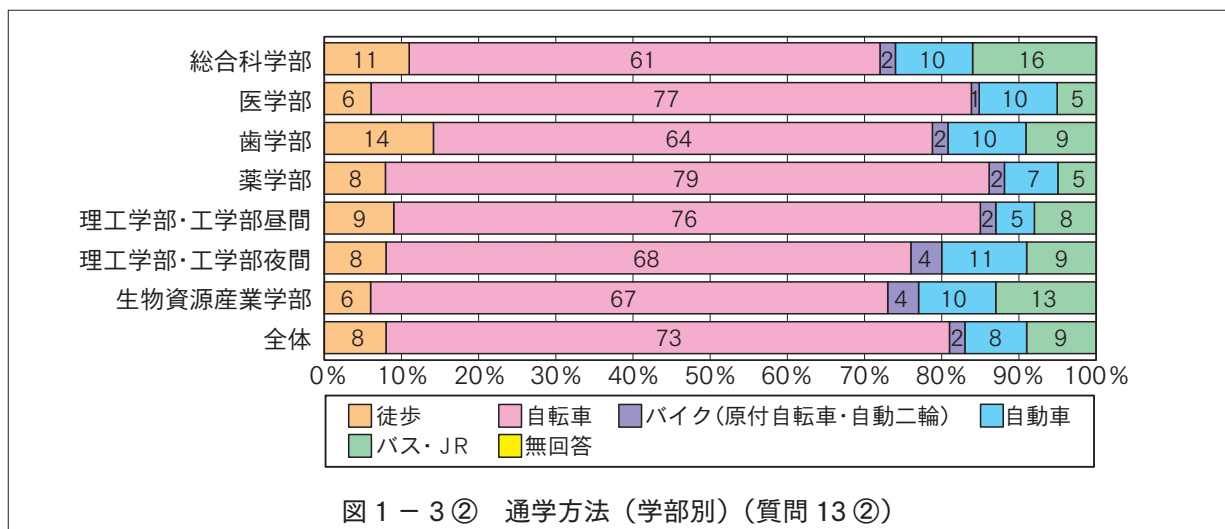


図1-3② 通学方法 (学部別) (質問13②)

1-4 通学時間 (図1-4①, 図1-4②)

全体として通学時間の割合は、15分未満が64%で最も高く、15分～30分未満を合わせると81%であり、多くの学生の通学時間は30分未満と短く、1時間未満を合わせると94%の学生が含まれる。学部別では、通学時間が30分以上の割合が、総合科学部(29%)、理工学部・工学部夜間、生物資源産業学部(28%)で、他学部よりも高い。これは、アンケート項目1-1で、これら3つの学部では自宅から通学する学生の割合が高いことと関係すると思われる。男女別で、通学時間が15分以上である回答では、前回調査と同じく女子の割合が男子より少し高いが、自宅から通学する割合が女子に高いことと関係するのかもしれない。

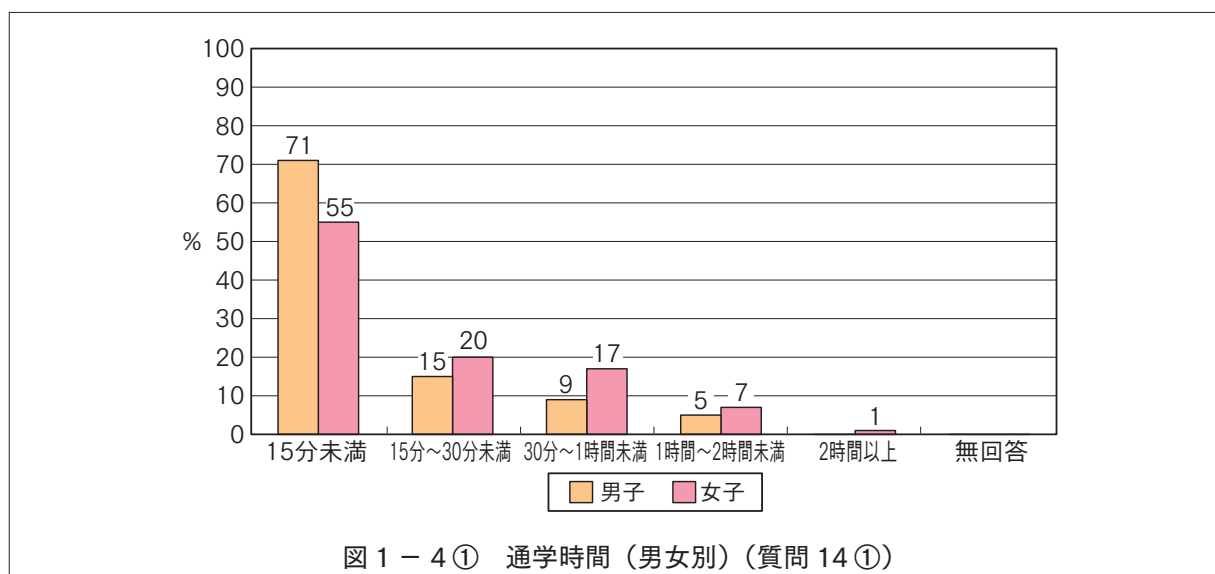


図1-4① 通学時間 (男女別) (質問14①)

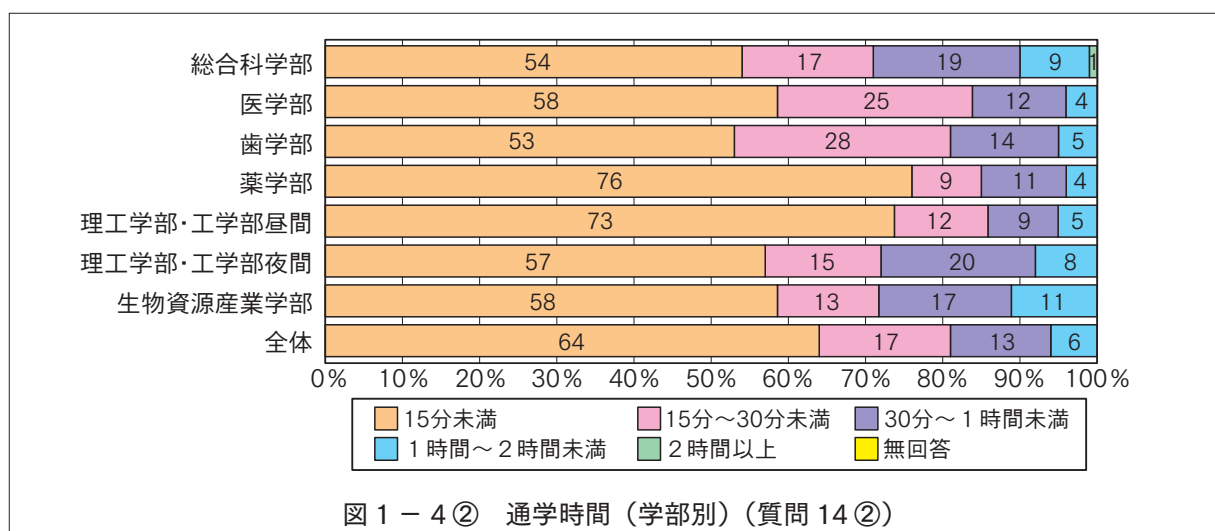


図1-4② 通学時間 (学部別) (質問14②)

1-5 通学中の交通事故 (図1-5①, 図1-5②)

交通事故を起こしたかあるいは被害に遭った学生の割合は、全体として5%であり、前回調査と比べて半減している。学部別では、歯学部で14%あり、他学部(3～8%)と比べると割合がやや高い。男女別では、男子、女子ともに同様の結果であった。平成27年6月に改正道路交通法が施行されて自転車に対する規制が厳格化されており、学生の約70%が自転車通学していることを考慮して、自転車通学者を含めて交通安全の指導を継続して十分に行うことが必要である。

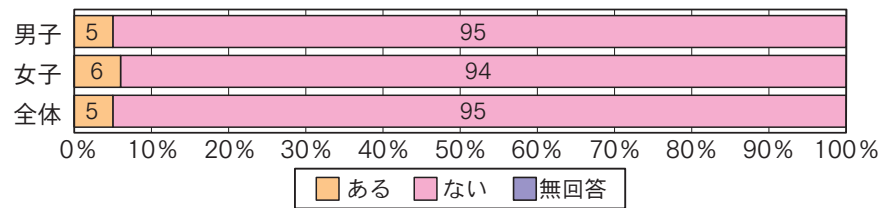


図 1 - 5 ① 通学中の交通事故 (男女別) (質問 15 ①)

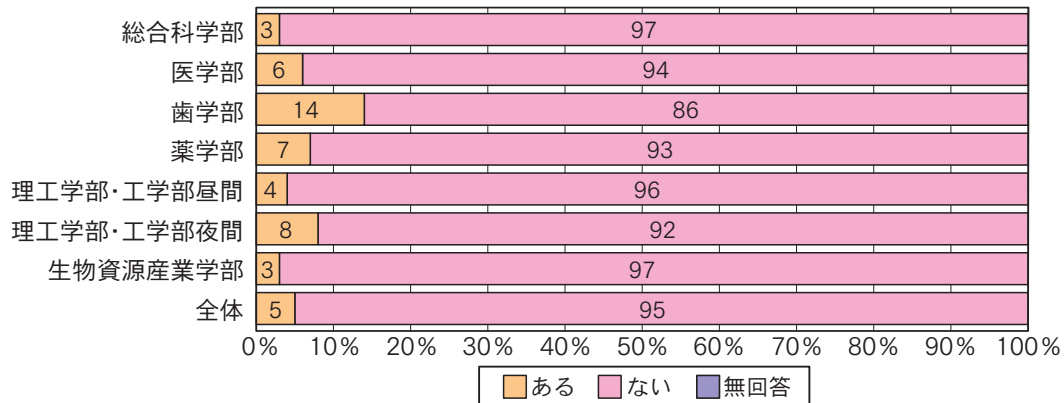


図 1 - 5 ② 通学中の交通事故 (学部別) (質問 15 ②)

第2章 収入・支出について

2-1 家庭の年収 (図2-1)

家庭の年収について、大学全体では250万円未満(8%), 250～500万円(11%), 500～750万円(14%), 750～1,000万円(13%), 1,000～1,500万円(7%), 1,500万円以上(4%)である。前回の調査と比べて、500万円未満の割合が減少しているが、わからないと回答した割合が40%前後と高く、家庭の年収の推移を評価は難しい。

学部別にみると前回の調査と同様、歯学部や医学部、薬学部学生の家庭は1,000万円以上の家庭が10%を超えており高収入な傾向がうかがえる。一方、理工学部・工学部夜間は年収250万円未満の家庭の割合が最も多く(23%)、250～500万円未満の家庭も21%と他学部に比べ多い。

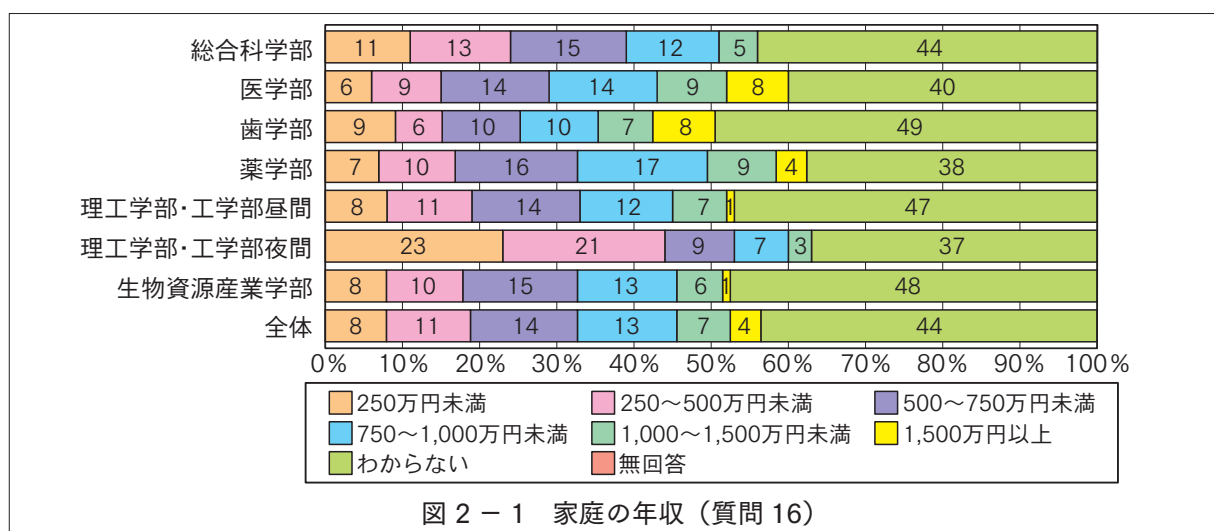


図2-1 家庭の年収 (質問16)

2-2 授業料の免除について (年収が500万円未満の家庭)

(図2-2①, 図2-2②)

授業料の免除状況について、年収が250万円未満の家庭では、「授業料免除は知っているが申請していない」が28%で前回調査(36%)と前々回調査(35%)よりも減少し、「授業料免除を受けている」割合は60%で、前回調査(54%)よりも6%増加している。また、「申請したが不許可だった」が7%であり、前回調査(8%)よりも減少している。「授業料免除制度を知らなかった」割合は6%で、前回調査(2%)より増加しており、学生に授業料免除制度の周知徹底されていないことが伺える。制度を知らないことは学生にとって不利益である。また、収入的には授業料免除対象であっても、成績が加味されて不許可になる場合がある。収入を得るためにアルバイト等に多くの時間を費やし、勉学に専念できず、結果、成績不振となり、免除不許可になるといった負のサイクルの可能性が考えられる。

年収が250～500万円未満の家庭では、「授業料免除は知っているが申請していない」が40%で前回調査(51%)よりも減り、「授業料免除を受けている」割合は37%と前回調査(32%)よりも増加し、「申請したが不許可だった」が12%で前回調査(10%)よりも増加した。「授業料免除制度を知らなかった」割合は12%で、前回調査7%よりも増加し、まだ学生に対する周知の徹底が必要である。

学部別にみると、「授業料免除は知っているが申請していない」が31～43%であり、前回調査(39～100%)にくらべ、減少傾向にある。「授業料免除を受けている」割合が最も高いのは理工学部・工

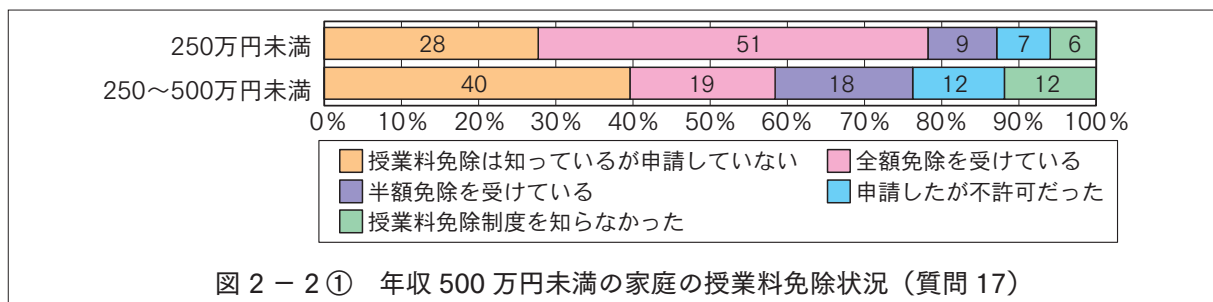


図 2 - 2 ① 年収 500 万円未満の家庭の授業料免除状況 (質問 17)

学部昼間の 52% で、最も小さいのは歯学部の 34% である。「申請したが不許可だった」割合は、歯学部 (24%) が突出して高く、総合科学部 (13%)、医学部 (12%) と生物資源産業学部 (11%) が高かった。「授業料免除制度を知らなかった」のは総合科学部 (14%)、薬学部 (12%) が高く、改めて制度の周知徹底が重要である。

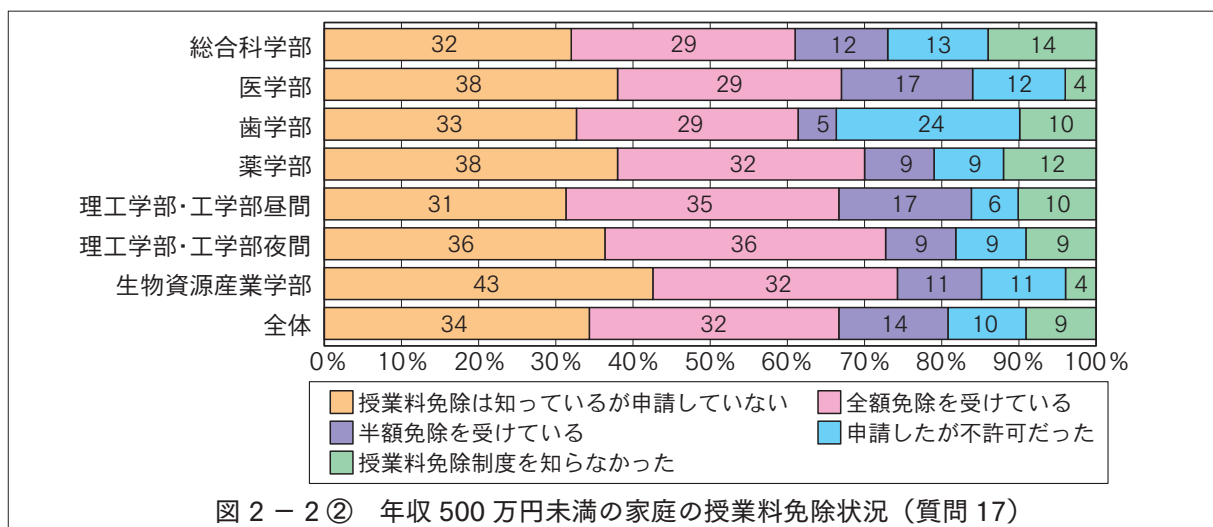


図 2 - 2 ② 年収 500 万円未満の家庭の授業料免除状況 (質問 17)

2 - 3 保護者からの援助額【自宅外通学者】 (図 2 - 3)

自宅外通学者の保護者からの援助額は、大学全体として最も多い区分は 3 ～ 5 万円未満 (32%) であり、前回調査 (32%) と同じ割合である。続いて 3 万円未満 (18%)、5 ～ 7 万円未満 (17%) で前回調査とほぼ同様である。「援助が全くない」学生は 11% であり、前回調査 (12%) よりもわずかに減少した。一方、10 万円以上の援助を受けている学生は 10% で、前回調査 (6%) よりも増加した。

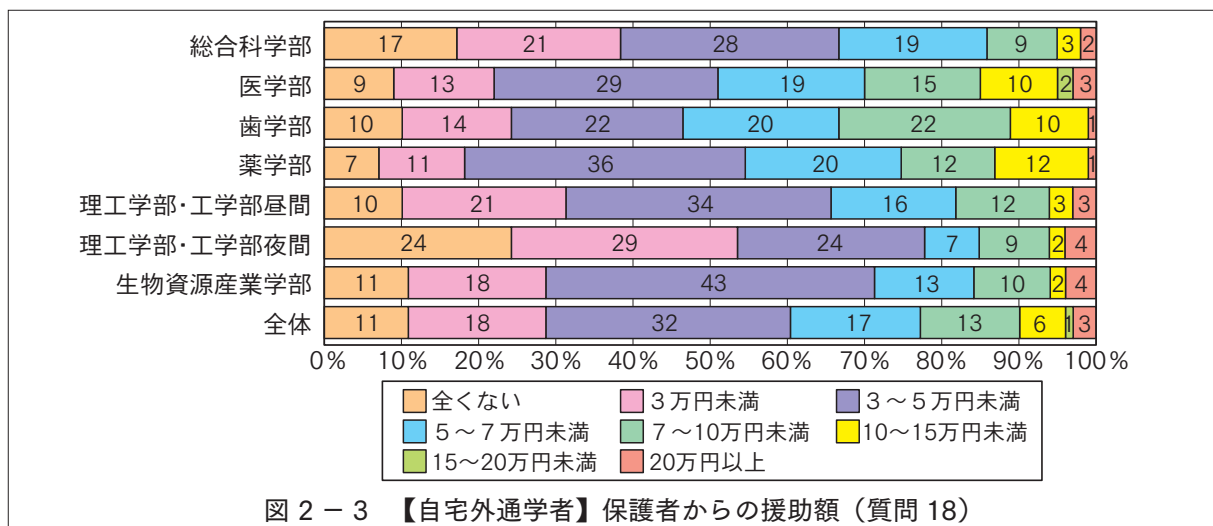


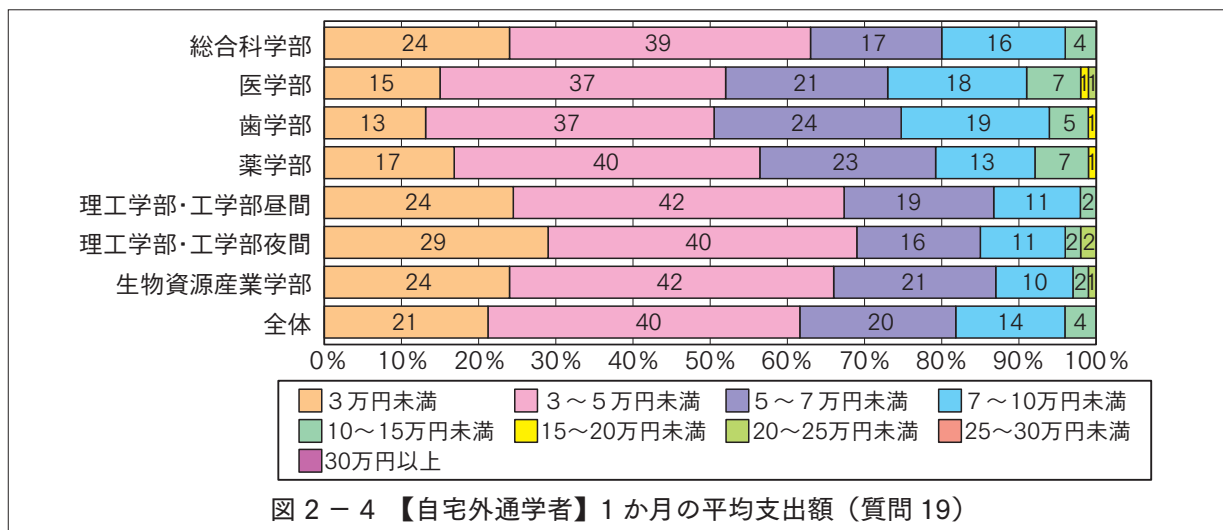
図 2 - 3 【自宅外通学者】保護者からの援助額 (質問 18)

学部別にみると、医学部、歯学部と薬学部で7万円以上保護者から援助を受けている学生の割合はそれぞれ30%、33%、25%であり、他学部に比べ高い。一方、理工学部・工学部夜間の24%は援助を全く受けていない。援助のボリュームゾーンは全学部を通して3～5万円未満の区分であり、理工学部・工学部夜間のみが3万円未満がボリュームゾーンである。

2-4 1か月の平均支出額【自宅外通学者】(図2-4)

自宅外通学者の1か月の平均支出額(授業料支出は除く)は、大学全体として最も多い区分は3～5万円未満(40%)で、前回調査(33%)より高くなった。続いて3万円未満(21%)、5～7万円未満(20%)と7～10万円未満(14%)であり、前回調査と比べて3万円未満の支出の区分の割合が高くなった。10万円以上の平均支出額も4%であり、前回調査(7%)と比べ約半減した。このことから学生がより堅実な生活にシフトしていることが伺える。

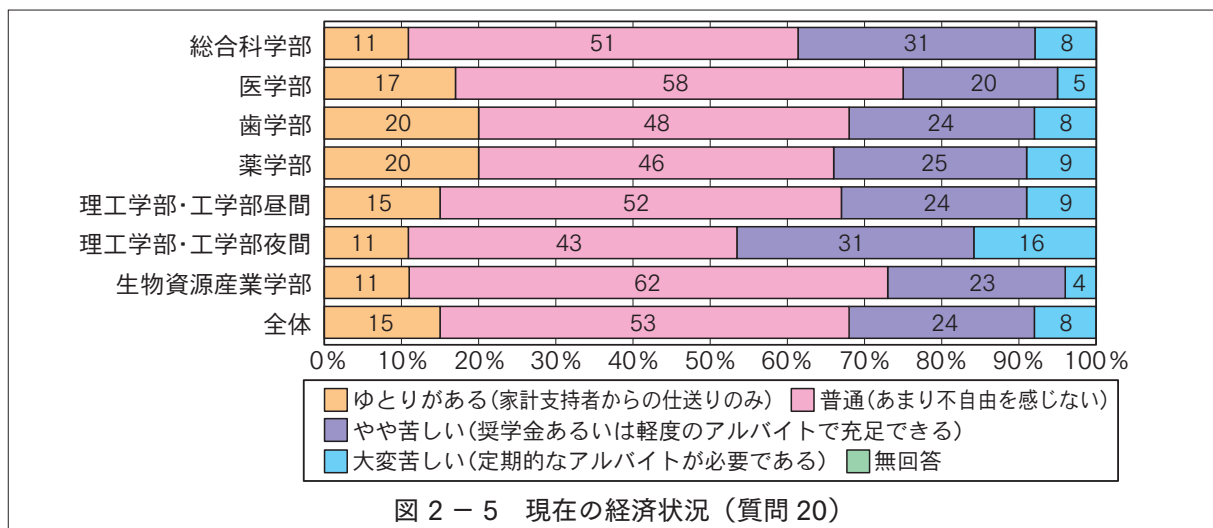
学部別では、医学部、歯学部、薬学部で1か月に7万円以上支出している学生は、それぞれ27%、25%、21%であり他学部よりも多いが、これらの学部は高額な教科書購入などもその一因と考えられる。一方、総合科学部、理工学部・工学部、生物資源産業学部は、5万円未満の平均支出額の区分が60%以上となっており、他学部と比べ高くなっている。とくに3万円未満の区分が多いのは、理工学部・工学部夜間(29%)であり、これらの学生は支出を切り詰めていると考えられ、何らかの支援対策が必要と思われる。



2-5 経済状況(図2-5)

この項目からは自宅通学者も含めた全員が対象である。大学全体として32%の学生が、経済状況が「苦しい」と感じている(「やや苦しい」24%、「大変苦しい」8%)。一方、半数は「普通(あまり不自由を感じない)」と、15%は「ゆとりがある(家計支持者からの仕送りのみ)」と回答した。これらの割合は、前回調査の結果(それぞれ23%、10%、50%、16%)とほぼ同様であった。

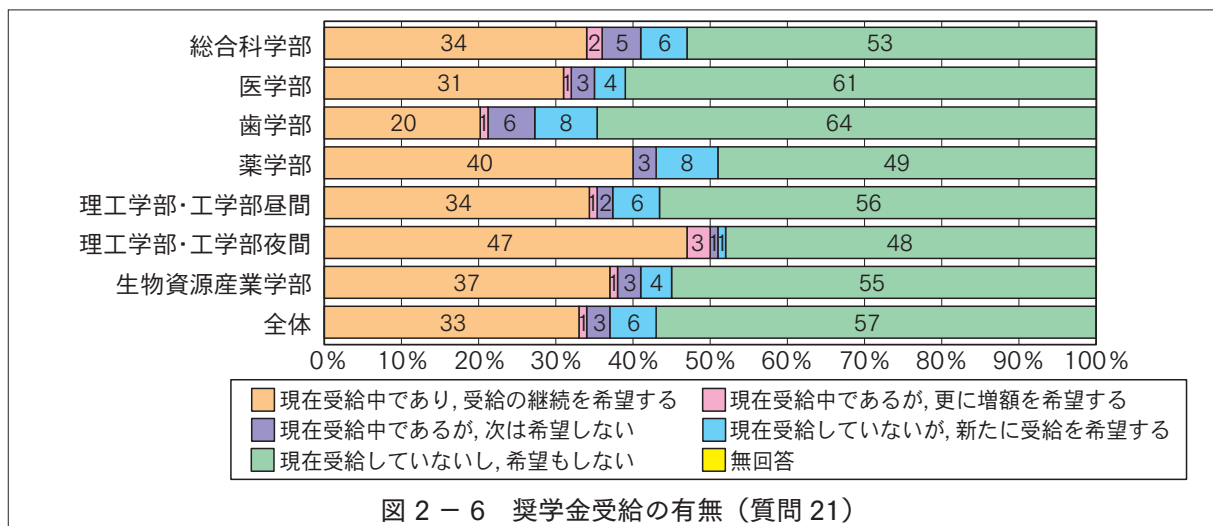
学部別では、理工学部・工学部夜間の16%が「大変苦しい」と回答し、前回調査(16%)と同様高止まりである。いずれの学部も「やや苦しい」は20～31%であり、学生の生活への継続した目配りが必要と考える。



2 - 6 奨学金 (図 2 - 6)

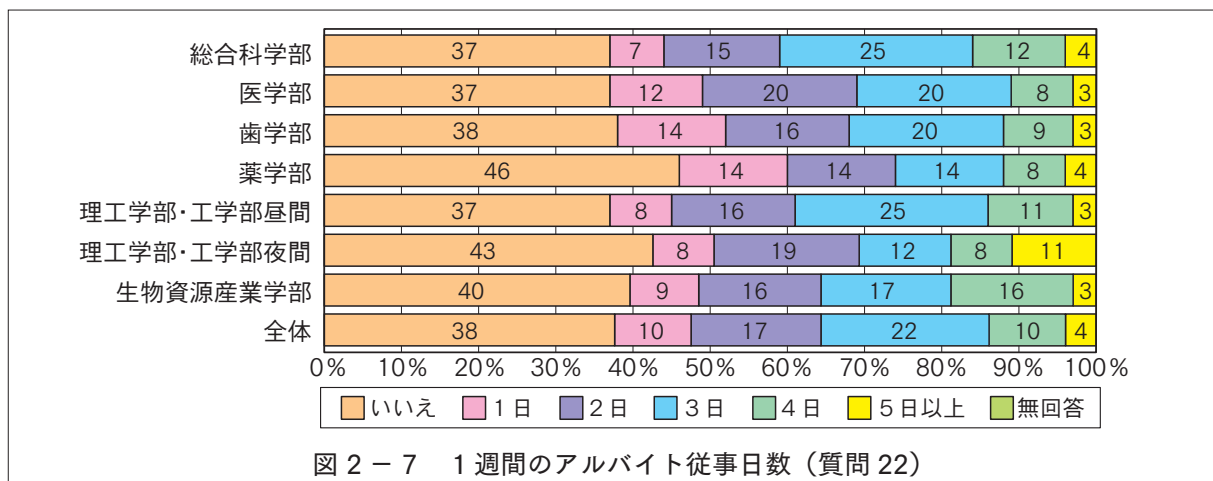
大学全体としては、57%の学生は「現在受給していないし、希望もしない」。一方、33%は「現在受給中であり、受給の継続を希望する」と回答し、これに「現在受給中であるが、更に増額を希望する」1%と、「現在受給していないが、新たに受給を希望する」6%を加えると、合計で40%になり、すなわち約4割の学生は奨学金の受給を今後も希望している。

学部別では、理工学部・工学部夜間の51%は奨学金を受給しており、他学部と比べて多い。医学部や歯学部では奨学金の受給を希望しない者の割合はいくぶん高い傾向にある（それぞれ61%、64%）。



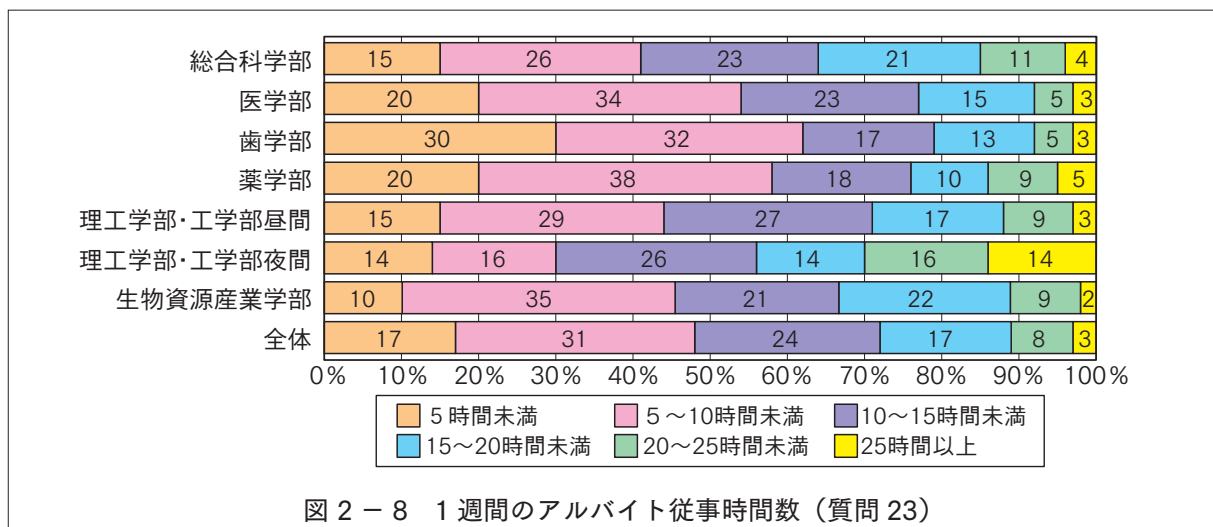
2 - 7 1週間のアルバイト従事日数 (図 2 - 7)

アルバイトをしている割合は学生全体の62%であった。学部別に見ると、総合科学部、医学部、理工学部・工学部昼間が63%と最も高く、逆に薬学部では54%と最も低かった。週4日以上アルバイトしている学生の比率は全体の14%であり、学部別では理工学部・工学部夜間と生物資源産業学部がともに19%と高く、次いで総合科学部が16%であった。一方、医学部、歯学部、薬学部では週4日以上アルバイトの学生の比率はそれぞれ11%～12%と低かった。



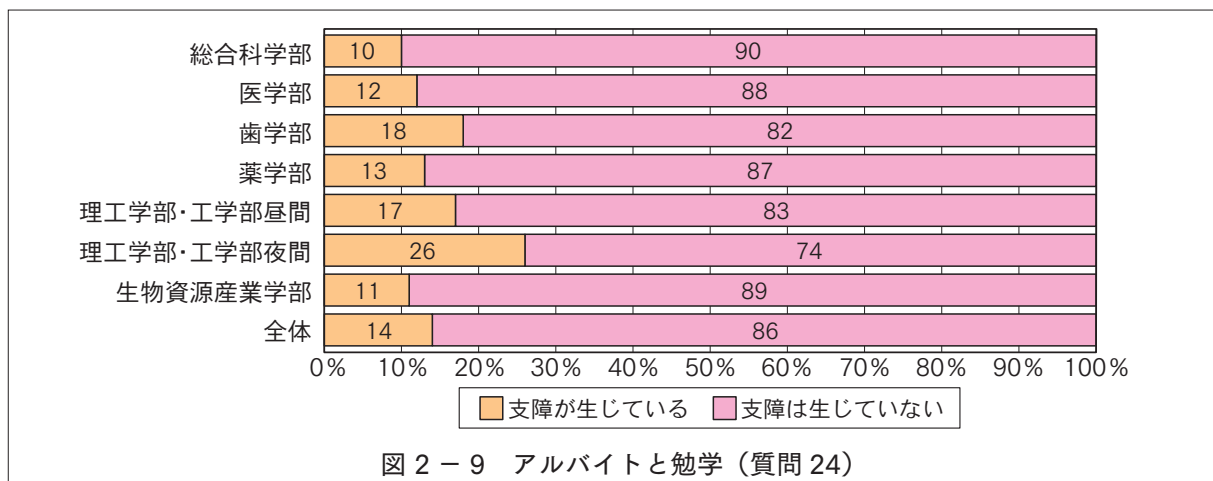
2-8 1週間のアルバイト従事時間数 (図 2-8)

1週間のアルバイト従事時間は全体で、5時間未満が17%、5～10時間未満が31%、10～15時間未満が24%、15～20時間未満が17%、20～25時間未満が8%、25時間以上が3%であった。この全体の結果と比べて、5時間以上の従事時間の割合が高かったのは、生物資源産業学部90%、理工学部・工学部夜間86%であった。20時間以上の従事時間について見てみると、理工学部・工学部夜間が30%と目立っていた。一方、歯学部、医学部、薬学部では10時間未満の従事時間の割合が高かった。



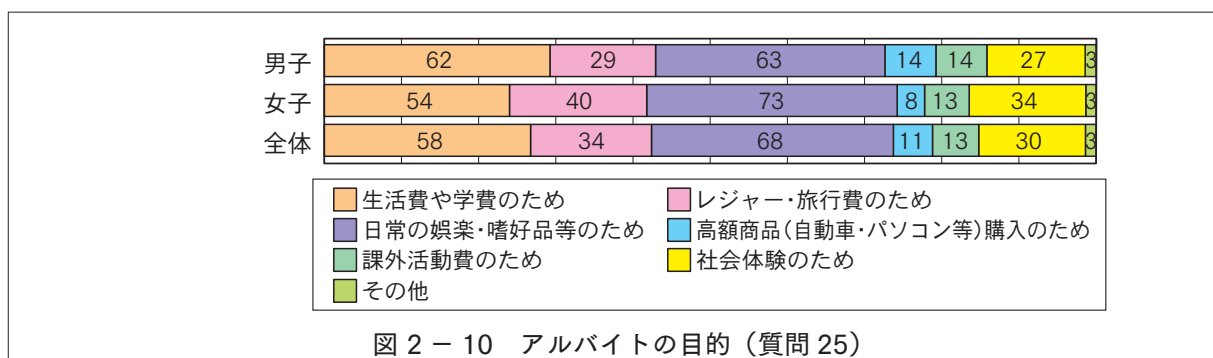
2-9 アルバイトと勉学 (図 2-9)

アルバイトによって勉学に支障が生じている学生の割合は全体で14%、生じていない学生の割合は86%であった。勉学に支障が生じているのは理工学部・工学部夜間(26%)、歯学部(18%)、理工学部・工学部昼間(17%)の順に高かった。一方、総合科学部、医学部、薬学部、生物資源産業学部では支障を生じている学生の比率は低かった。理工学部・工学部で勉学に支障が生じている学生の割合が高い結果となった。



2-10 アルバイトの目的 (図 2-10)

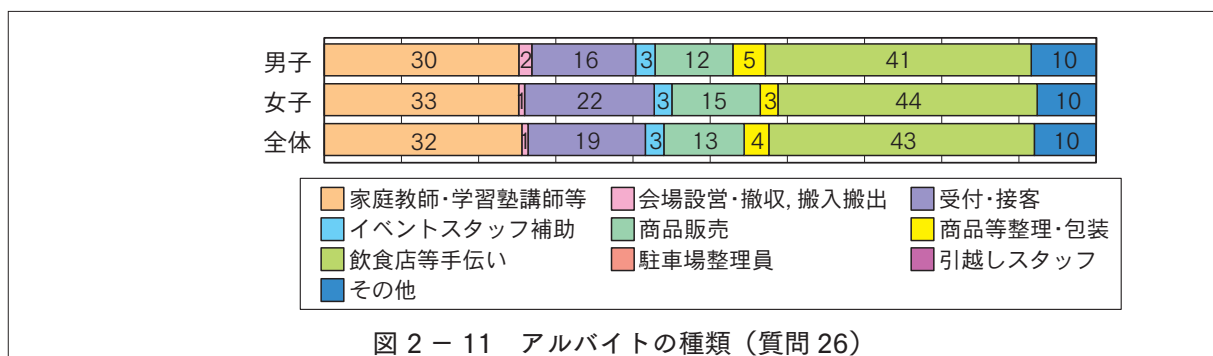
アルバイトの目的 (複数回答可) は、学生全体では「日常の娯楽・嗜好品などのため」が68%で最も多く、次いで「生活費や学費のため」が58%、「レジャー・旅行費のため」が34%である。男女別にみても全体の結果とほぼ類似した傾向であるが、男子と比べて、女子では「日常の娯楽・嗜好品などのため」、「レジャー・旅行費のため」「社会体験のため」の割合が高かった。一方、女子と比べて、男子では「生活費や学費のため」の割合が高かった。



(※問 25 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

2-11 アルバイトの種類 (図 2-11)

アルバイトの内容 (複数回答可) は、全体では「飲食店等手伝い」が43%で最も多く、次いで「家庭教師・学習塾講師等」が32%、「受付・接客」が19%、「商品販売」が13%であった。男女別にみて



(※問 26 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

も同様の傾向であった。

2-12 アルバイト収入 (図2-12①, 図2-12②)

アルバイトによる収入は、大学全体では「3～5万円未満」が最も多く40%、次いで「3万円未満」が28%、「5～7万円未満」が22%であった。10万円以上は1%であった。男女別、学部別にみても全体の結果とほぼ同様の傾向であった。

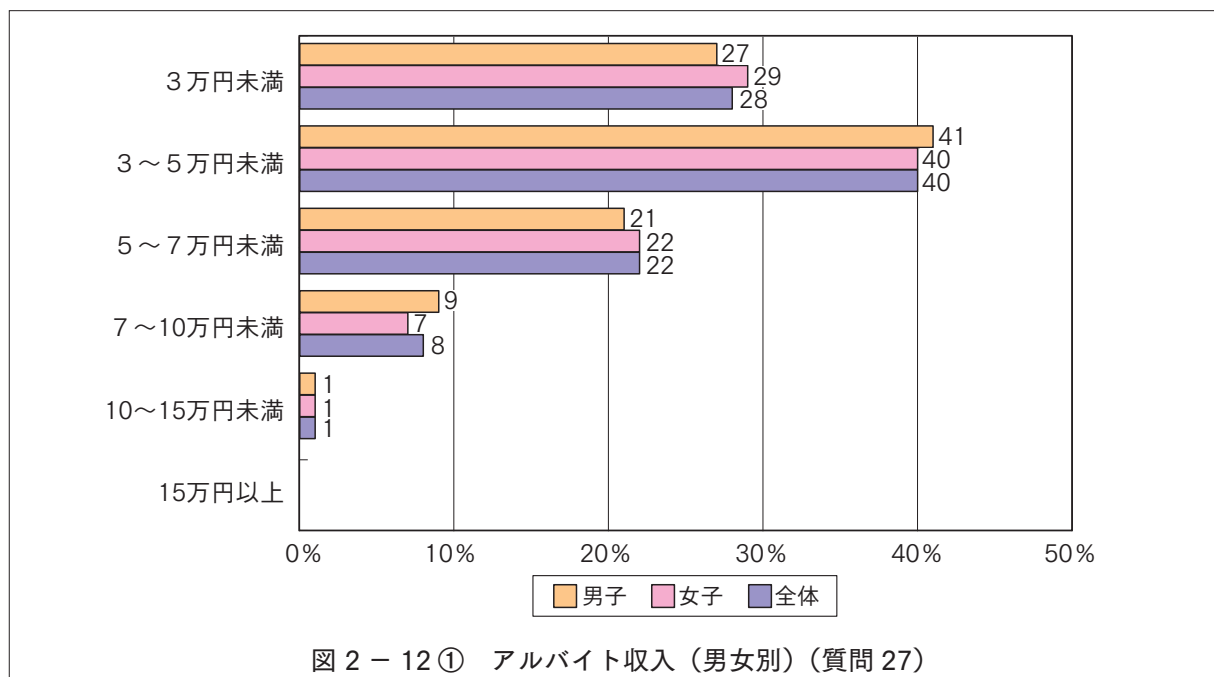


図2-12① アルバイト収入 (男女別) (質問27)

(※問27は複数回答のため合計は100%にはならない。)

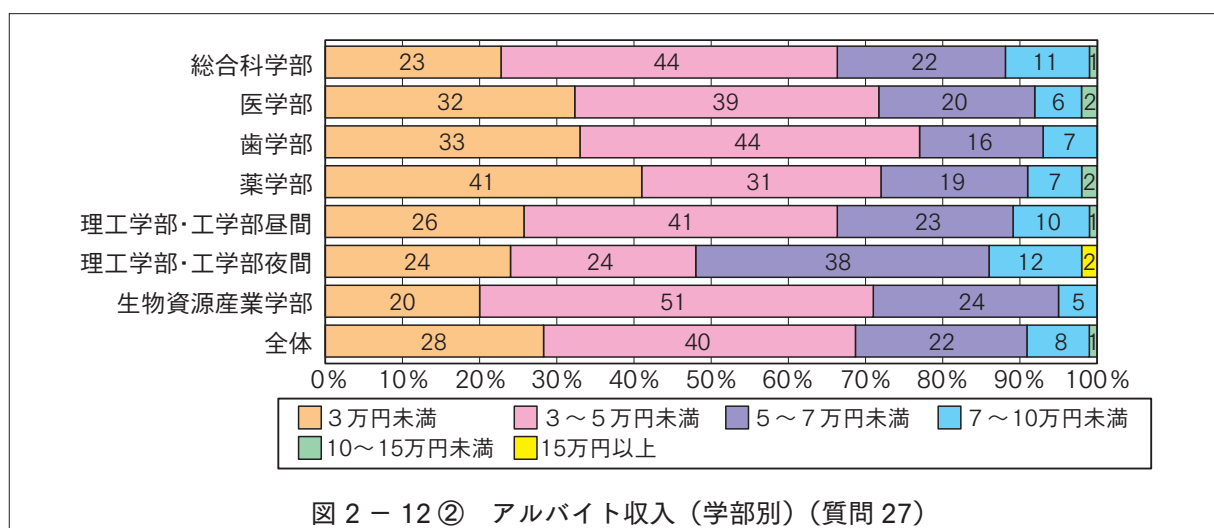


図2-12② アルバイト収入 (学部別) (質問27)

2-13 アルバイトのトラブル内容 (図2-13)

アルバイトにおけるトラブル (複数回答可) について、「ない」と回答した割合が全体の82%であった。おもなトラブルの内容 (複数回答可) は「客とのトラブル」(7%)である。トラブルを経験した学生の割合は18%で、アルバイトをしている学生の5, 6人に1人はトラブルを経験していることになり、比較的高い割合と考えられる。学生がアルバイトでトラブルに遭遇しないように、その内容を具体的に把

握・検証して、注意喚起する必要がある。

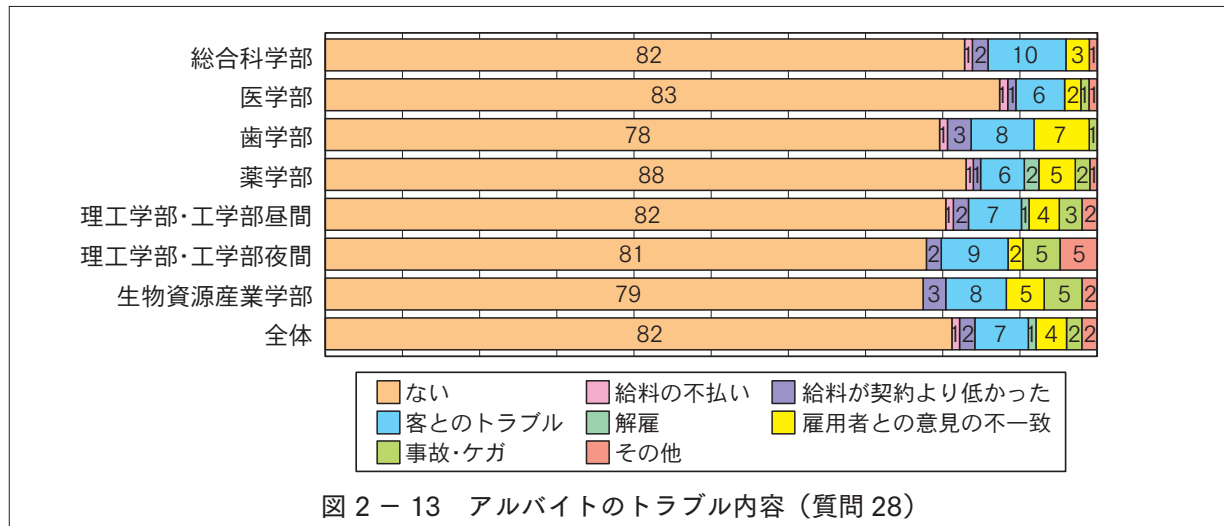


図 2 - 13 アルバイトのトラブル内容 (質問 28)

(※問 28 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

第3章 健康状態について

3-1 睡眠時間 (図3-1①, 図3-1②)

睡眠時間「6～8時間」が男子で60%、女子で53%と前回調査からそれぞれ5%、2%増加し、「4時間未満」が男子2%、女子1%と前回調査からそれぞれ3%、1%減少し、全体として平日の睡眠時間の改善が認められる。コロナ禍で大学の活動の制限が続く中、オンライン授業の増加に伴うPC利用時間の増加やステイホームによる生活リズムの乱れや不眠が危惧されるが、睡眠時間が確保できている学生が近年では最も多かった。起床の時間が遅くならないようリズムで、健康的に睡眠時間が確保されているならば、なお望ましいと思われる。

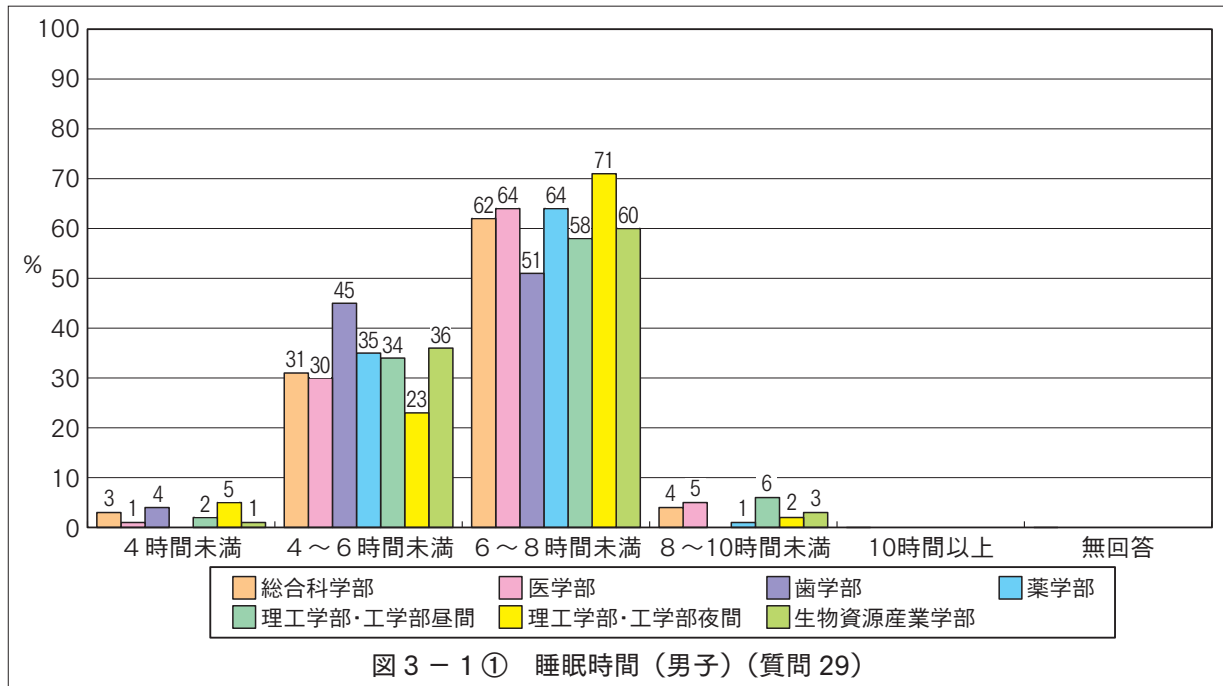


図3-1① 睡眠時間 (男子) (質問29)

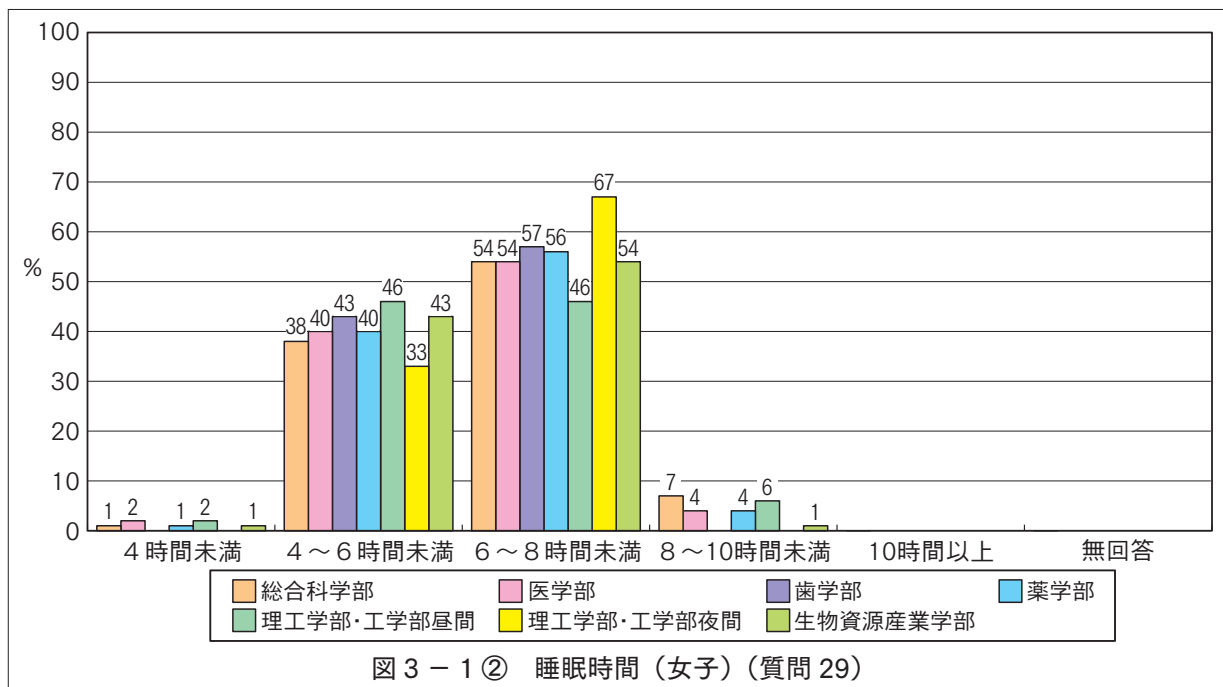


図3-1② 睡眠時間 (女子) (質問29)

3-2 気になる症状 (図3-2①, 図3-2②)

現在気になる症状がある学生は、男子で27%（前回調査34%）、女子で44%（前回49%）であり、男子より女子で何らかの不調を抱えている傾向は変わっていないが、気になる症状がある学生の割合は男女それぞれ前回調査より減少していた。症状の内容としては、男子では「アトピー・アレルギー」が10%と最多、「不眠」8%、「頭痛・めまい」「下痢・便秘」がそれぞれ6%と続き、女子では「生理痛・生理不順」が最多で22%、「頭痛・めまい」が17%、「アトピー・アレルギー」が11%、「下痢・便秘」「不眠」がそれぞれ9%に認めている。男子では、「不眠」のみ前回調査より1%増加し、他の症状は2%ずつ

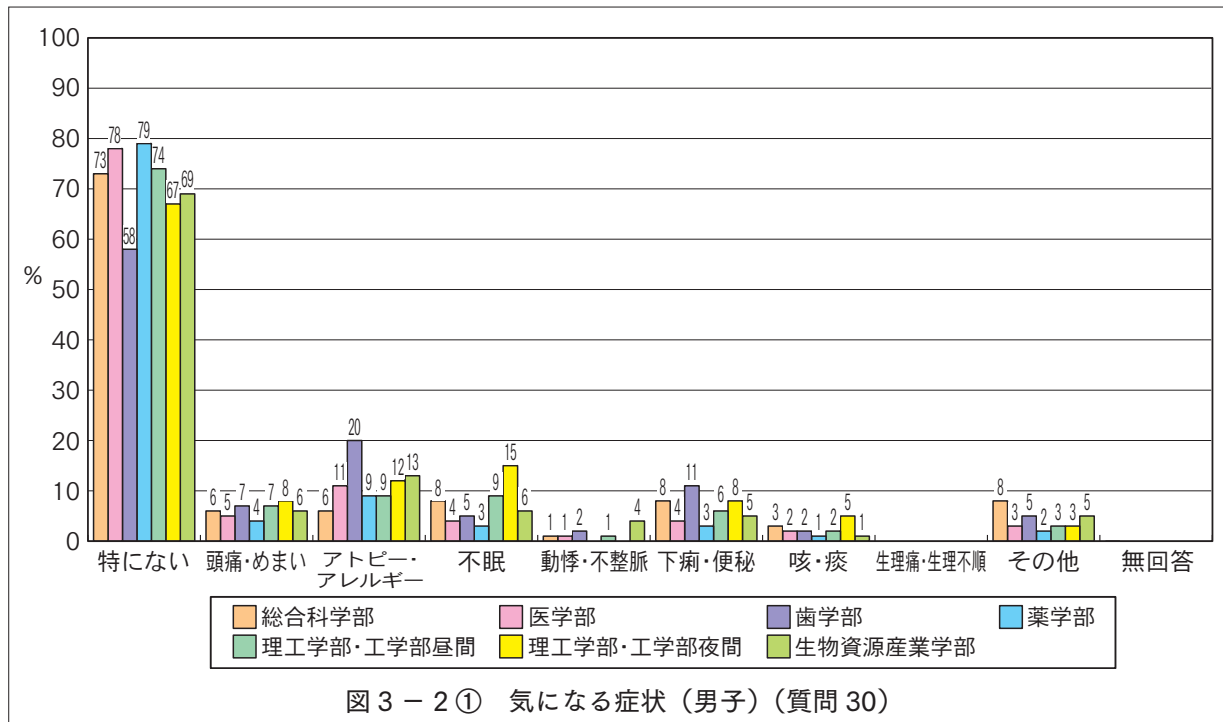


図3-2① 気になる症状（男子）（質問30）

（※問30は複数回答のため合計は100%にはならない。）

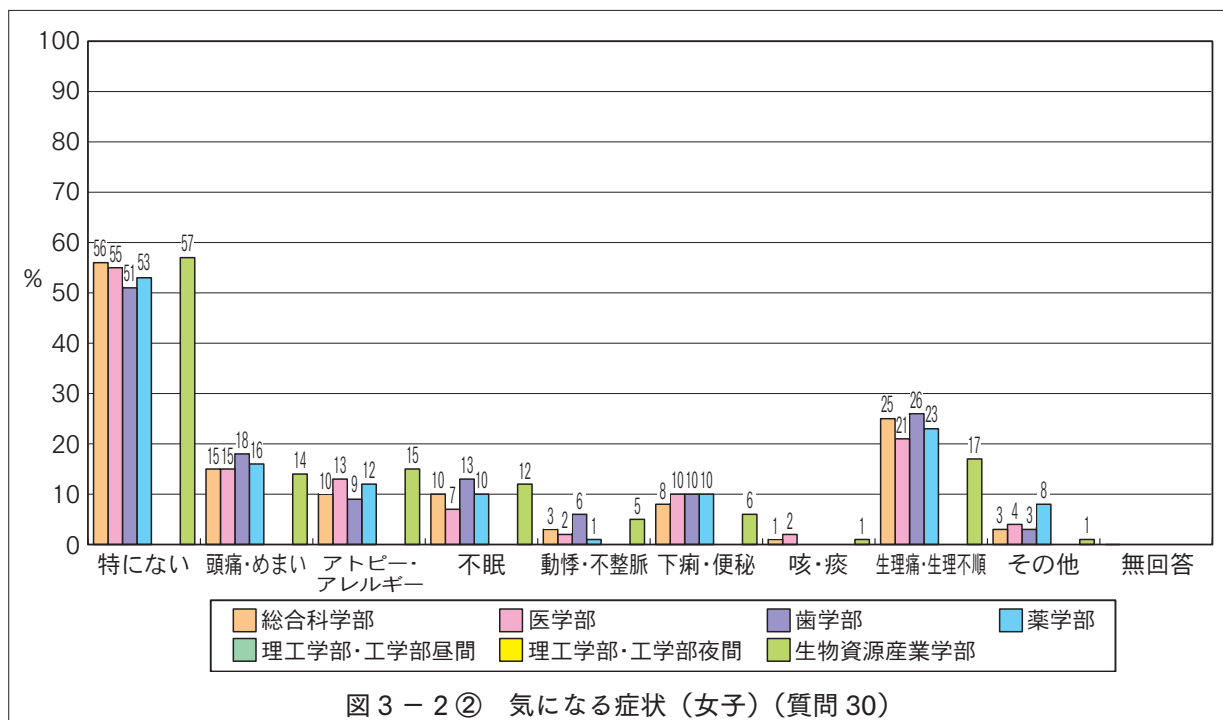


図3-2② 気になる症状（女子）（質問30）

（※問30は複数回答のため合計は100%にはならない。）

つ減少しており、女子では「頭痛・めまい」「不眠」が前回より2%ずつ増加していた。また、その他の症状の自由記載では、「抑うつ症状、鬱、うつ病、精神的不調」などの精神症状の記載が最も多く認められている。気になる症状は身体症状が多いことには変わりはないが、不眠ならびに精神症状に悩む学生も増加していることがうかがえる。心身の健康のためには、必要に応じて、医療機関での治療および生活習慣の見直し、キャンパスライフ健康支援センターの保健管理部門の健康相談や総合相談室のカウンセリングの活用等で改善をはかりたい。

3-3 喫煙について (図3-3①, 図3-3②, 図3-3③)

「喫煙したことがない」学生は男子で90% (前回調査82%), 女子で98% (前回調査96%) であり、「過

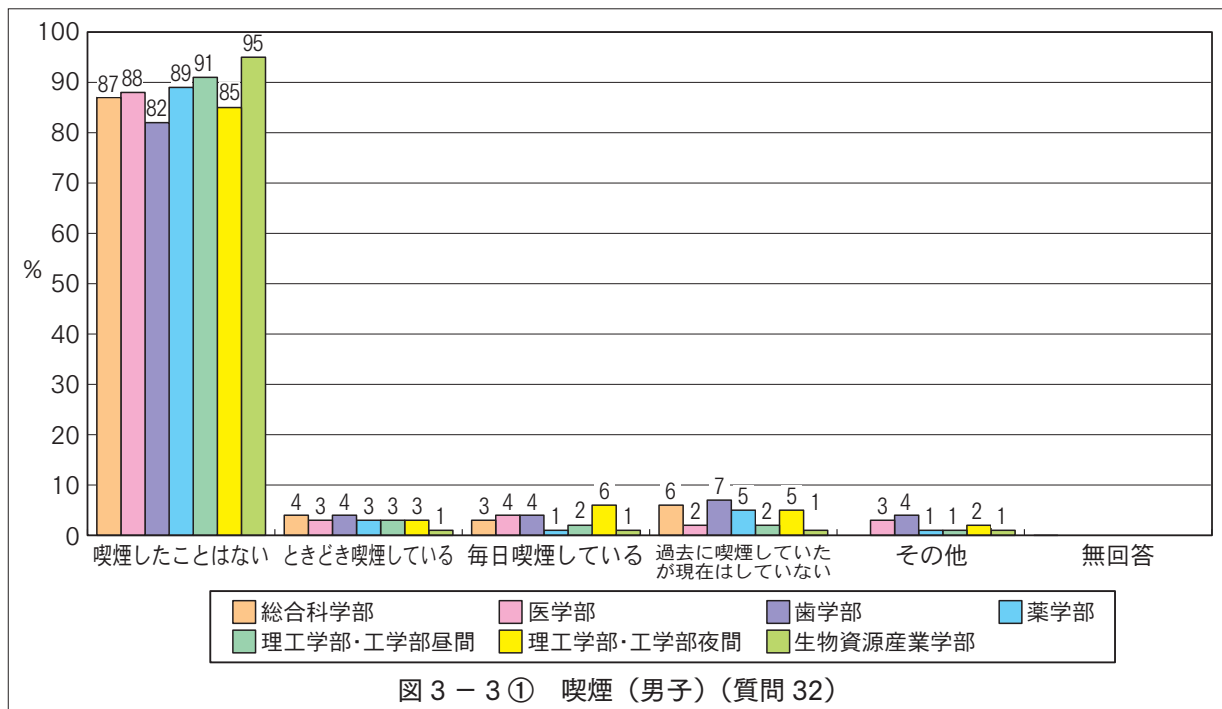


図3-3① 喫煙 (男子) (質問 32)

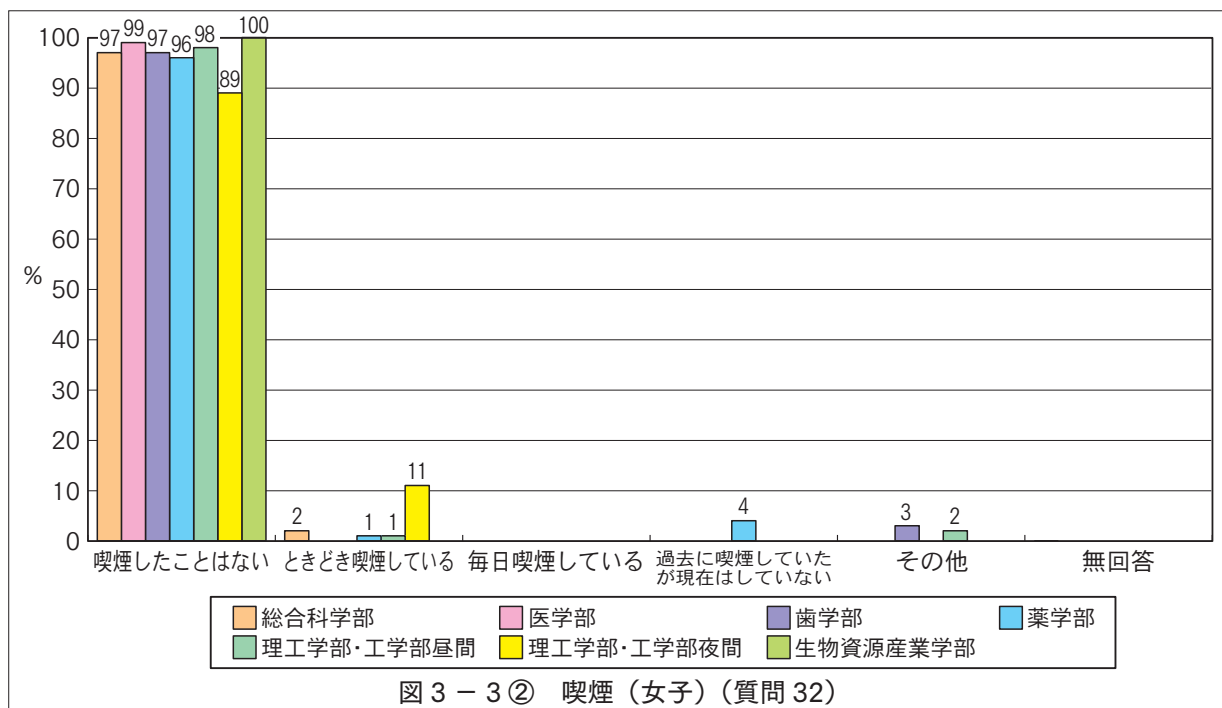
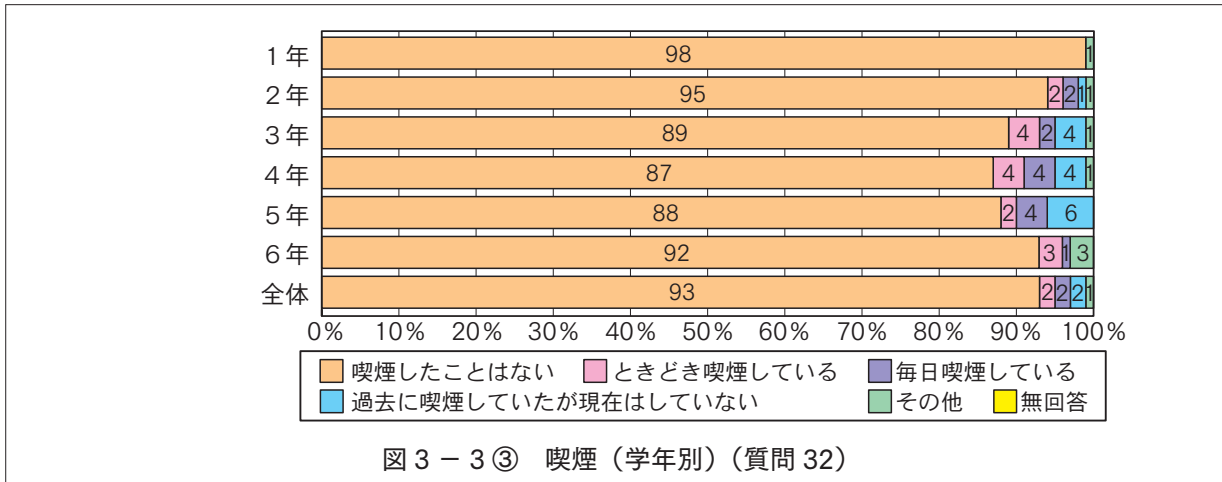


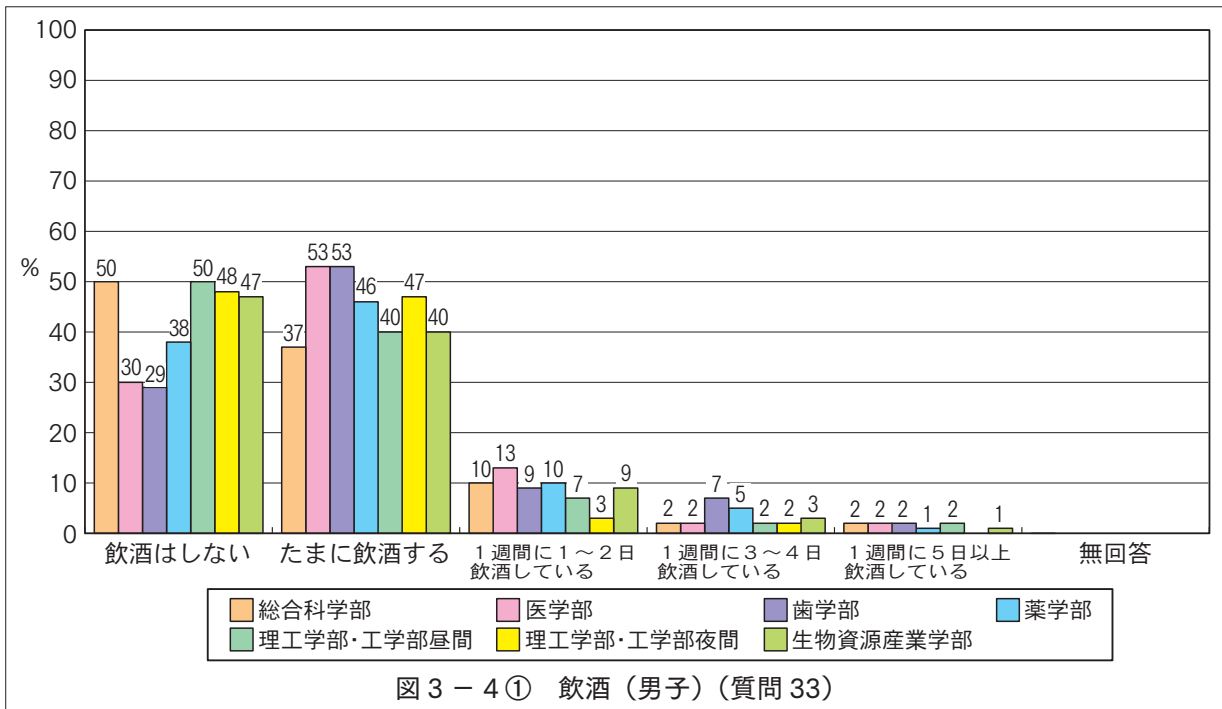
図3-3② 喫煙 (女子) (質問 32)

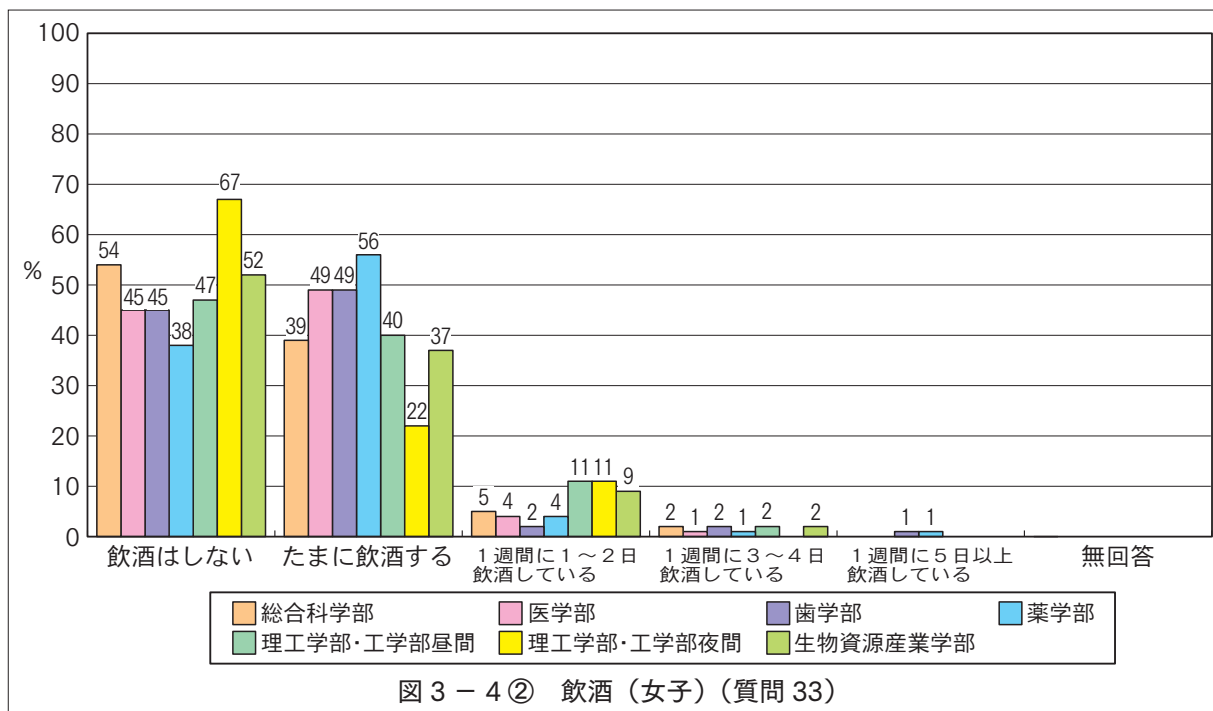
去に喫煙していたが現在はしていない」学生が男子3%、女子1%であったため、非喫煙率は男子で93%（前回調査85%）、女子で99%（前回調査97%）という結果となった。男子の非喫煙率が大幅に上昇、女子の非喫煙率も100%に近づき、非常に良い結果となった。すなわち前回調査13%、前々回調査12%であった「ときどき、もしくは毎日喫煙している」男子は6%に減少した。学年別でみると、1年生の喫煙率は2%（前回調査4%）と低く、2年生以降に喫煙者が増加し、3～5年生で喫煙者が増加する傾向がみられ、かつ再度禁煙に取り組む者も同時に増えている。喫煙習慣が長年に及ぶと様々な有害作用を健康に及ぼすことから、学生時代に喫煙を始めない、習慣づけないことが望ましい。



3-4 飲酒について（図3-4①、図3-4②、図3-4③、図3-4④）

「飲酒はしない」と答えた学生は男子45%（前回調査32%）、女子47%（前回調査34%）であり、男女共に飲酒しない学生は増加傾向にあったが、今回は前回調査より10%以上増加し半数に近づいた。また、「たまに飲酒する」と答えた学生は男子43%、女子45%であり、合わせると男子の88%、女子の92%の学生に飲酒習慣がみられないという結果になった。さらに、飲酒習慣のある学生のうち、「週3、4日以上飲んでいる」学生も男子で4%、女子で2%（前回調査ではそれぞれ6%、3%）と減少していた。

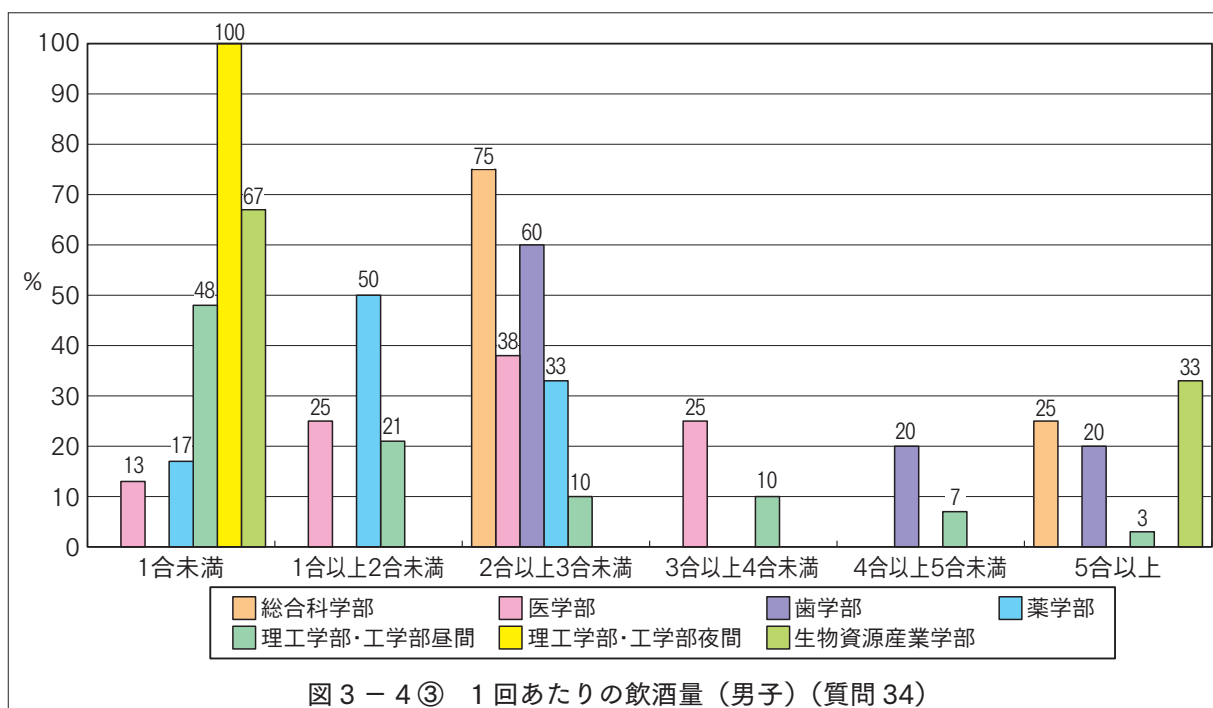




これは、近年飲酒しない学生が増えている傾向に加え、コロナ禍の飲酒を伴う長時間の会食の制限下で、飲酒は外で仲間となら楽しむという学生の飲酒が減った面もあるのかもしれない。

一方、週3回以上の飲酒習慣があると答えた学生のうち、男子34%（前回調査21%）、女子45%（前回調査21%）では1回あたりの飲酒量が適度とされる量であった。また、3合以上飲酒する学生が、男子で21%（前回調査23%）、女子で10%（前回調査28%）であり、週3回以上の飲酒習慣のある者のうち多量飲酒が危惧される者の割合も減少していた。

飲酒習慣がある場合も、アルコールの適量といわれている1日平均純アルコール20g（日本酒で1合）未満にとどまる割合が増加しており、さらにアルコール関連健康障害などの酒害への発展が危惧される多量飲酒（1日平均純アルコール量で60g以上）の者も少なくなっており、望ましい傾向がみられている。



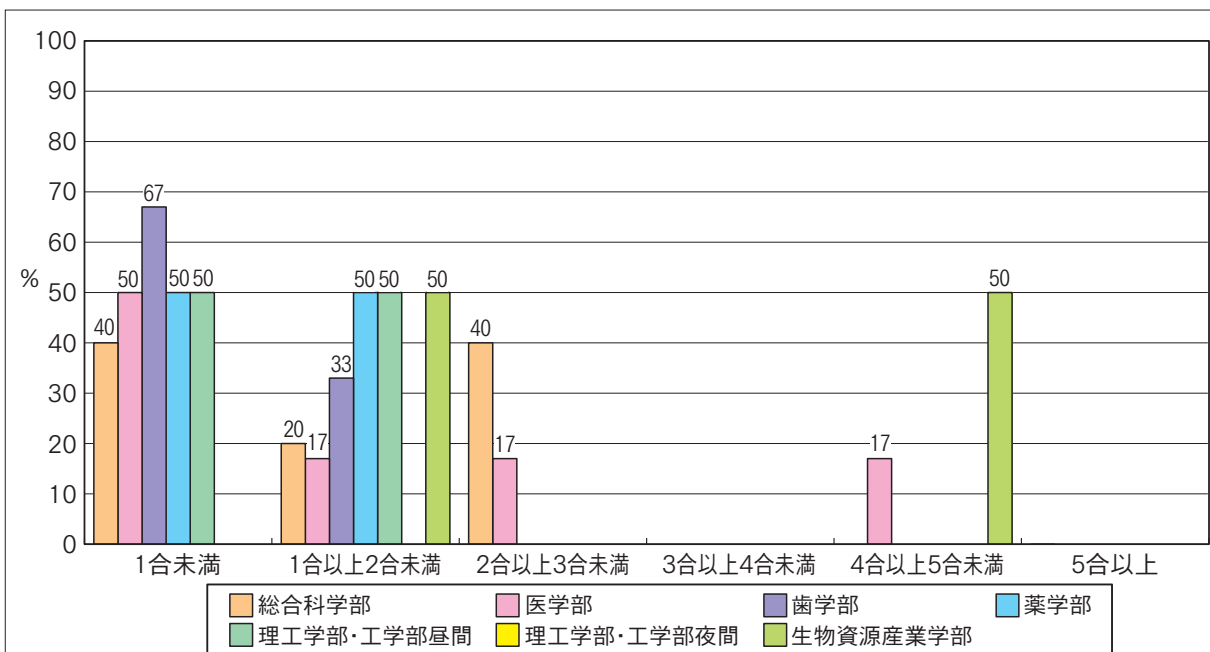


図3-4④ 1回あたりの飲酒量（女子）（質問34）

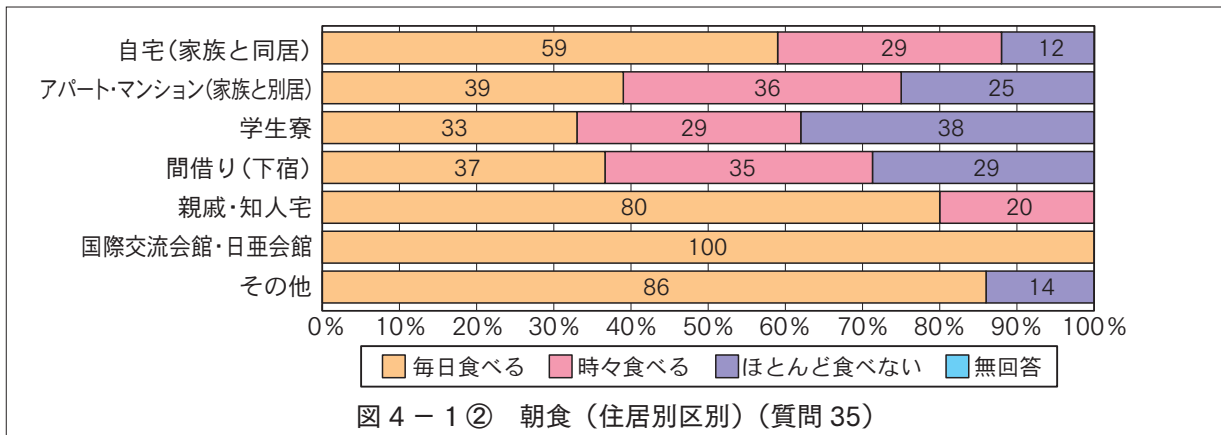
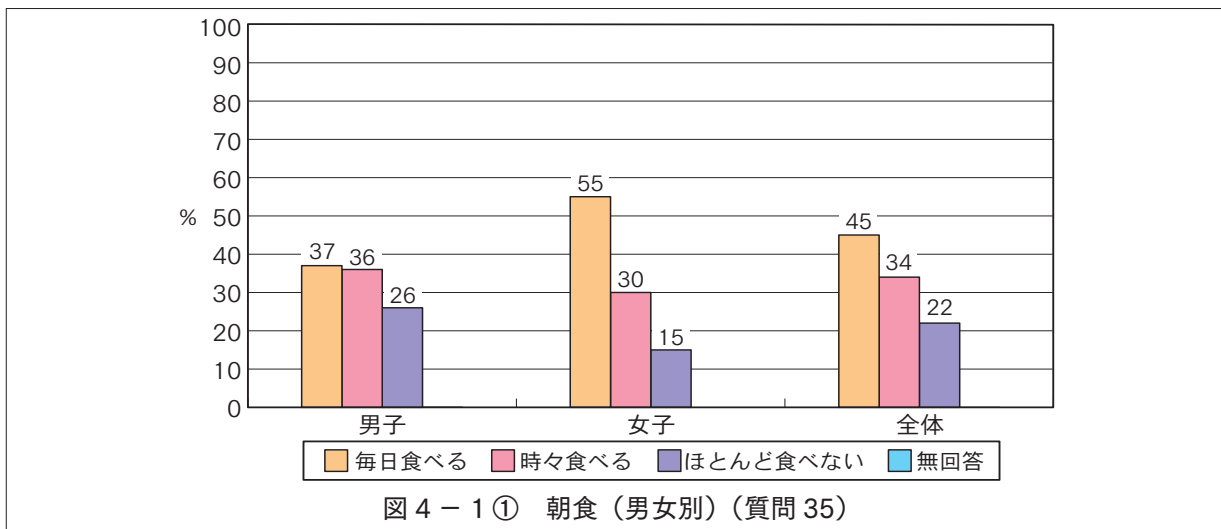
第4章 食事について

4-1 朝食 (図4-1①, 図4-1②)

学生全体では、約半数（45%）の学生は毎日朝食を食べているが、残りの半数は時々食べる（34%）、あるいは、ほとんど食べない（22%）のいずれかであった。全体としては、毎日朝食を食べる学生が前回調査から2%減少し、ほとんど食べない学生も3%減少していた。

男女別にみると、毎日朝食を食べている割合は、女子（55%）が男性（37%）よりも高かったが、女子では前回調査より3%、男子では2%、それぞれ減少していた。一方、朝食をほとんど食べない割合は女子（15%）が男子（26%）よりも低く、男子では4%減少していた。つまり、女子の半数強および男子の3人に1人が毎日朝食を食べており、男子の約4人に1人、女子の7人に1人は朝食をほとんど食べていないという結果だったが、前回調査と比較すると、朝食を毎日食べる学生と、ほとんど食べない学生が微減し、時々食べる学生が前回調査時3割弱から3割強へと増加していた。

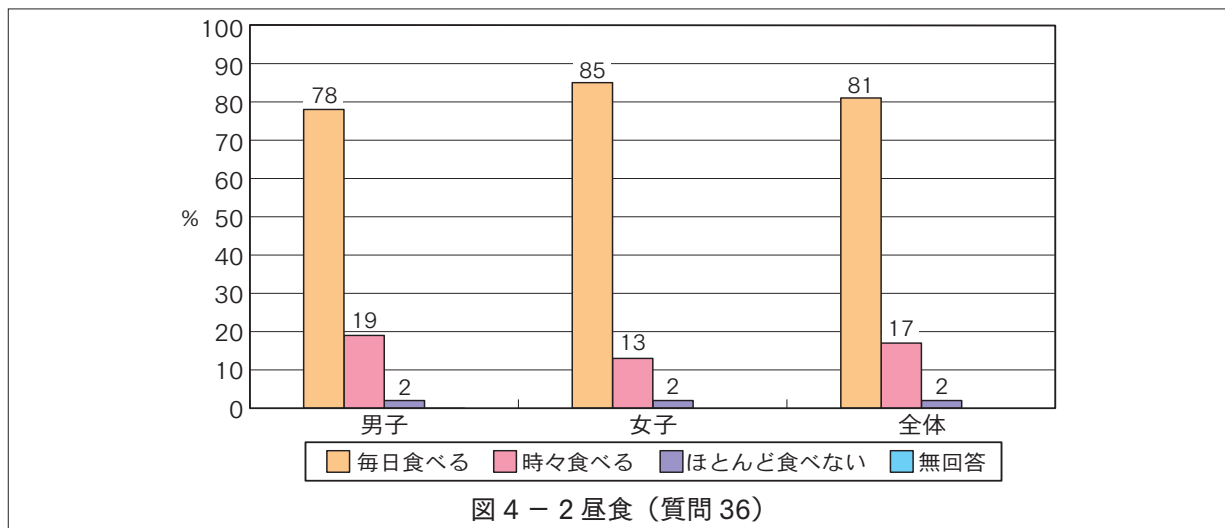
住居区別では、毎日朝食を食べている割合は、自宅（家族と同居）が59%（前回調査67%）、アパート・マンション（家族と別居）が39%（前回40%）、学生寮が33%（前回40%）、間借り（下宿）が37%（前回37%）であった。毎日朝食を食べる割合は、自宅生が最も多いことには変わりはないものの、前回調査より8%減少し約6割となり、学生単独の場合も前回調査より減少し毎日朝食をとっている割合は3割強となった。（親戚・知人宅と国際交流会館・日亜会館に居住する回答者はごく少数のため、傾向の解釈はできない。）



以上のことから、男子ならびに家族と別居して一人暮らしをしている学生が、毎日朝食を食べる割合が低い傾向は同じであるが、今回調査では自宅生の毎日朝食を食べる割合が8%減少した。これらの結果からは、COVID-19 流行下で、遠隔授業中心となったこと等の影響で、起床して朝食をとるという生活習慣が変わった学生が少なからずいる可能性が考えられる。健康的な生活習慣をつけ、また取り戻せるよう啓発していく必要がある。

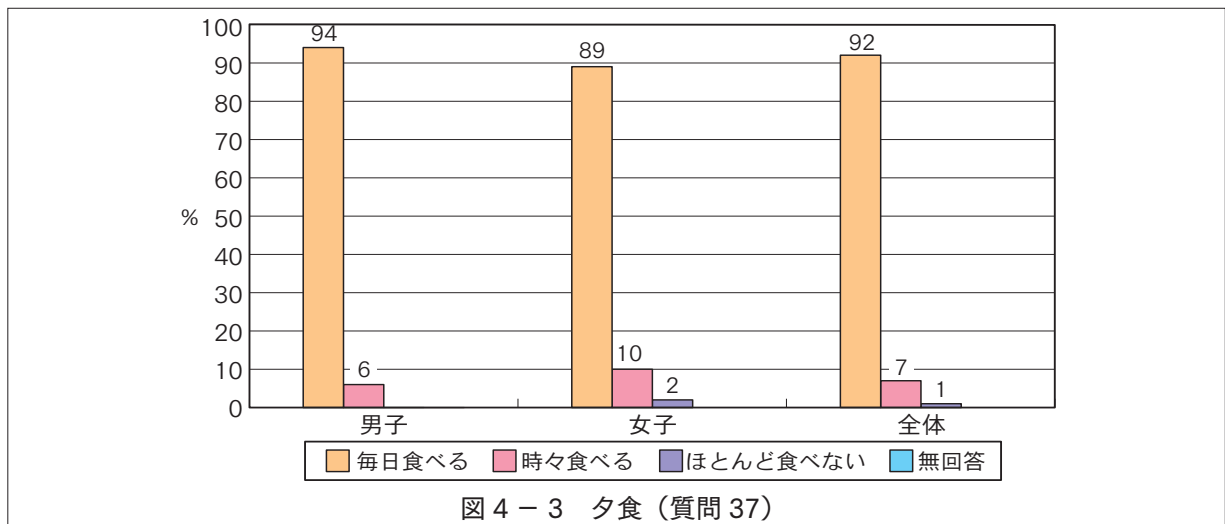
4-2 昼食 (図4-2)

学生全体では、毎日昼食を食べている学生が81% (前回調査89%)、男女別では、女子が85% (前回93%)、男子が78% (前回86%) であり、全体、男女別とも毎日昼食を食べている割合が前回調査に比べ8%減少した。一方、ほとんど食べない学生 (男子2%、女子2%) は前回調査同様であった。今回調査では、男女ともに毎日昼食を食べる学生が減り、昼食を「時々食べる」という学生が全体の17%と前回の調査より8%増加した。



4-3 夕食 (図4-3)

学生全体では、92%の学生は毎日夕食を食べており、7%は時々夕食を食べており、夕食をほとんど食べない学生は1%であり、前回調査と同様であった。男女別にみると、毎日夕食を食べている割合は、

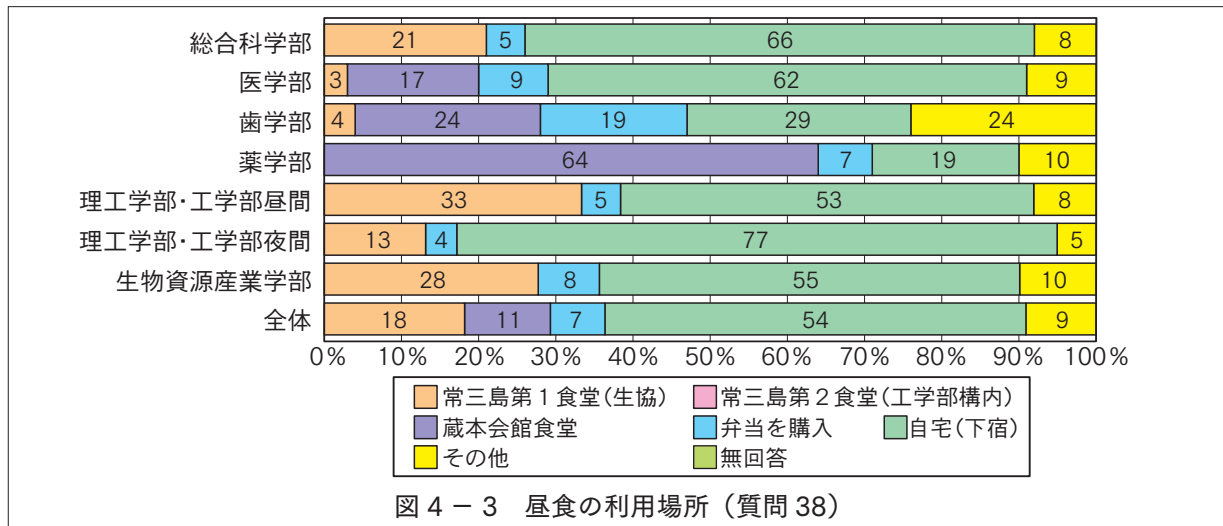


男子が94%、女子が89%（前回は男女ともに90%）、時々食べる割合が男子6%、女子10%（前回は男子6%、女子8%）、ほとんど食べない割合は男子0%、女子2%（前回は男女ともに2%）で、男子ではほとんどの学生が夕食を毎日食べる傾向が進み、女子では9割の学生が毎日食べているが、12%が夕食を十分とっていないという結果となった。女子においては今一度食生活を見直せるような支援が必要な学生が増えていると考えられる。

4-4 昼食の利用場所 (図4-4)

学生全体での昼食の利用場所について、常三島第1食堂（生協）、常三島第2食堂（工学部構内）、蔵本会館食堂、弁当、自宅（下宿）、その他の割合は、それぞれ18%（前回調査23%）、0%（前回9%）、11%（前回17%）、7%（前回13%）、54%（前回18%）、9%（前回19%）であった。前回調査結果と比べて、自宅（下宿）が18%から54%と大幅に増加し、他の利用場所はすべて減少した。これは、COVID-19の感染対策下で、全体として自宅でのオンライン授業が中心となり、登校する必要の減少または自粛した影響であると考えられる。また、自宅（下宿）において1人で昼食をとる学生の増加と、昼食を毎日とる学生の減少は関連している可能性がある。あらためてコロナ禍が学生の食生活に及ぼしている影響の大きさを認識させられる。

学部別でみると、蔵本地区の薬学部、歯学部では、自宅（下宿）で食事をとる学生がそれほど増加しておらず、他の学部と比べると、蔵本食堂利用者、あるいは弁当購入者、その他の占める割合が多く、コロナ禍前と比べて昼食をとる場所の変化が少ないと思われる。同じ蔵本地区でも医学部では自宅（下宿）で食事をとる割合が多く、62%となっている。常三島地区の総合科学部、理工学部・工学部（昼間、夜間）、生物資源産業学部では傾向が似ており、自宅（下宿）、常三島第1食堂、弁当の購入の順で多いが、特に理工学部・工学部夜間では8割近い学生が自宅（下宿）で昼食をとっているという結果となっている。



第5章 学生生活上の問題点

5-1 大学生生活の意義 (図5-1①~図5-3②)

【項目間の比較】(図5-1①)

どの学部・学科共、第1位は「勉強や研究」であり(40~62%)、全体の平均値は、前回調査の値より11%高い48%である。学生がコロナ禍の中の自粛生活で不自由さを感じつつも、改めて学生の本分としての勉強や研究の価値を確認している結果と推察される。第2位は「趣味・娯楽」、第3位は「豊かな人間関係を結ぶこと」および「明確な目的はない」となり、前回調査とは異なる結果であった。第2位と第3位までは僅差であり、学生はコロナ禍において個人活動を重視しつつも、他者との関わりにも重きを置いていることが伺われる。

【学部・学科・学年間での比較】(図5-1①~図5-1③)

「勉強や研究」は、薬学部が62%で最も高かった。次いで、理工学部・工学部夜間、生物資源産業学部、医学科と続いている。専門性の高い職業に結びつきやすい学部・学科では学業への意識が高いものと推察され、その結果であると考えられる。また、医科栄養学科、歯学部、および総合科学部では、他の学部・学科に比べて「豊かな人間関係を結ぶこと」の割合が高く、対人援助志向の高さとの関連の強さが

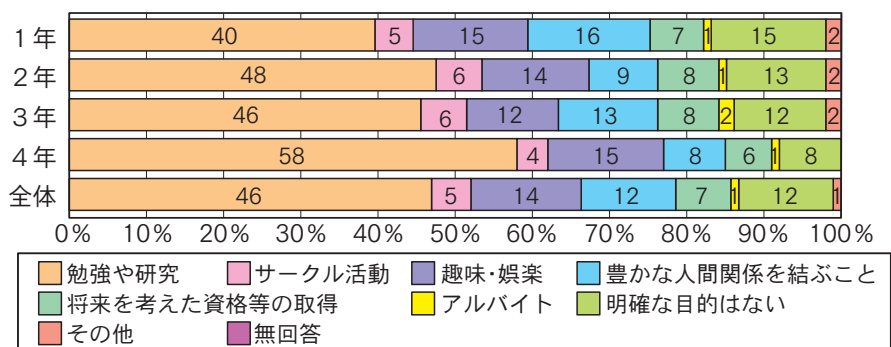
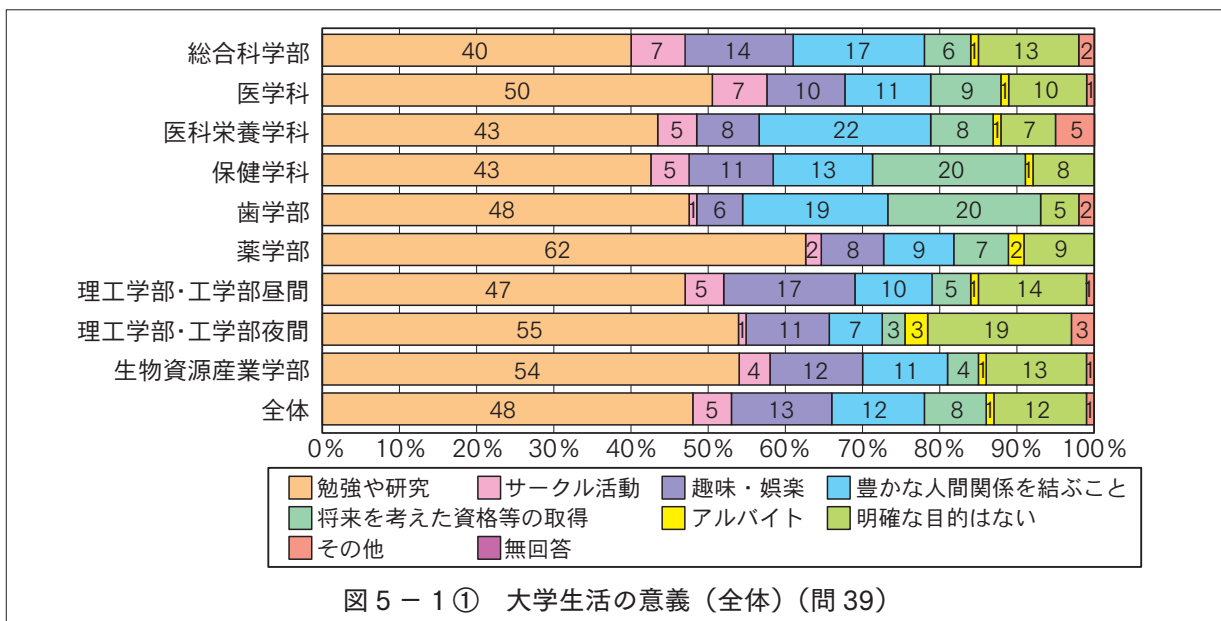


図5-2② 大学生生活の意義 (4年制学部・学科) (問39)

伺える。

4年制では「勉強と研究」の割合は、前回調査と同様、一番高いのは4年生の58%であり、卒業研究や卒業論文に真摯に取り組んでいる結果と思われる。1・2・3年生は40～48%と同じ程度になっている。6年制では「勉強と研究」の割合は、前回調査で最も高かった6年生が48%と少し低下し、そのかわりに前回調査で低かった3年生と4年生がいずれも63%と最も高かった。6年生では「豊かな人間関係を結ぶこと」や「将来を考えた資格等の取得」の割合が少し高まっていることから、コロナ禍による将来への不安の高まりなのか、現実的な課題に取り組む姿勢が高まっていると推察される。また、3年生と4年生で「勉強と研究」の割合が高まっていることも同じ要因によるものと考えられる。前回調査と同様、4年制・6年制共に「豊かな人間関係を結ぶこと」の割合は、1年生が最も高く、入学時に新たな人間関係に期待していることの表れと考えることもできよう。

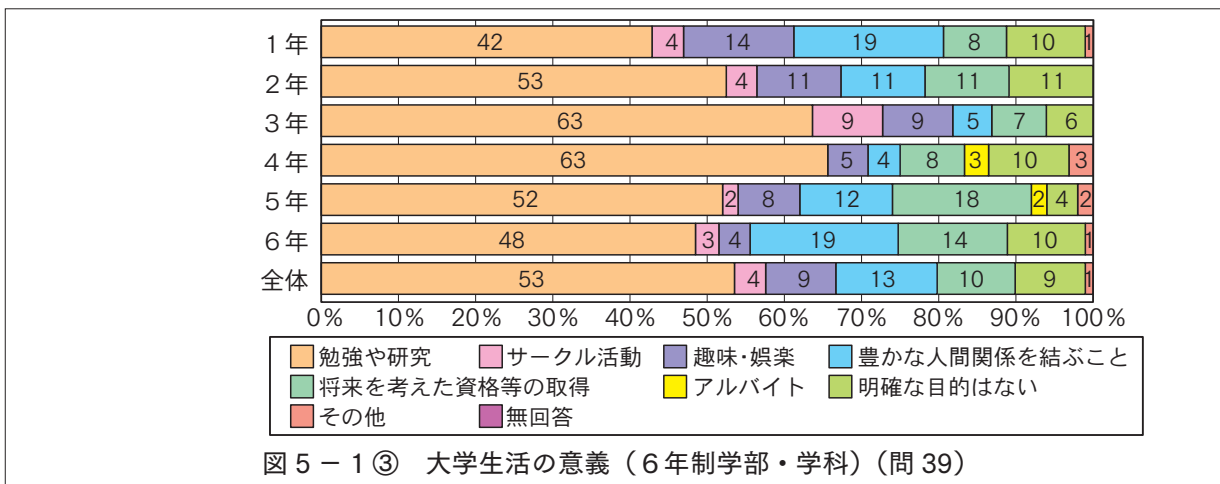


図5-1③ 大学生生活の意義（6年制学部・学科）（問39）

5-2 悩みと相談（図5-2①～図5-2⑤）

【主な悩みや不安】（図5-2①～図5-2③）

悩みや不安がないと回答した割合は歯学部と理工学部・工学部夜間以外の学部において男子の方が多かった。男子も女子も、第1位が「就職や進路」、第2位が「勉学」であった。国家試験で資格を得られる学部では、「就職や進路」に関する悩みや不安を持つ学生の割合が低い傾向が見られる。逆にこの割合が高いのは、総合科学部女子であり、約6割（61%）の者が将来の就職・進路に不安を感じており、

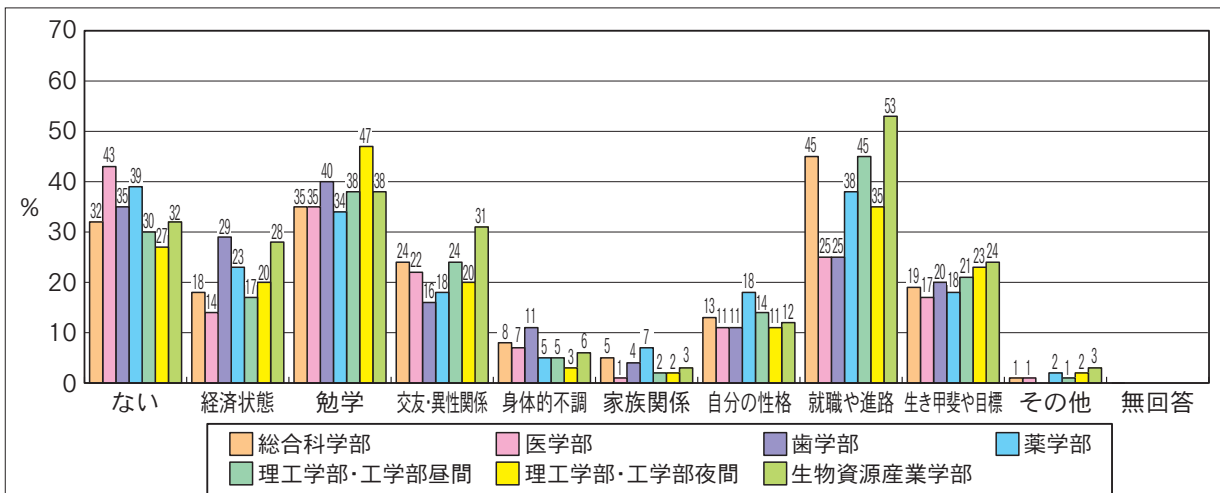


図5-2① 主な悩みや不安（男子）（問40）

（※問40は複数回答のため合計は100%にはならない。）

次いで多い、理工学部・工学部昼間女子や生物資源産業学部女子と合わせて、大学からのきめ細やかな支援が必要と思われる。また、理工学部・工学部夜間女子の56%が「勉学」について悩みや不安を持っており、こちらも大学からの支援が必要であろう。

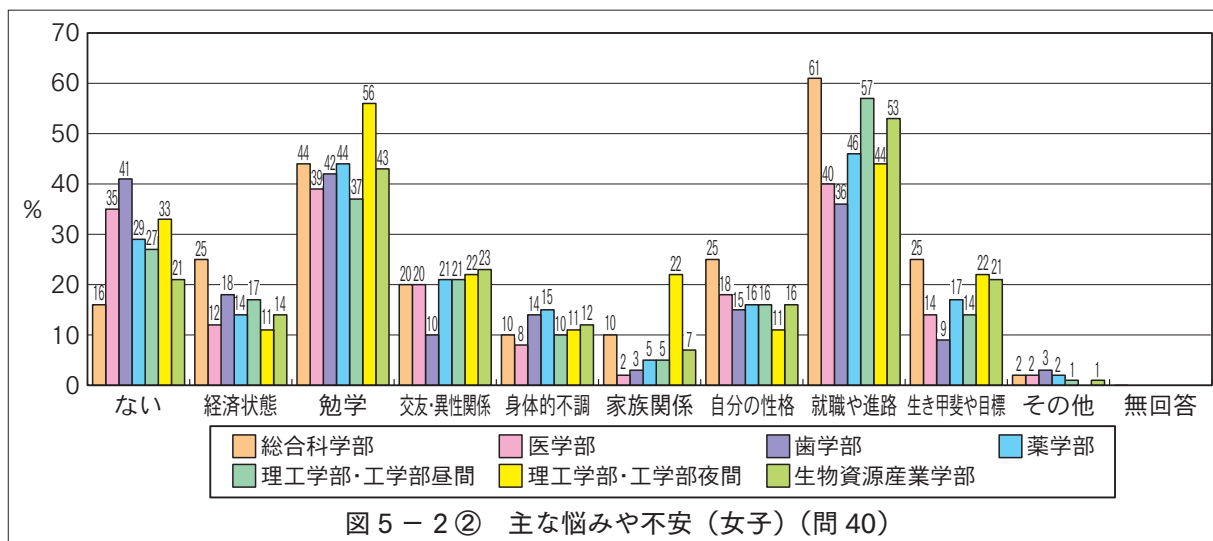


図 5 - 2② 主な悩みや不安 (女子) (問 40)

(※問 40 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

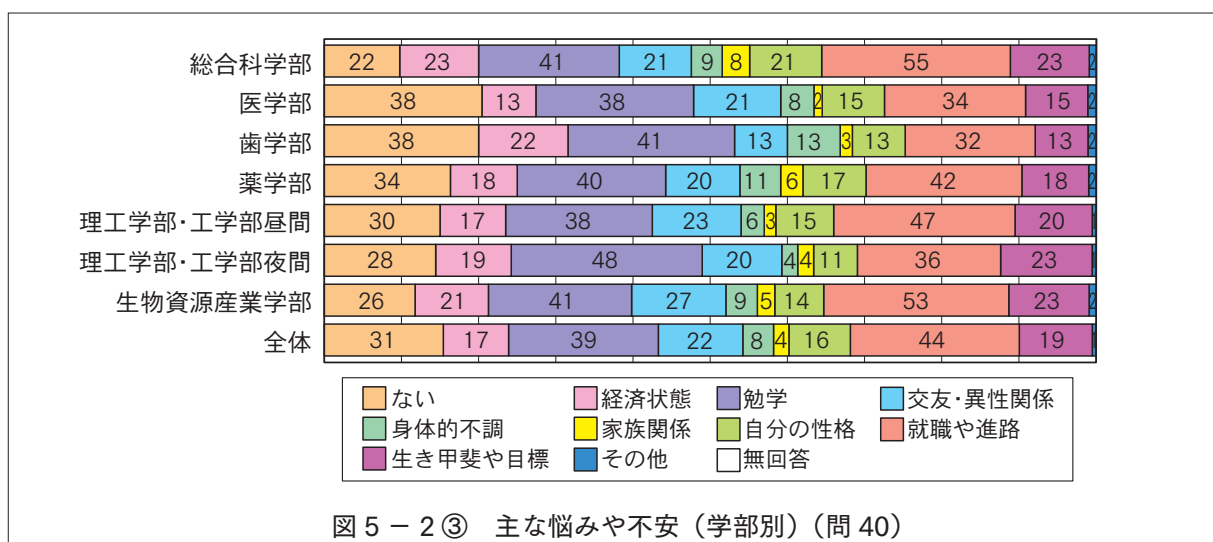
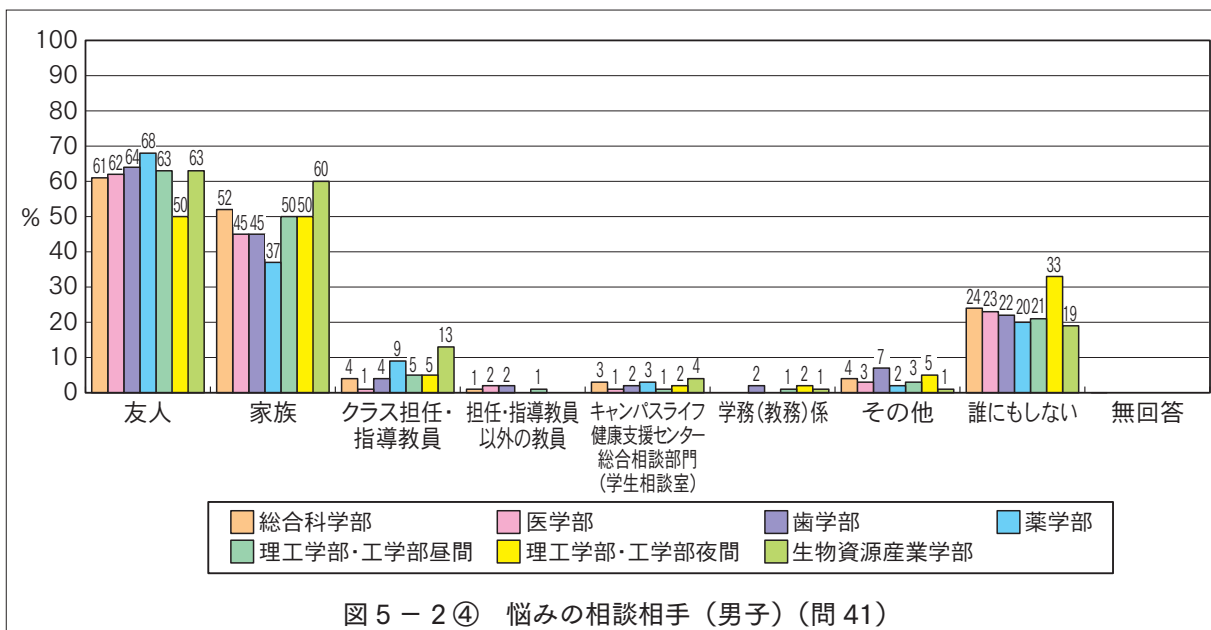


図 5 - 2③ 主な悩みや不安 (学部別) (問 40)

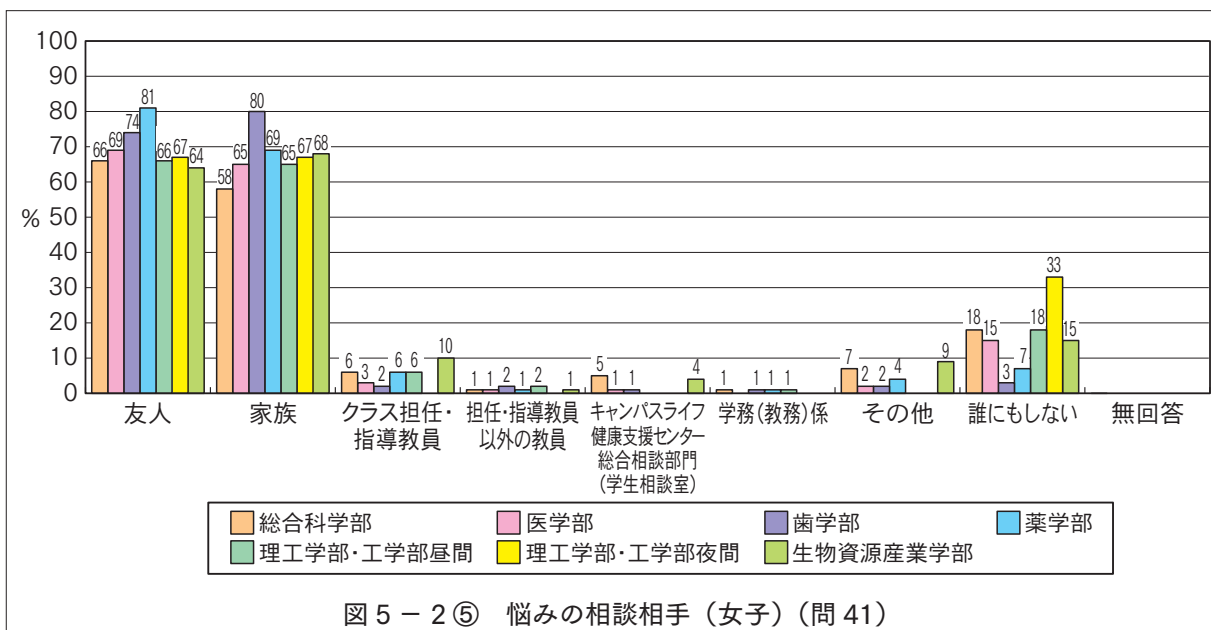
(※問 40 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

【相談相手】(図 5 - 2④, 図 5 - 2⑤)

ほとんどの学部・学科も第 1 位が友人、第 2 位が家族であるが、友人の割合は基本的には女子の方が男子よりも高かった。歯学部女子と生物資源産業学部女子においては、友人よりも家族を選んでいる割合が高かった。クラス担任・指導教員と回答した割合は低いが、その中では、男子、女子ともに、生物資源産業学部が目立って高く、13%と 10%であった。生物資源産業学部の教員らによるきめ細かい対応が奏功していると思われる。男子の 22%と女子の 14%は誰にも相談しないと回答しており、前回調査と同様に、ある程度の学生が自力で悩みや不安を何とかしようとしている様子が伺われるが、解消できない場合も多いと思われるため、支援を要する学生を早めに見出し、悩みや不安の内容に応じて、部局教職員やキャンパスライフ健康支援センターにつないでいく体制を強固にすることが必要と思われる。



(※問 41 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

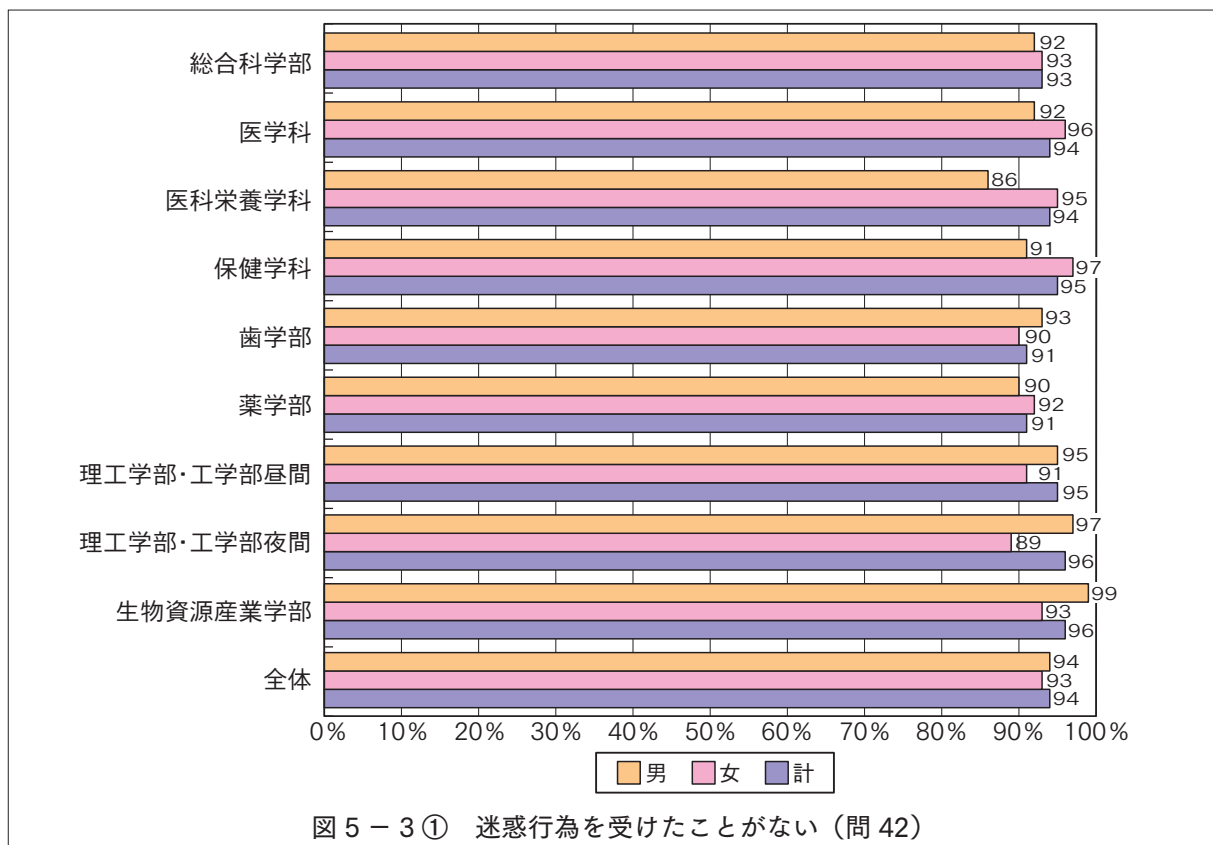


(※問 41 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

5 - 3 迷惑行為 (図 5 - 3 ①~図 5 - 3 ⑫)

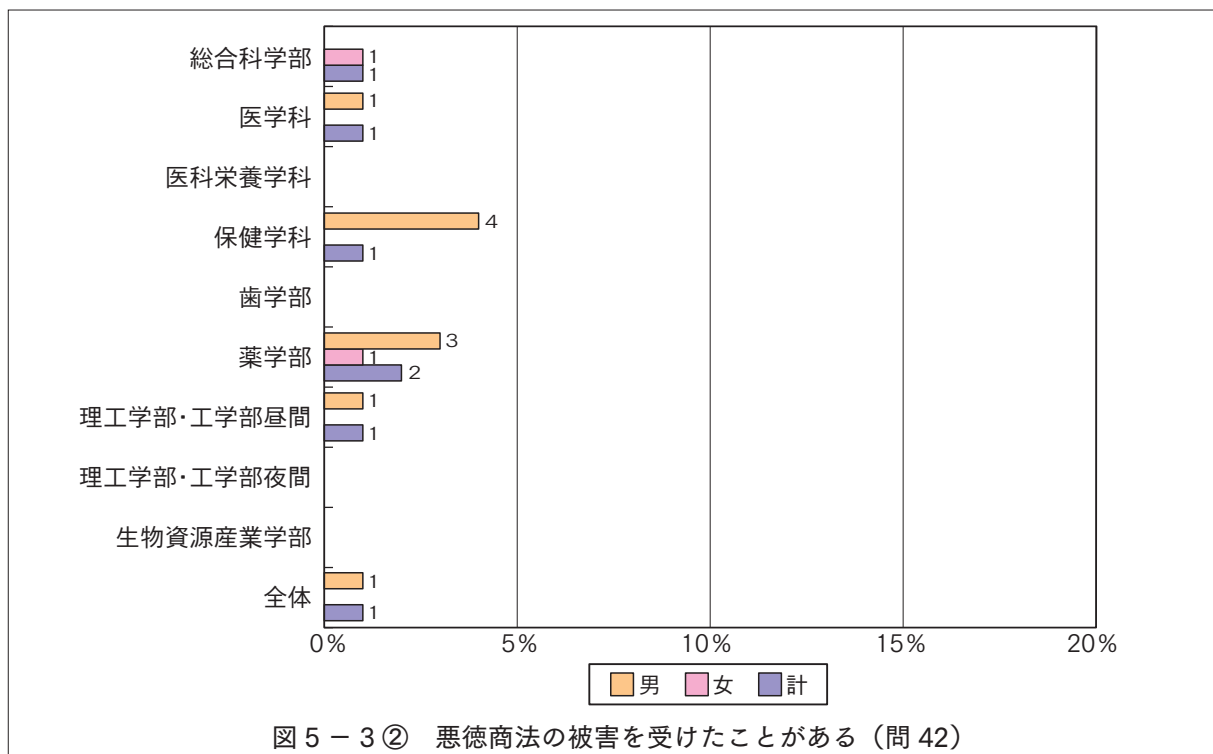
【迷惑行為全体】 (図 5 - 3 ①)

迷惑行為を受けていないと答えたのは、男子全体で 94% (前回調査 85%), 女子全体で 93% (前回調査 89%) であった。コロナ禍で対人接触が著しく減少したことの影響が大きいと思われる。



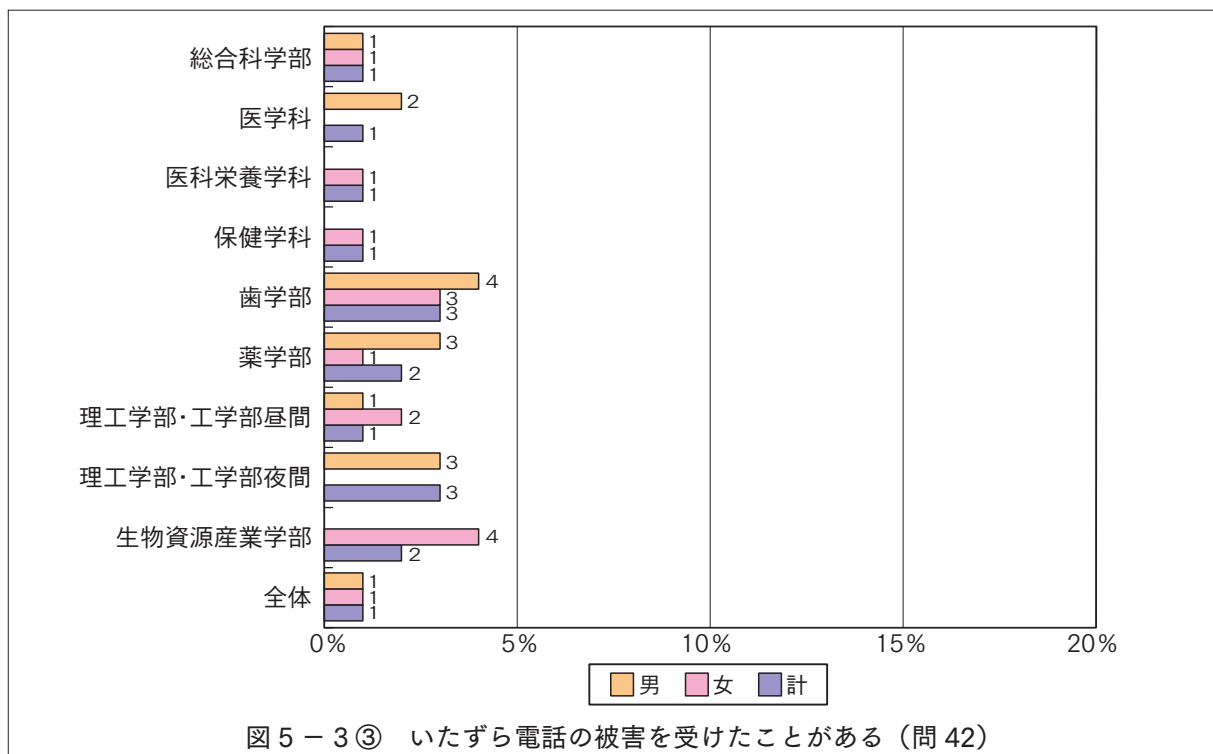
【悪徳商法】(図 5 - 3 ②)

悪徳商法の勧誘を受けた学生は全体の1%であるが、保健学科男子は4%と高かった。前回調査でも4%であり、依然被害を受けやすい要因が存在しているように思われる。原因を調査し、注意喚起・予防対応の実施が必要である。



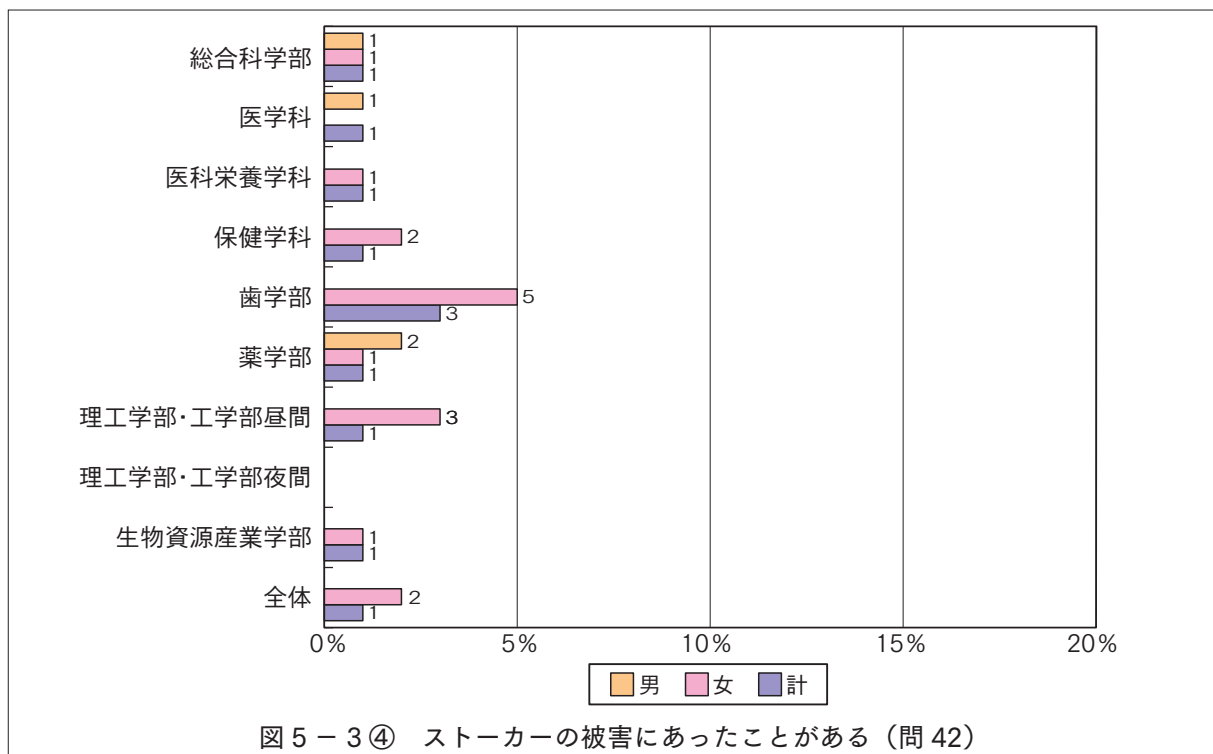
【いたずら電話】(図5-3③)

全体の1%の学生がいたずら電話を受けたと答えている。前々回調査では理工学部昼間女子が7%と突出して高かったが、今回調査では、前回調査と同様、すべて4%以下の値で収まった。



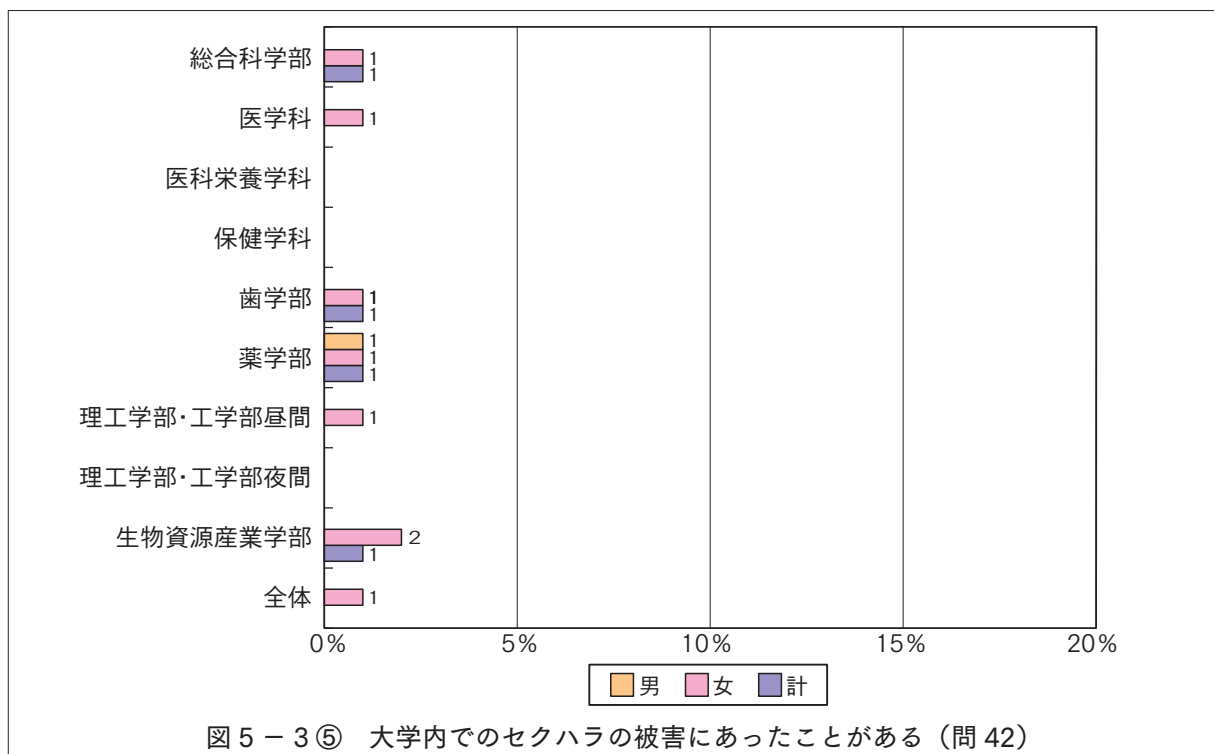
【ストーカー】(図5-3④)

前回調査同様、全体で1%であった。歯学部女子で5%と高く、前回調査と同様に女子学生の方が高い割合を示している。



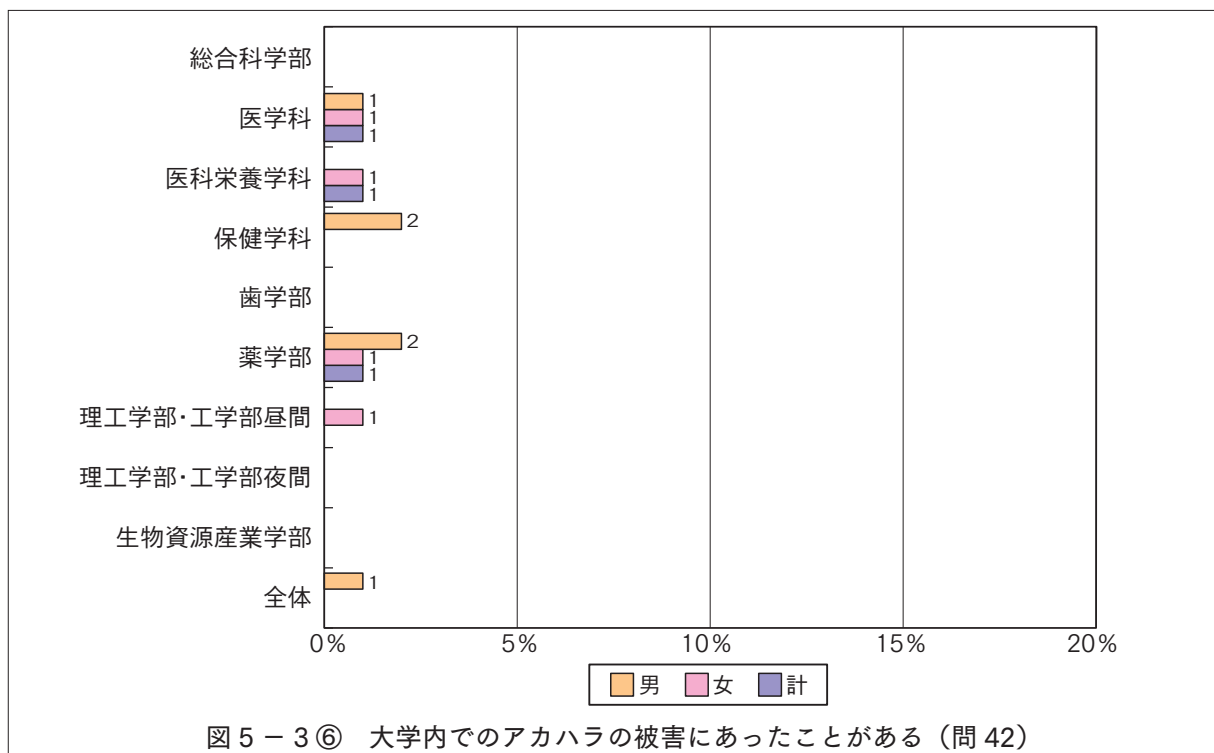
【大学内でのセクハラ】(図5-3⑤)

前回調査と異なり、全体で「大学内でセクハラの被害にあったことがある」と回答した者は1%に満たなかった。コロナ禍の自粛生活で構内への出入りが制限されていた期間が長かったことが背景にあると考えられる。引き続きセクハラ予防啓発活動を継続する必要がある。



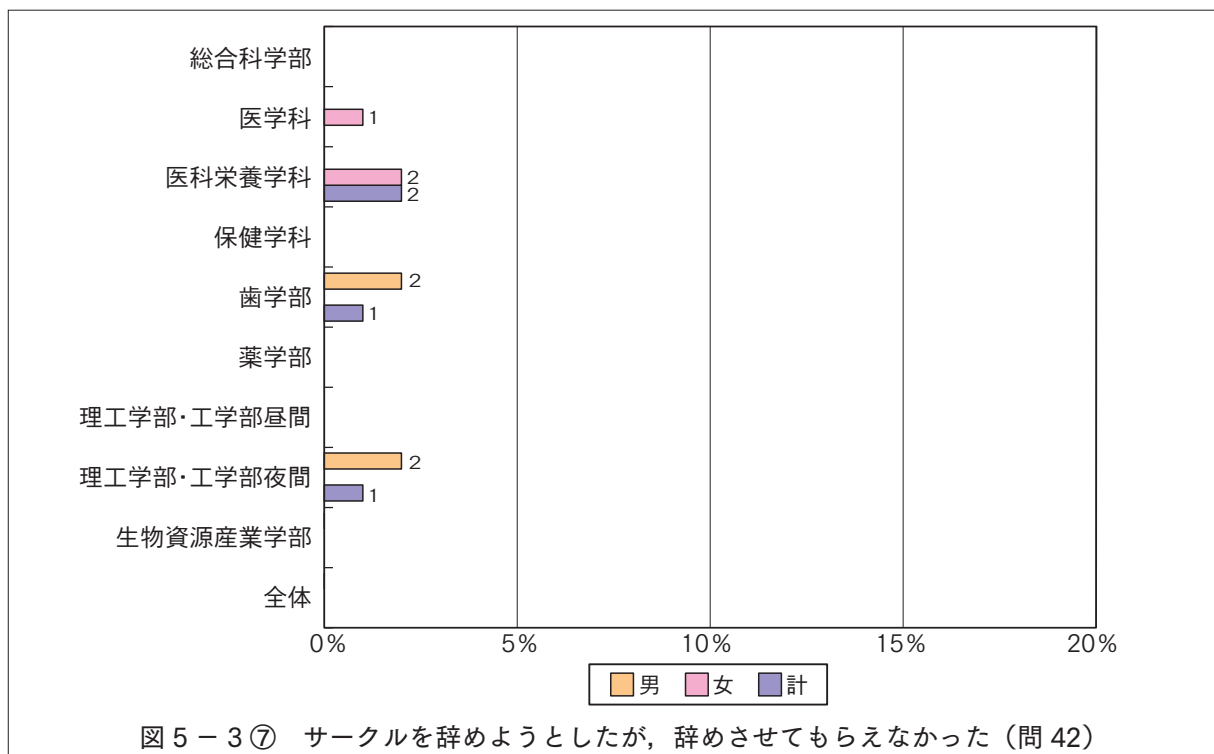
【大学内でのアカハラ】(図5-3⑥)

こちらも、大学内でのセクハラ同様、全体では1%に満たなかった。ただ学部別で見ると、セクハラに比べると被害経験の割合が高いため、セクハラ以上に予防啓発活動を強化する必要がある。



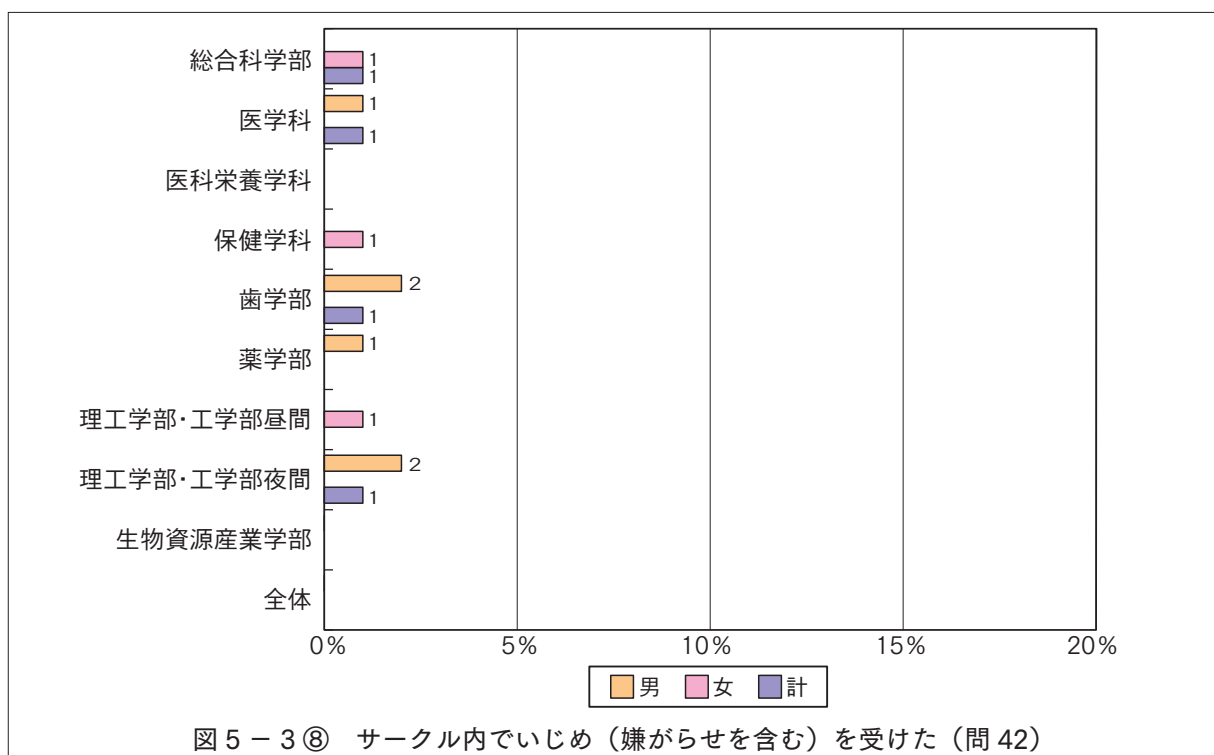
【サークル退部の阻止】(図5-3⑦)

前回調査と異なり、サークルを辞めさせてもらえなかった割合は、全体で1%に満たなかった前回調査同様、学部間差は大きくない。学生の意向を尊重するようサークル活動の指導を強化すべきである。



【サークル内でのいじめ】(図5-3⑧)

前回調査と異なり、サークル内でいじめを受けた割合は、全体の1%に満たなかった。アフター・コロナに向けて、サークル活動・運営に関する指導の中にいじめや飲酒強要などの項目を引き続き盛り込み、予防に努めることが必要である。



【カルトの勧誘】(図5-3⑨)

全体の1%がカルトの勧誘を受けていると答え、前回調査よりも2%低下した。男子の方が女子よりも勧誘を受けた割合が高い。カルト勧誘は、様々な関連被害に繋がる潜在リスクを有しており、適切な啓蒙・予防対策を講じる必要がある。

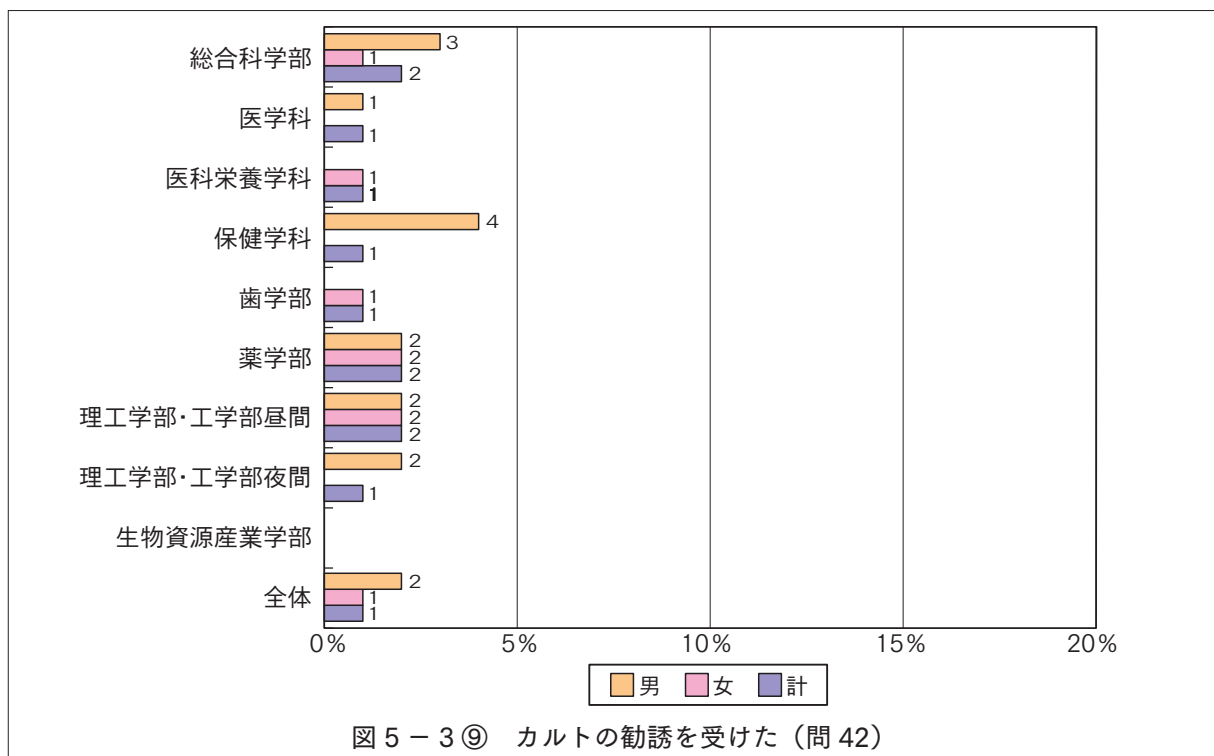


図5-3⑨ カルトの勧誘を受けた (問42)

【迷惑行為を受けた際の相談先】(図5-3⑩)

全体の傾向は前回調査と順位が入れ替わり、友人が第1位、誰にも相談しないが第2位となっている。また今回調査では、第2位に家族が挙げられている。前回調査では、栄養学科・医科栄養学科で「友人」が100%であったが、今回調査は保健学科と歯学部で100%であった。全体では、総合相談部門(学生相談室)への相談が前回調査の5%から10%に上昇していた。なお、保健学科と歯学部では友人以外に相談していないことから、相談先の選択肢を広げる工夫をする必要がある。

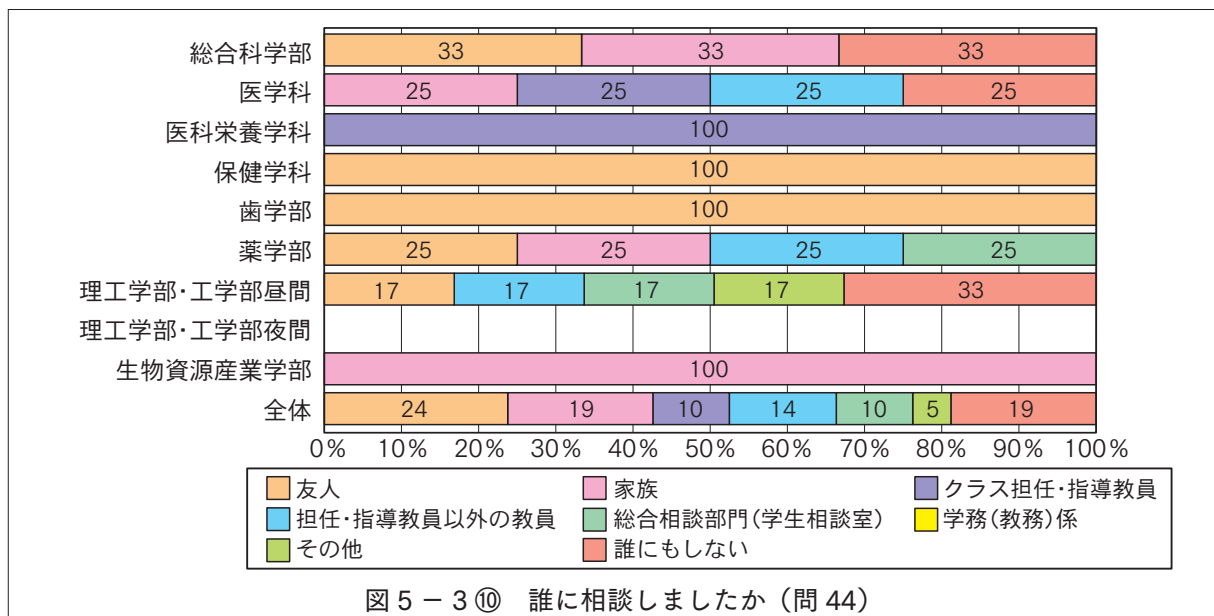
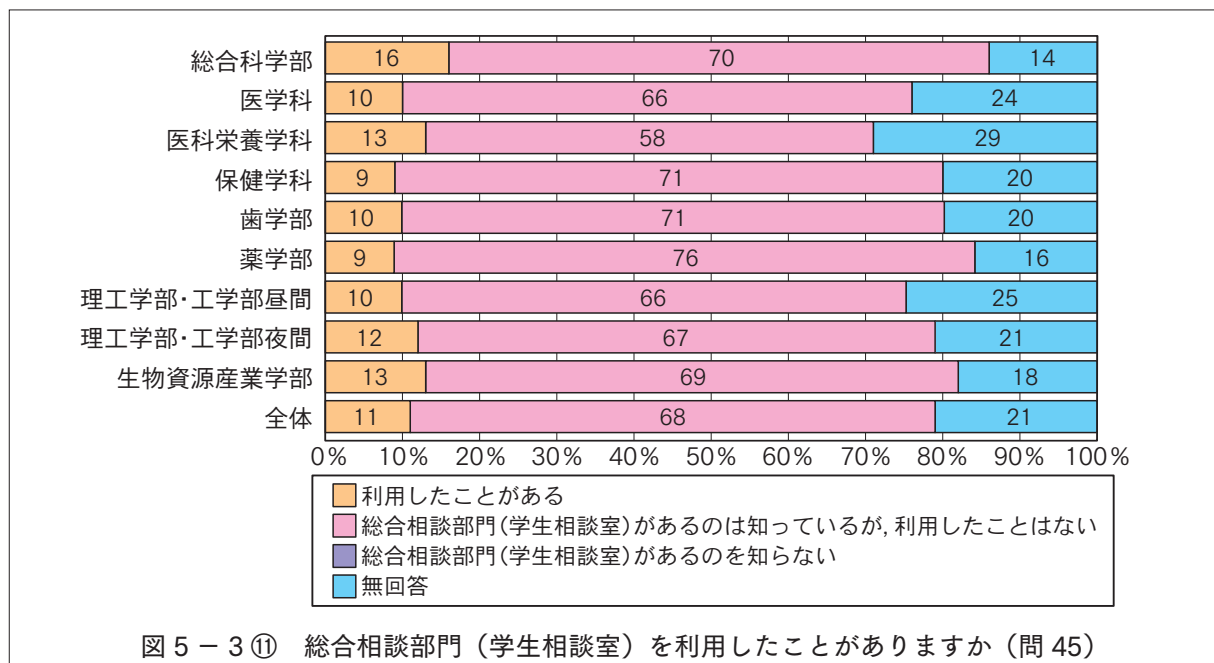


図5-3⑩ 誰に相談しましたか (問44)

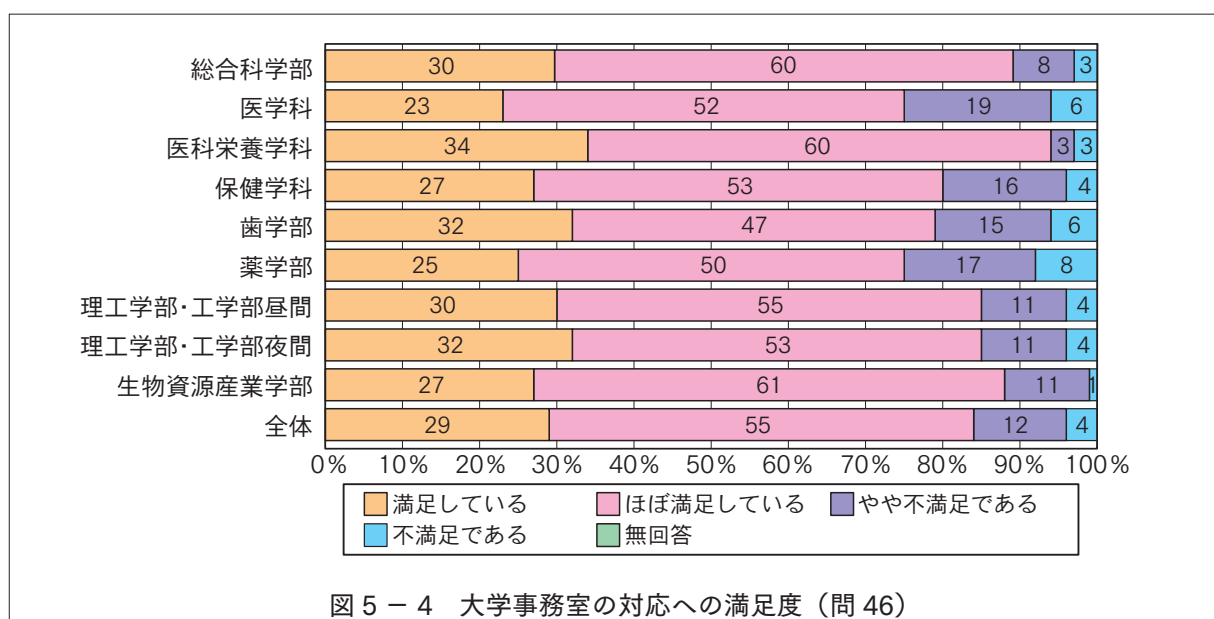
【総合相談部門（学生相談室）】（図5-3①）

「総合相談部門（学生相談室）を利用したことがある」と答えた学生は、全体で11%であった。総合科学部が16%と高く、他の学部・学科も9%から13%とそれほど大きな差は見られない。どの学部・学科でもそれなりに利用されている印象である。また、「学生相談室を知らない」と答えた学生は、全体で21%であり、前回調査の41%より大幅に減少した。広報効果によるところが大きいと思われる。



5-4 大学事務室の対応への満足度（図5-4）

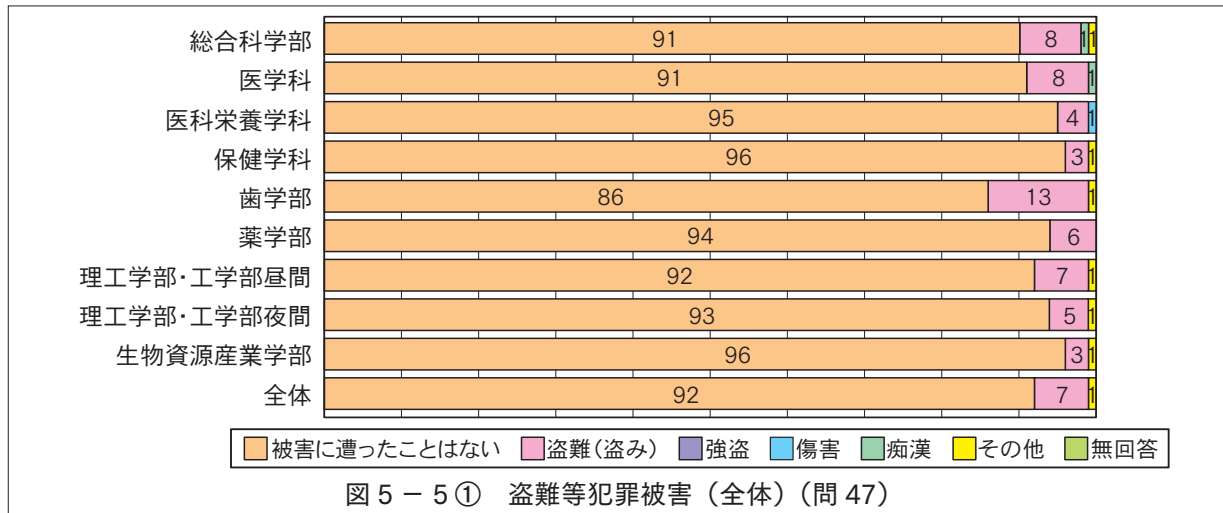
全体では、「満足」と「ほぼ満足」とを合わせると84%であり、前回調査（74%）より高くなった。大学職員の丁寧な対応など職員が日々きめ細やかな対応をしている効果が出ていると考えられる。「やや不満足」と「不満足」を合わせた割合は、全体で16%と低いが、満足度が相対的に低い学部・学科では改善策を検討する必要がある。



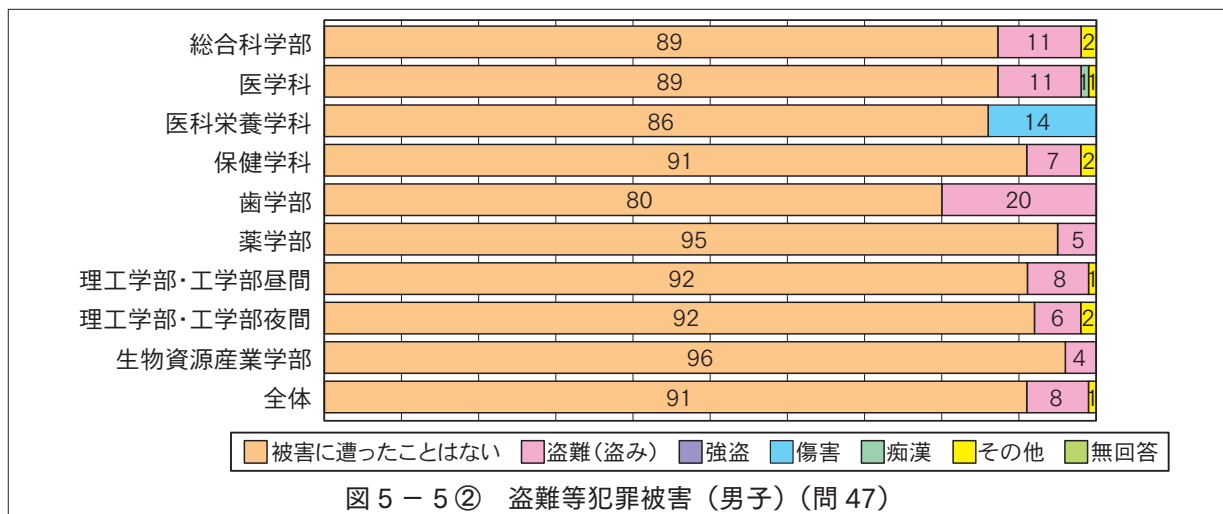
5-5 盗難等犯罪被害 (図5-5①~図5-5⑤)

【盗難等犯罪被害】(図5-5①~図5-5③)

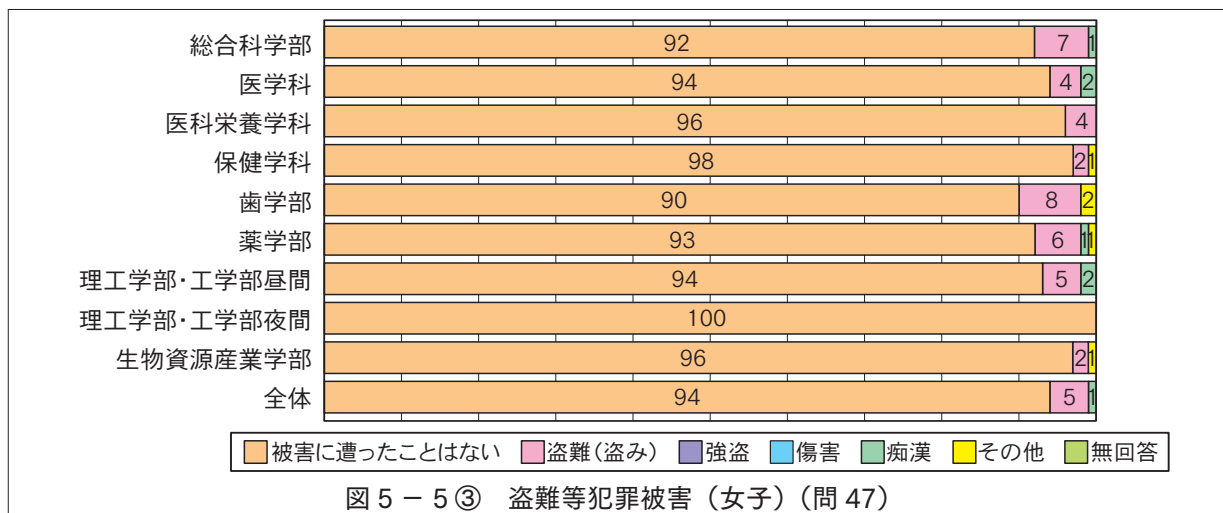
前回調査, 前々回調査とほぼ同様, 盗難の被害にあったと回答した学生は, 前回の13%よりかなり少なく, 7%であった。その中で, 歯学部が13%と突出して高かった。女子は男子よりも被害にあった



(※問47は複数回答のため合計は100%にはならない。)



(※問47は複数回答のため合計は100%にはならない。)

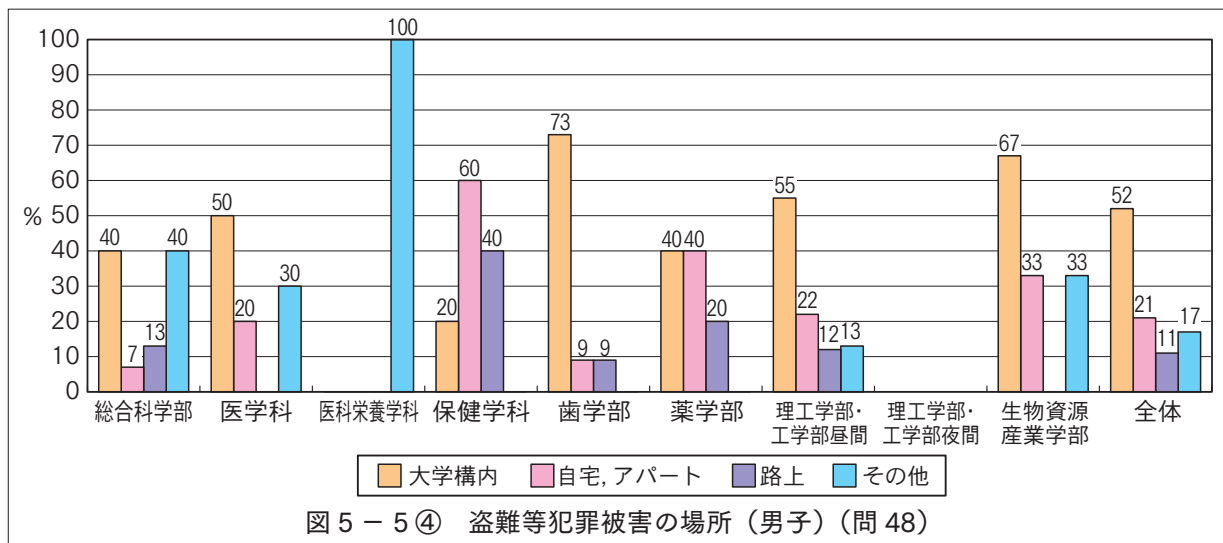


(※問47は複数回答のため合計は100%にはならない。)

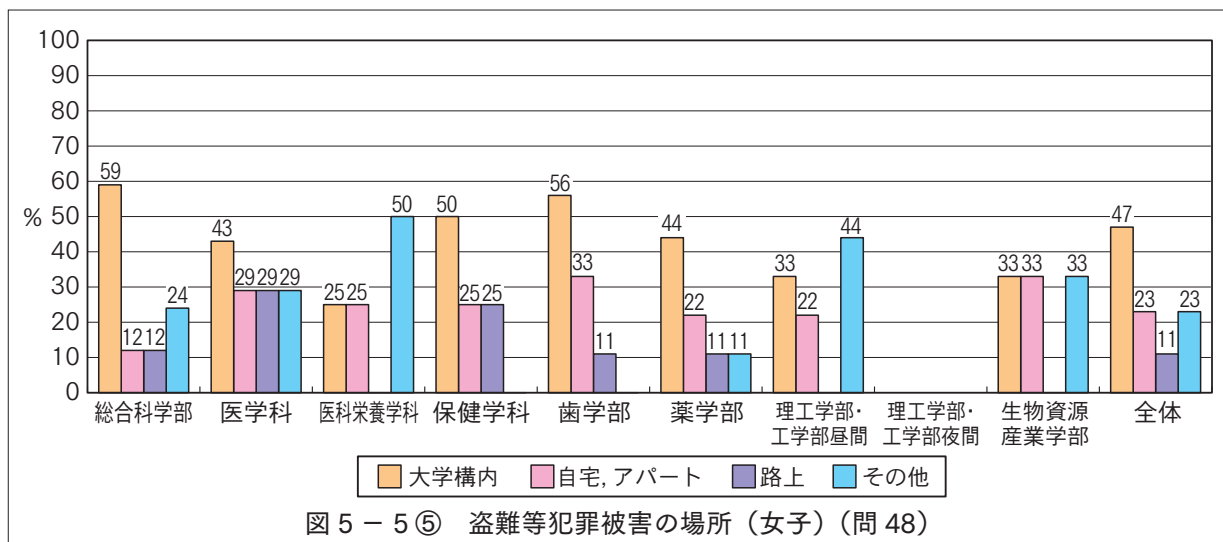
割合が高い。女子において痴漢被害経験も散見されることから、男子に比べて女子は社会的に弱い立場であることが背景にあると考えられる。今後は女子には性犯罪を含め防犯広報を強化し、被害を予防する生活態度を固めるよう指導することが必要である。

【盗難被害場所】(図5-5④, 図5-5⑤)

前回調査, 前々回調査同様, 大学構内と答えた割合が男女共, 最も高かった。今回の調査では男子全体の52%, 女子全体の47%が大学構内と答えている。今後は防犯教育を徹底し, 構内に防犯意識を高める啓発ポスターを多数掲示するなどの対策が求められる。また, 大学構内で起こった盗難等犯罪被害については, 即座に全学に通知し, 注意を呼びかけて再発防止を図るべきである。また, 大学には盗難等犯罪被害時の警察官の立入りに関するガイドラインが用意されている。学生委員会委員や学生支援の担当教職員が適切に犯罪被害に対応できるよう定期的な研修を行う必要がある。



(※問48は複数回答のため合計は100%にはならない。)



(※問48は複数回答のため合計は100%にはならない。)

第6章 修学状況について

6-1 本学を選んだ理由と所属学部への満足度 (図6-1①, 図6-1②)

本学を選んだ理由(複数回答可)は「国立大学だから」が最も多く(61%), 続いて「希望する学部・学科があったから」が48%, 「地元の大学だから」が31%となっており, 前回調査と同様の傾向である(図6-1①)。学部別に見ると, 総合科学部, 理工学部・工学部および生物資源産業学部では, 総合科学部:64%, 理工学部・工学部昼間:63%, 理工学部・工学部夜間:68%, 生物資源産業学部:64%と「国立大学だから」との回答が最も多い一方, 歯学部は, 「国立大学だから」と「希望する学部・学科があったから」との回答それぞれ57%と54%とほぼ等しく, さらに, 医学部, 薬学部では「希望する学部・学科があったから」の回答がそれぞれ66%, 77%と最も多く, 医療系3学部では国家資格取得もあることから入学時における目的意識と国立大学への選択意識の高いことがうかがわれる。一方, 回答者数が50名以上あった学部で比較した場合, 「国立大学だから」と回答した最も高い学部は, 理工学部・工学部夜間の68%, 「希望する学部・学科があったから」では薬学部の77%, 「地元の大学だから」は総合科学部の46%であった。

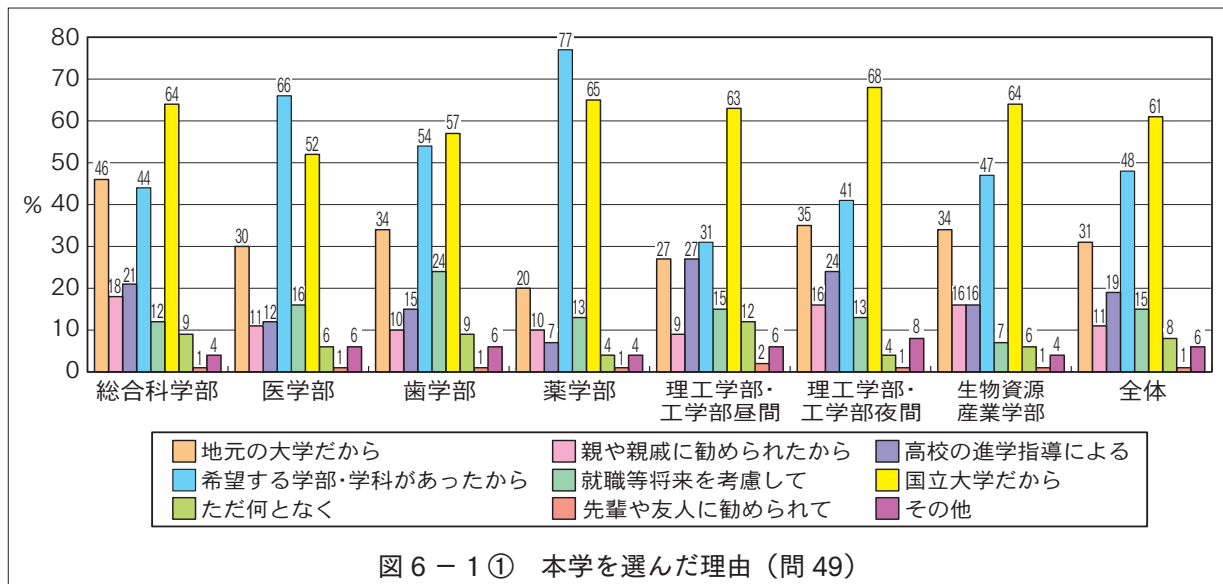


図6-1① 本学を選んだ理由 (問49)

(※問49は複数回答のため合計は100%にはならない。)

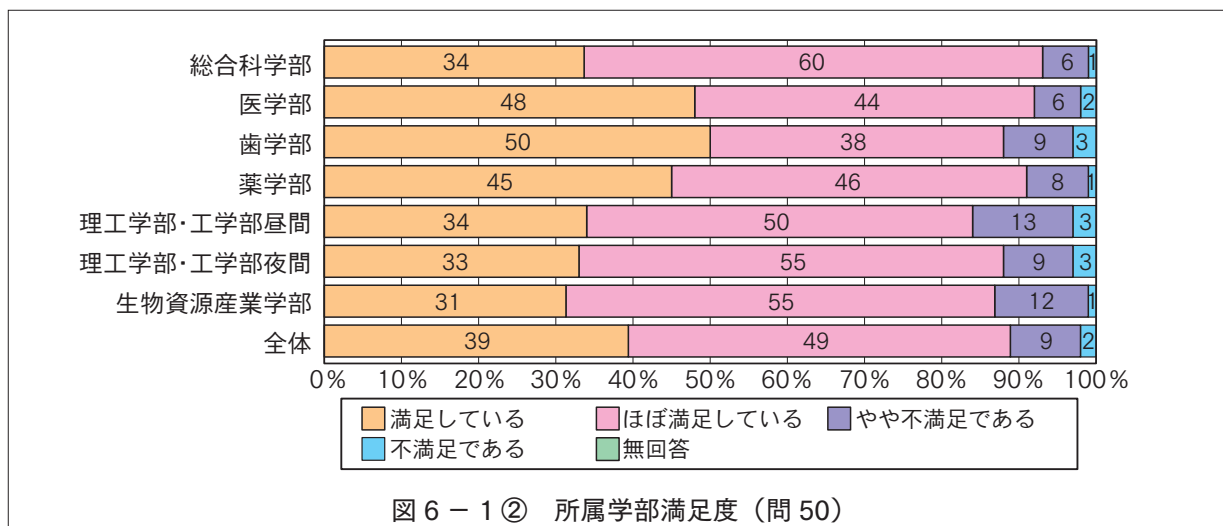
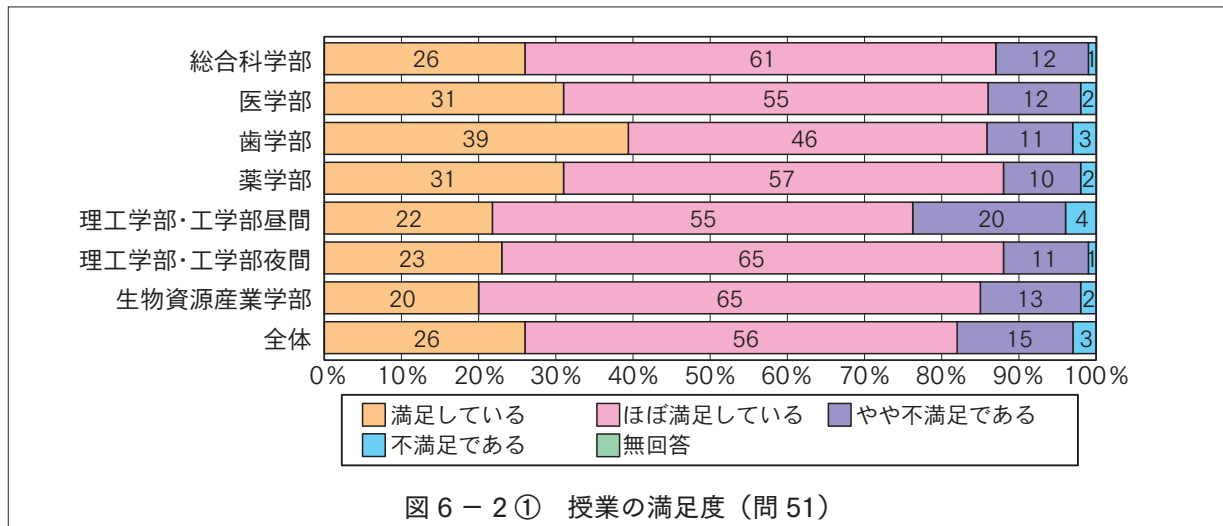


図6-1② 所属学部満足度 (問50)

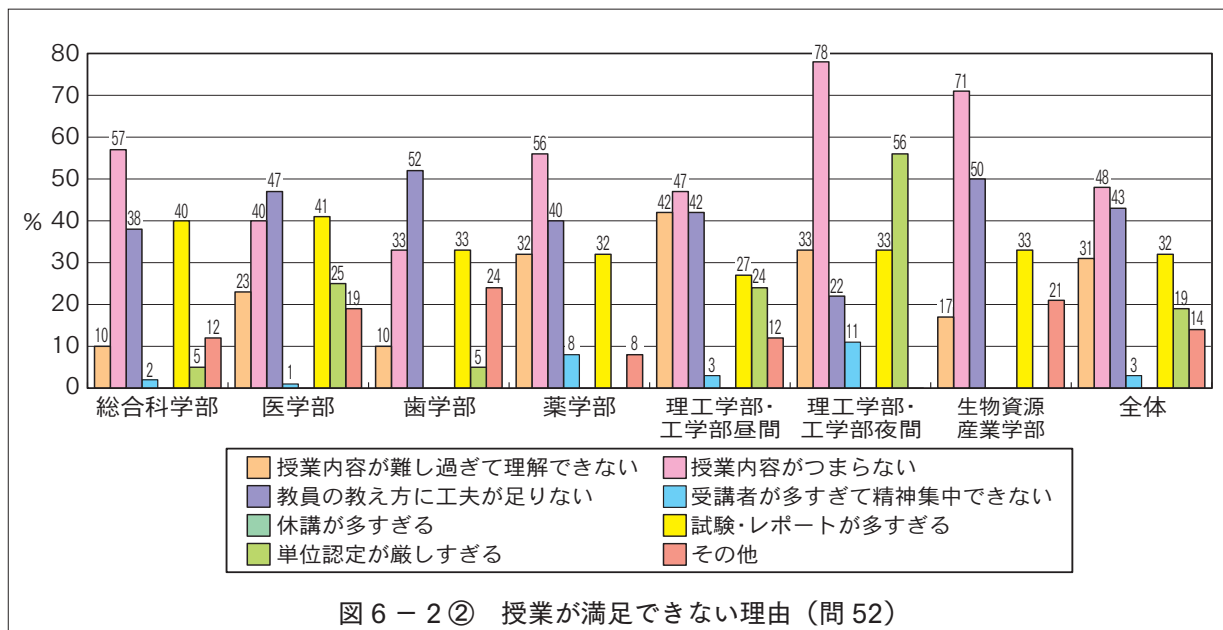
所属学部・学科に「満足している」と回答した学生は39%であり、「ほぼ満足している」と答えた学生（49%）と合わせて88%であった（図6-1②）。一方、「やや不満足である」は9%、「不満足である」は2%となっている。学部別に見ると、総合科学部、医学部、薬学部の順で満足度（満足している+ほぼ満足している）がそれぞれ94%、92%、91%と90%以上、その他学部も80%以上あり、概ね所属学部には満足していると言える。

6-2 授業の満足度（図6-2①，図6-2②）

受講している授業への満足度に対する設問に対しては、「ほぼ満足している」との回答（56%）が最も多く、続いて「満足している」が26%、「やや不満足である」が15%、「不満足である」が3%となっている（図6-2①）。学部別に見ると、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた回答は、理工学部・工学部昼間（77%）を除き、その他学部は80%以上が「ほぼ満足している」以上であると回答している。



授業が満足できない主な理由（複数回答可）は、「授業内容がつまらない」が最も多く（48%）、「教員の教え方に工夫が足りない」が43%、「授業内容が難しすぎて理解できない」が31%と、例年の調査

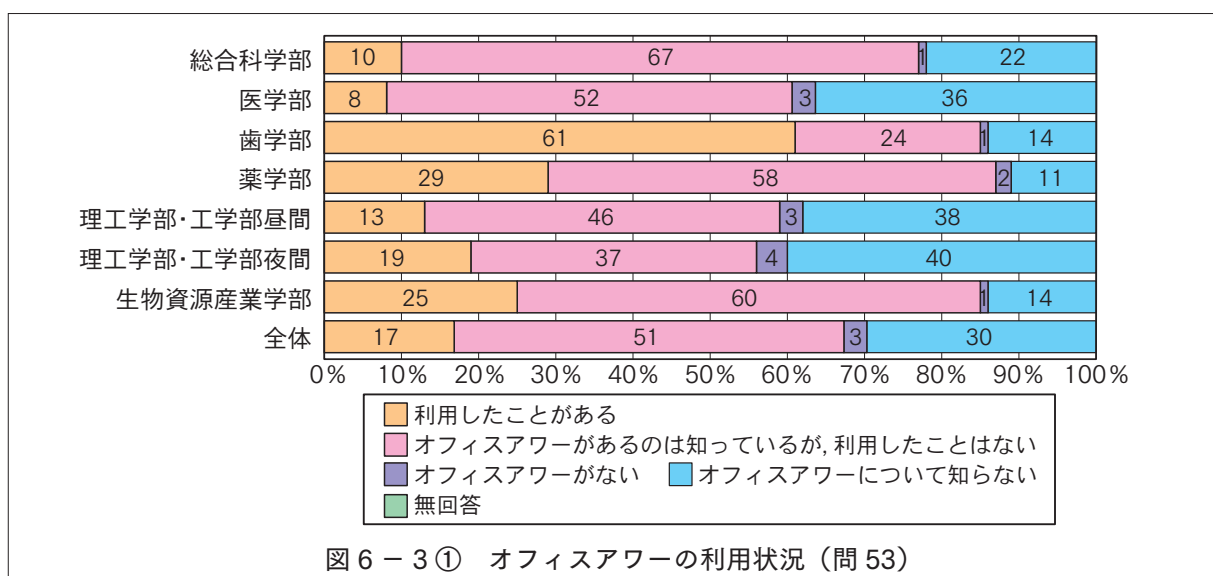


（※問52は複数回答のため合計は100%にはならない。）

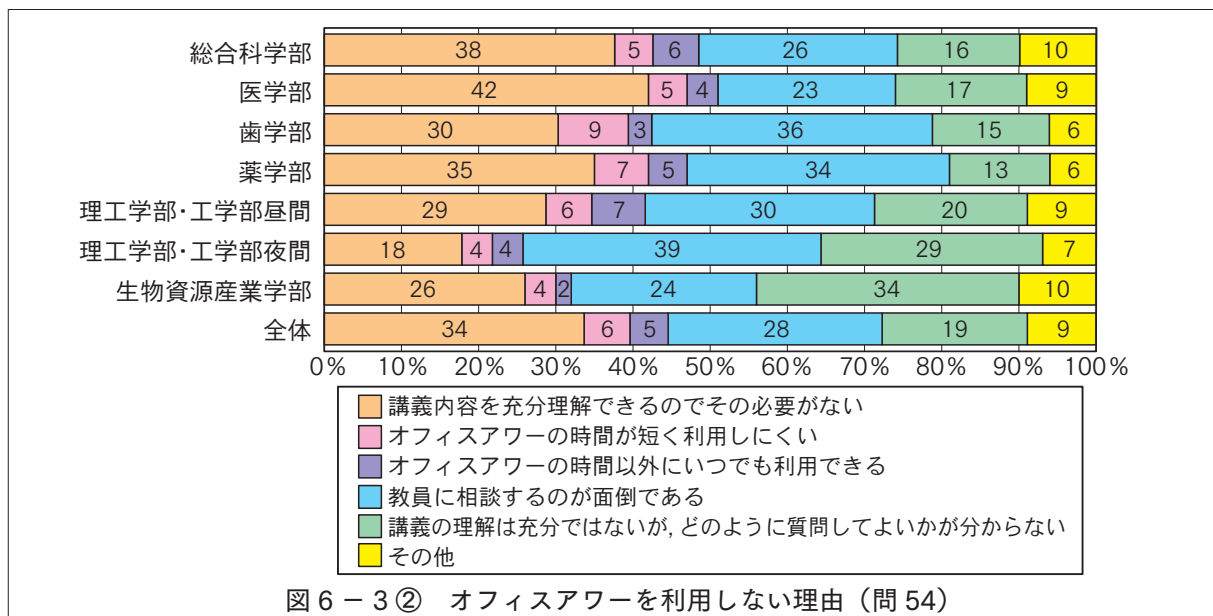
と同様であった（図6-2②）。理由の中で最も高い回答を学部別に見てみると（回答者数20名以上），総合科学部，薬学部，理工学部・工学部夜間，生物資源産業学部は「授業内容がつまらない」が高い回答を示し，「教員の教え方に工夫が足りない」については，医学部，歯学部であった（図6-2②）。

6-3 学修支援制度の利用状況（図6-3①，図6-3②，図6-3③）

オフィスアワーについては，わずか平均17%の学生が「利用したことがある」と答えており，（図6-3①）。一方で，「オフィスアワーについて知らない」と回答した学生（30%）と，オフィスアワーの周知が進んでいないことがうかがわれ，コロナ禍での登校が少ない環境下であるものの，周知へ向けた一層の取り組みが必要である。学部別に見ると，前回調査同様，医学部でのオフィスアワー利用状況が極端に低い（利用したことがある：8%）。一方，歯学部では61%，に達しており他学部と比較すると高い利用状況である。

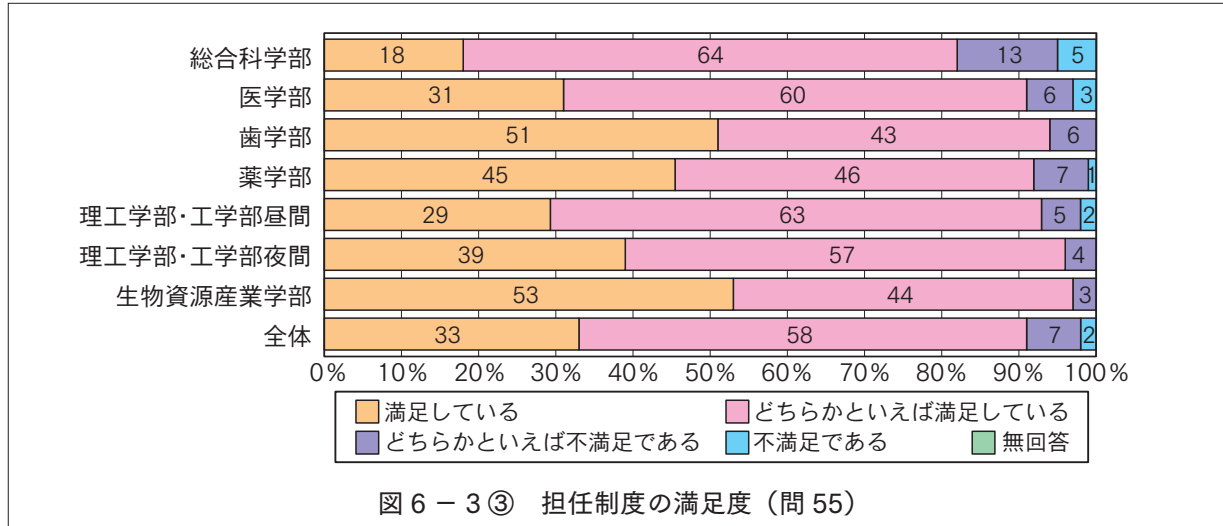


オフィスアワーを利用しない理由として，「講義内容が充分理解できるのでその必要がない」が平均34%と「教員に相談するのが面倒である」平均28%，「講義の理解は充分ではないが，どのように質問してよいか分からない」が平均19%と例年の調査と同様の傾向となっている（図6-3②）。毎回指



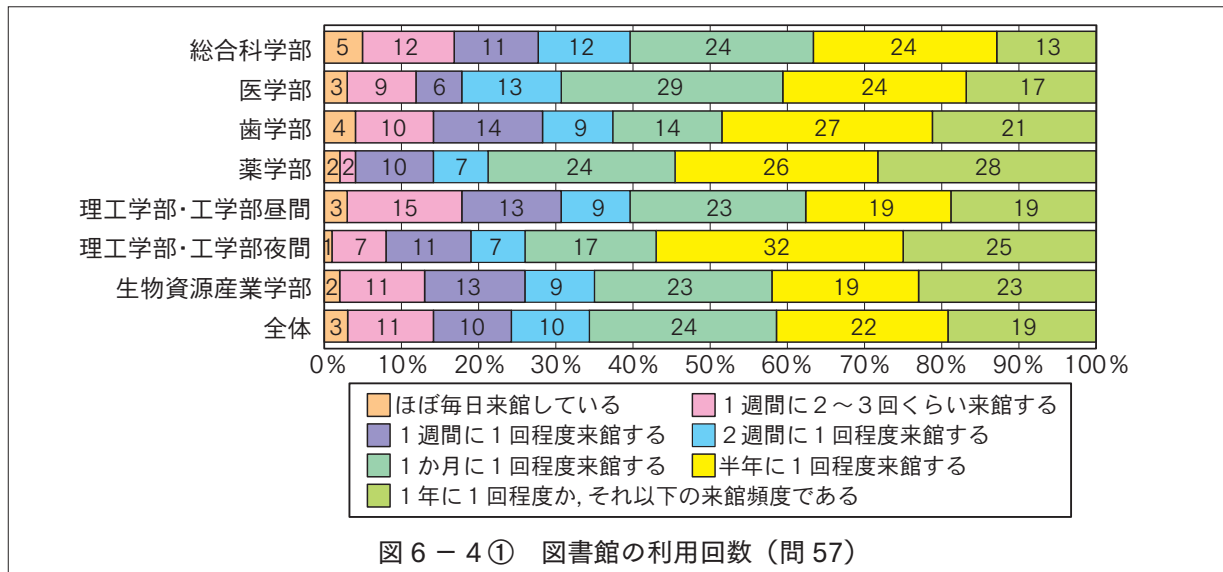
摘があるように、学生が相談しやすい環境づくりなどオフィスアワーの利用改善に向けた取組が必要である。

一方、全学的に進められているクラス担任制において、「どちらかといえば満足している」との回答（58%）が最も多く、続いて「満足している」が33%、「どちらかといえば不満足である」が7%、「不満足である」が2%となっている（図6-3③）。学部別に見ると、50%以上が「満足している」と回答した学部は、歯学部（51%）と生物資源産業学部（53%）であった。

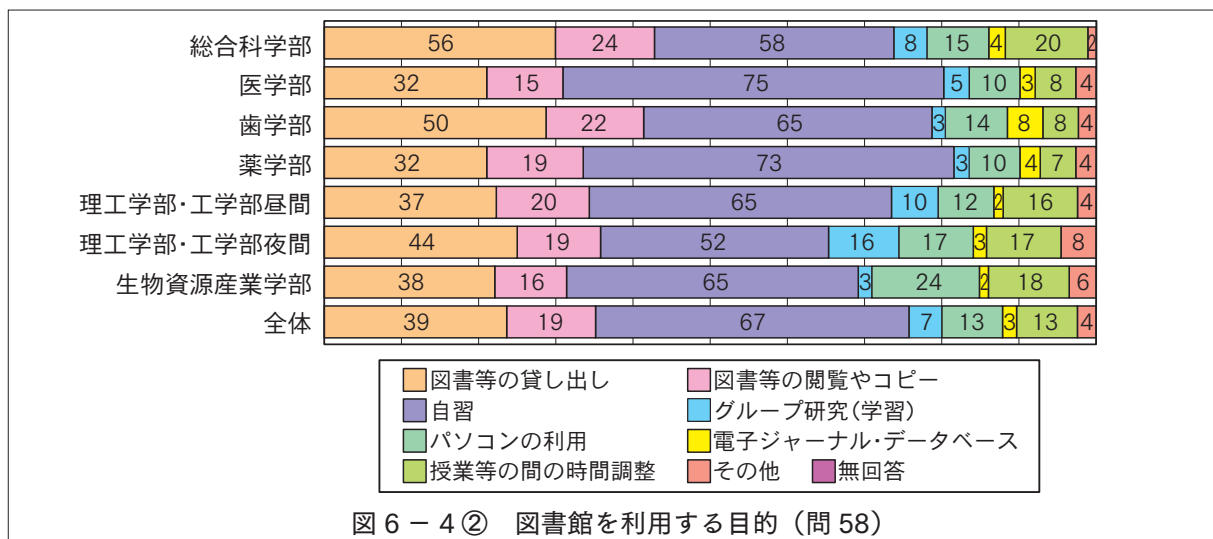


6-4 図書館の利用状況 (図6-4①, 図6-4②, 図6-4③)

図書館を1週間に1回以上利用する学生は24%（毎日：3%、週2～3回程度：11%、週1回程度：10%）であり、学部別に見ると、薬学部（14%）、医学部（18%）、理工学部・工学部夜間（19%）と平均より下回っている（図6-4①）。例年、利用率の高い生物資源産業学部は26%と低下しており、コロナ禍の利用率が低下していることが伺われるが、図書館離れが進む現状を考えると今後の図書館の在り方を再考する必要があるかもしれない。

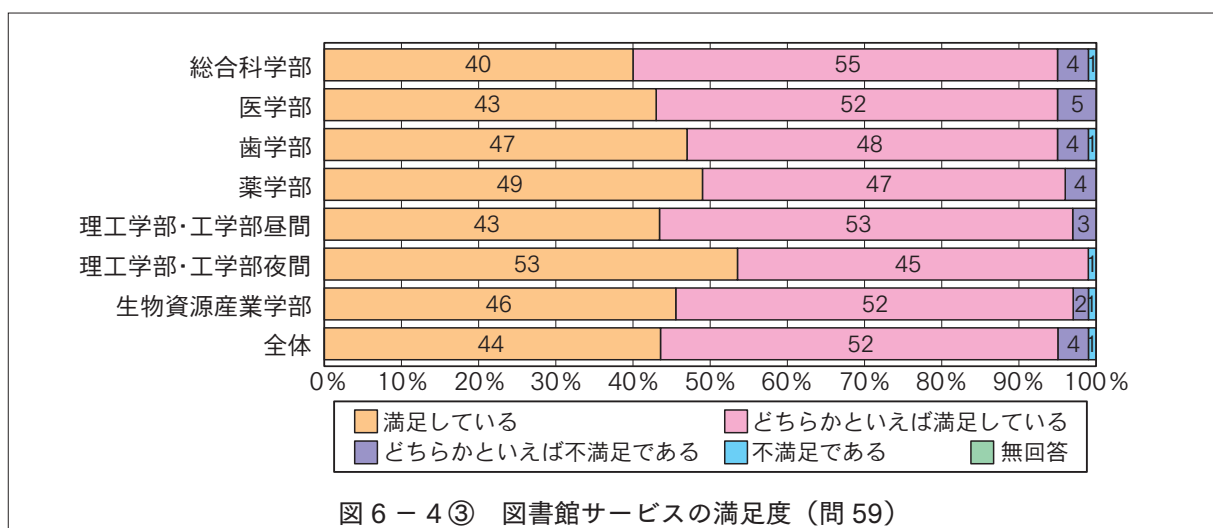


図書館を利用する理由（複数回答可）としては「自習」（67%）が最も多く、次いで「図書等の貸し出し」が39%で、「図書の閲覧やコピー」が19%、「パソコンの利用」が13%であり、各学部とも同様の傾向であった（図6-4②）。学生の多様なニーズに対応したサービスの一層の充実が望まれる。



(※問 58 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

図書館のサービスに対する満足度としては、「どちらかといえば満足している」との回答 (52%) が最も多く、続いて「満足している」が 44%、「どちらかといえば不満である」が 4%、「不満である」が 1%となっており、各学部とも同様の傾向であった (図 6 - 4 ③)。



第7章 課外活動について

7-1 サークル加入状況 (図7-1①~図7-1③)

サークル加入状況は、2,453名の調査をまとめた結果、学内の文化系サークルが16%（男子13%、女子20%）、体育系サークルが42%（男子39%、女子45%）で、この比率は前回調査とはほぼ同様であるが、文科系サークルへの加入率がやや減少したため、文科系より体育系が約2.6倍（前回調査約2倍）多い結果となった。男女の比率は、女子の方がどちらの系においても男子より高く、この傾向も前回の調査結果と同様であった。学内のサポート系サークルへの加入率は2%である。以前加入していたが現在は加入していない

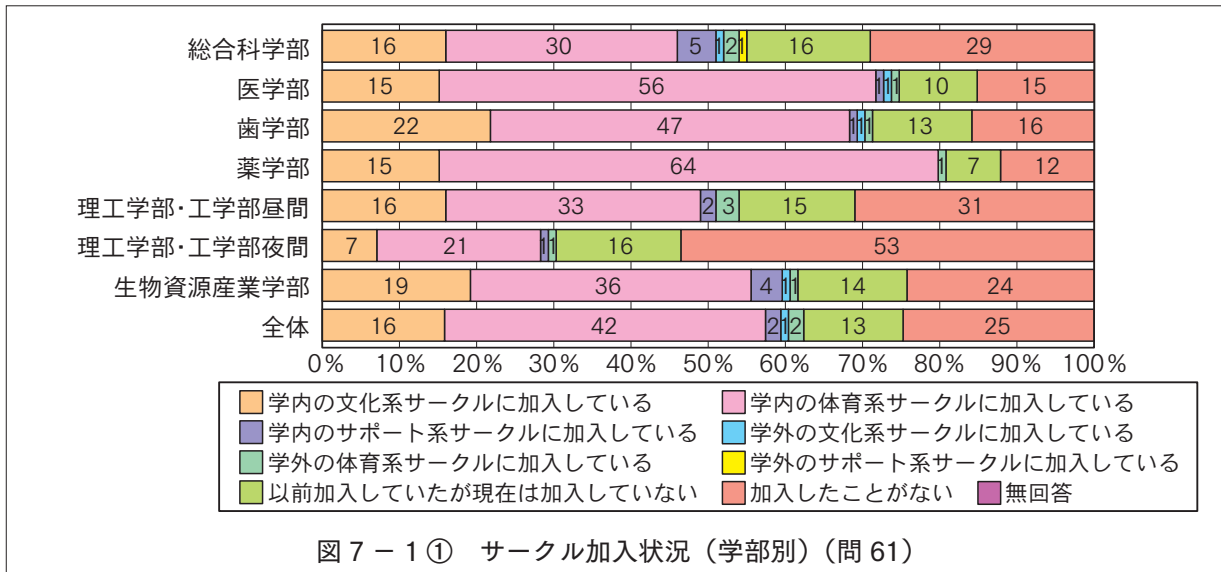


図7-1① サークル加入状況 (学部別) (問61)

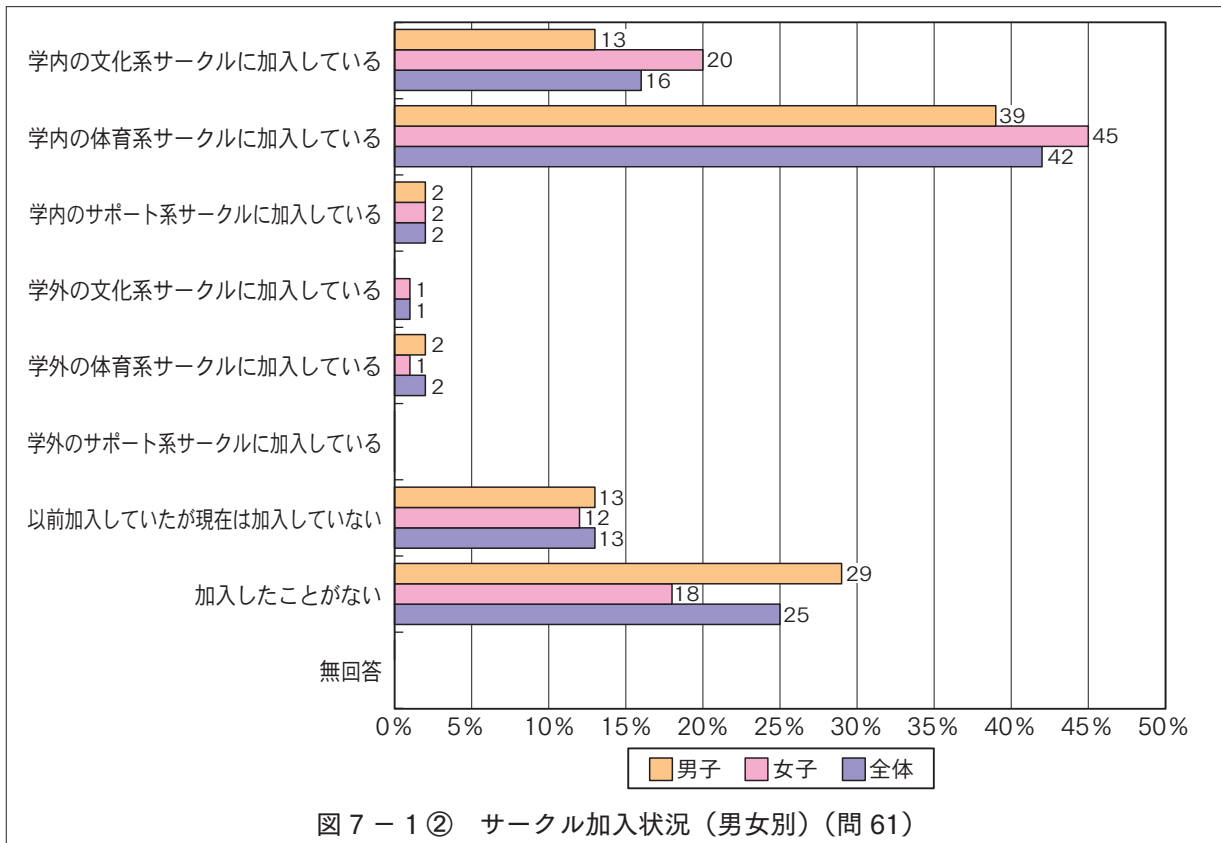
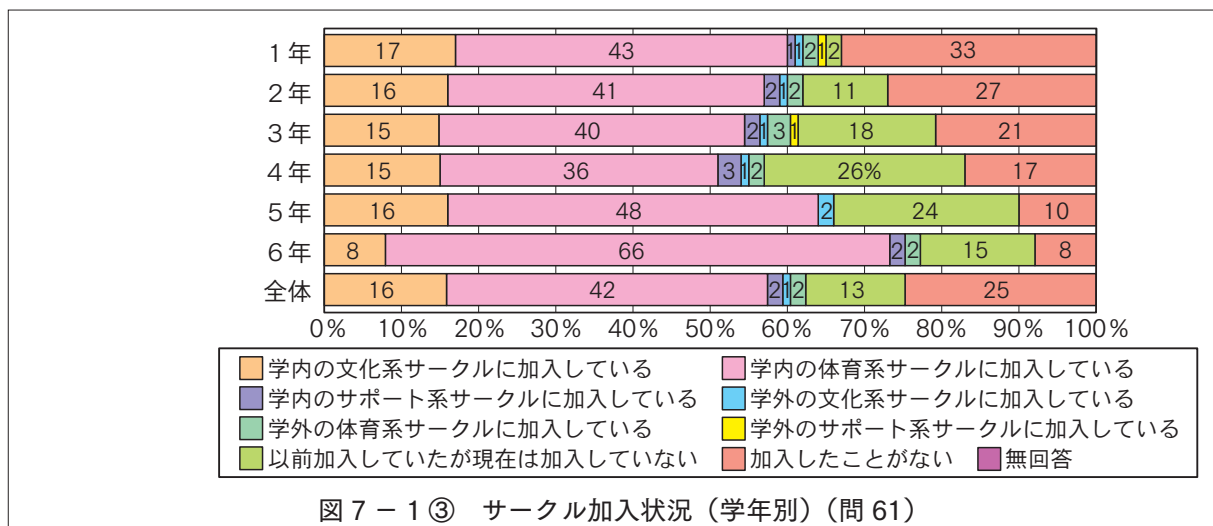


図7-1② サークル加入状況 (男女別) (問61)

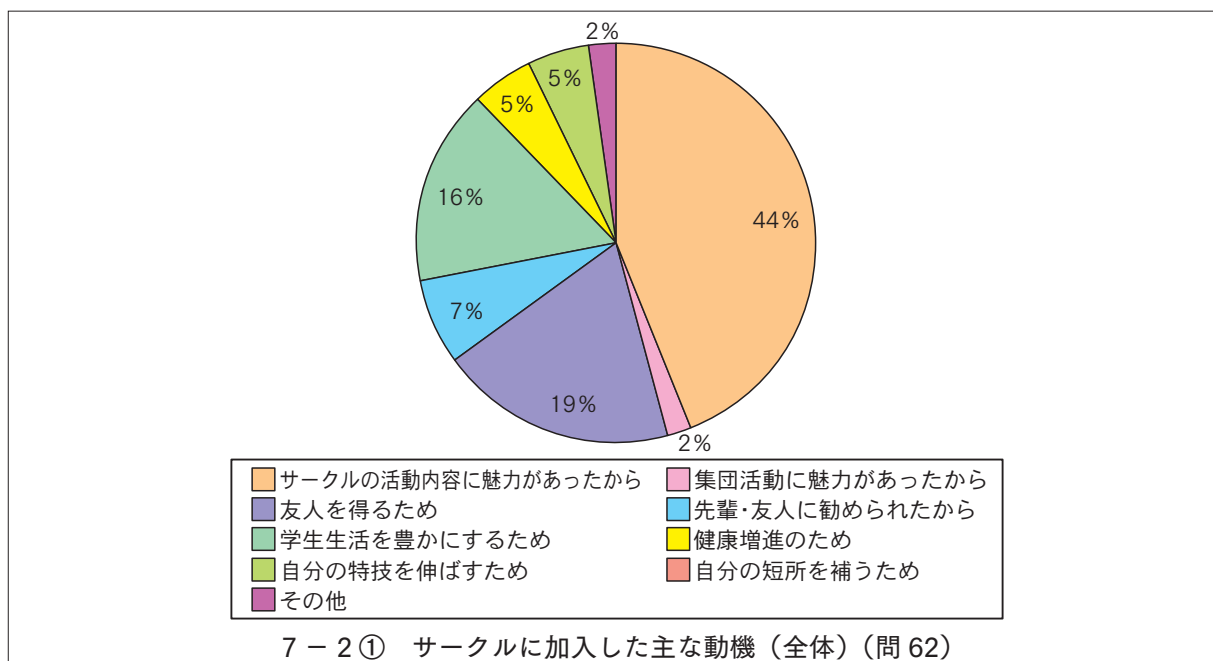


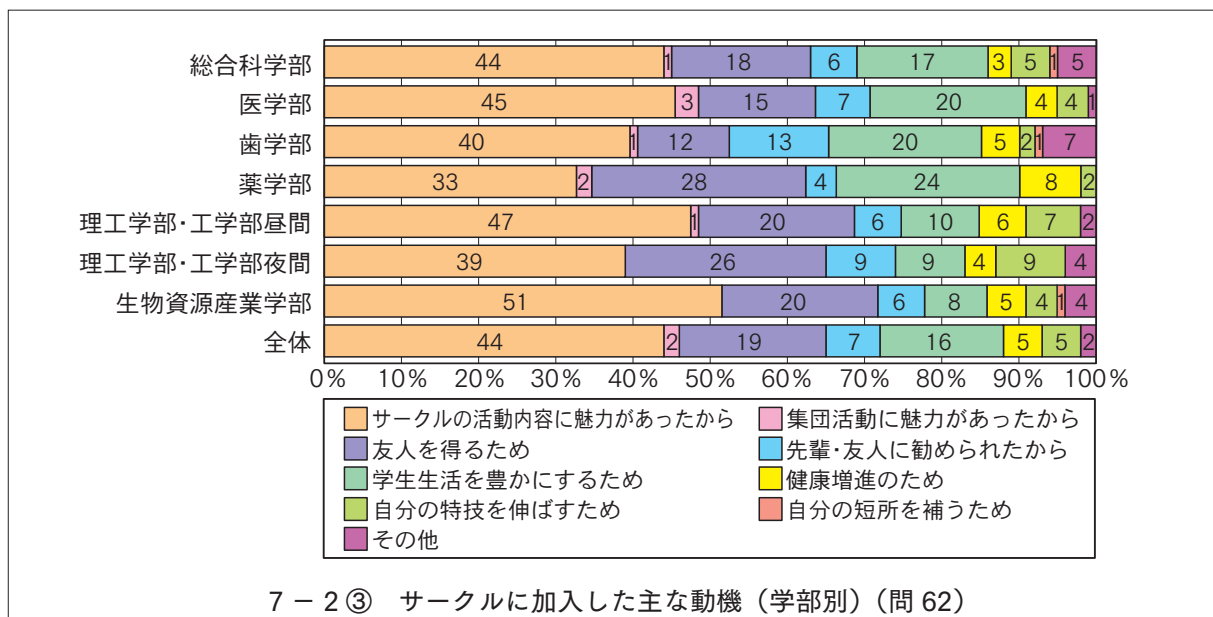
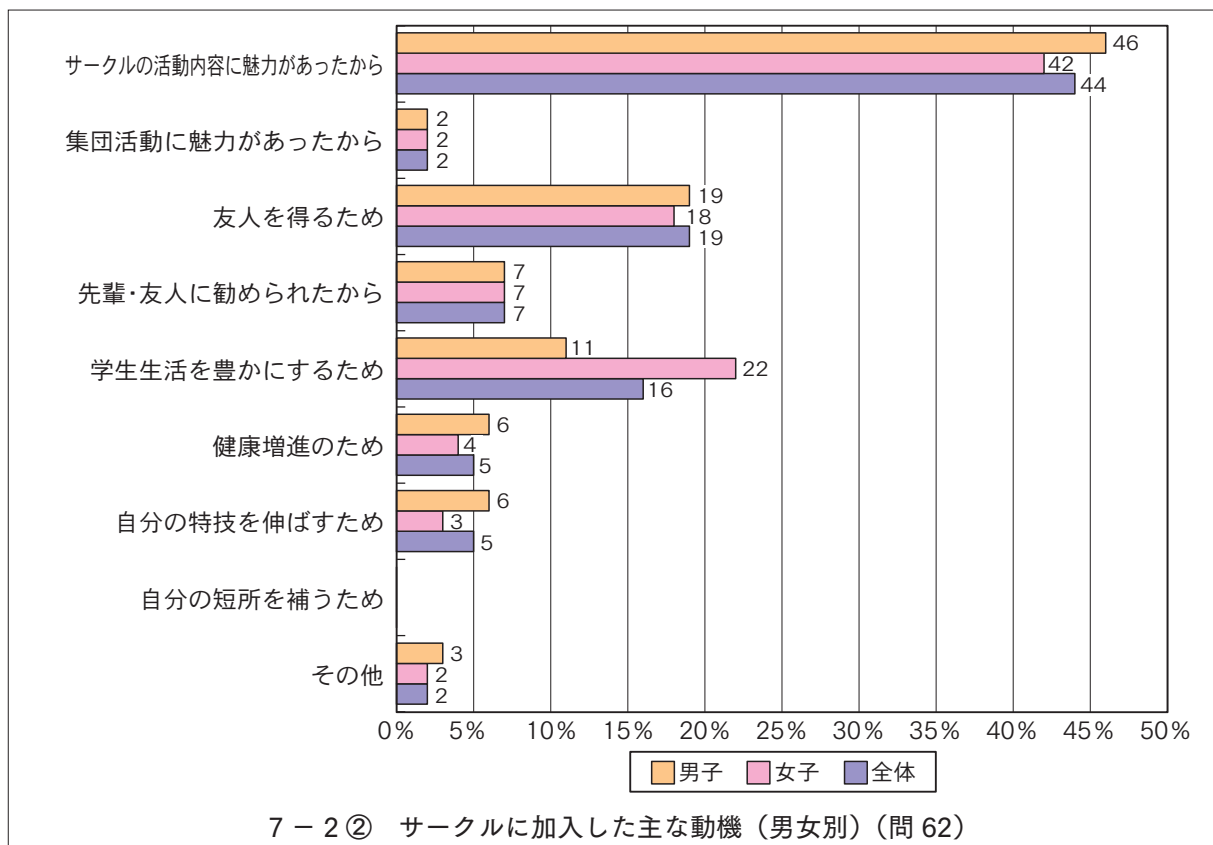
加入していない学生の比率は13%、学外のサークルへの加入率は3%である。一方、加入したことがない学生は25%と、前回調査(16%)から増加していた。

各学部別のサークル加入状況は、総合科学部55%、医学部75%、歯学部71%、薬学部81%、理工学部・工学部昼間54%、理工学部・工学部夜間31%、生物資源産業学部62%であり、前回調査結果同様、蔵本キャンパスの学生(医・歯・薬学部)の方が、常三島キャンパスの学生(総合科学部、理工学部、生物資源産業学部)よりサークル加入率が高かった。

7-2 加入の動機 (図 7-2①~図 7-2②)

サークルへの加入動機の上位は、「活動内容に魅力があったから(44%)」、「友人を得るため(19%)」、「学生生活を豊かにするため(16%)」である。前回調査で上位4位(9%)であった「友人を得るため」が2位に順位を上げ、一方で前回2位(13%)だった「先輩・友人に勧められたから」は4位(7%)に後退していた。男女別では、「学生生活を豊かにするため」を選んだ学生が、男子11%、女子22%と、前回調査同様、女子の比率が高かった。それ以外の動機では、男女間でほとんど差がなく、また、学部別に見ても、大きなばらつきは見られなかった。



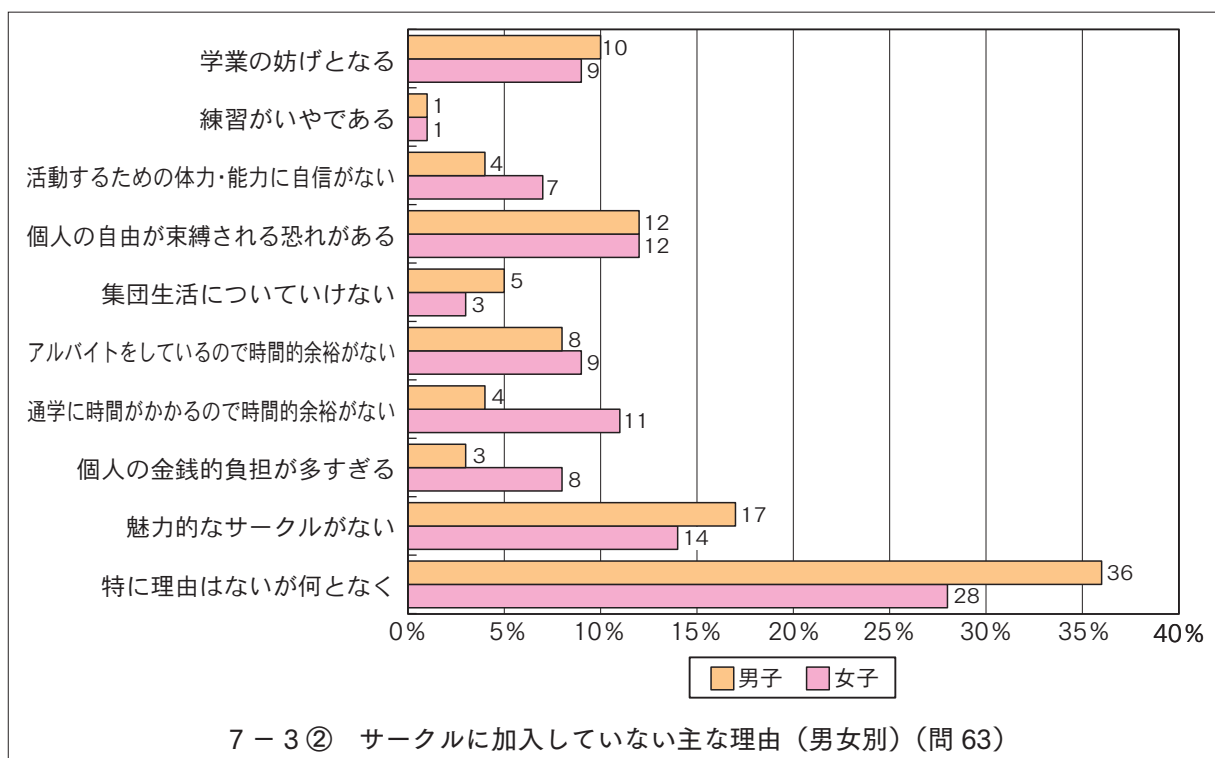
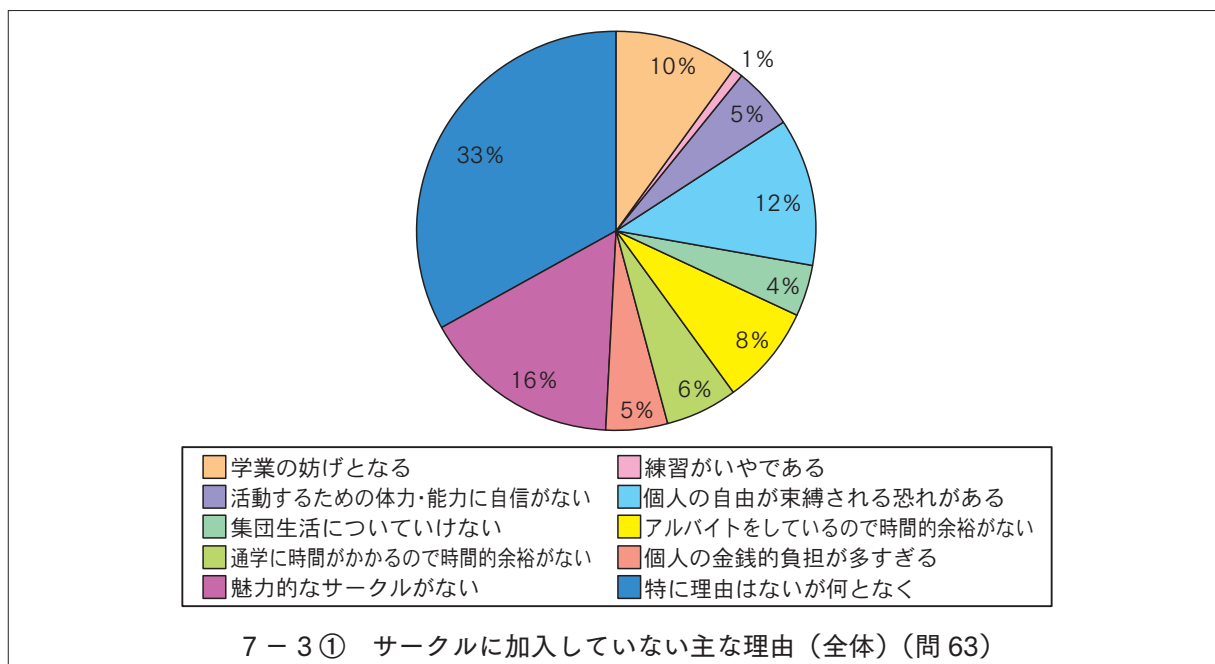


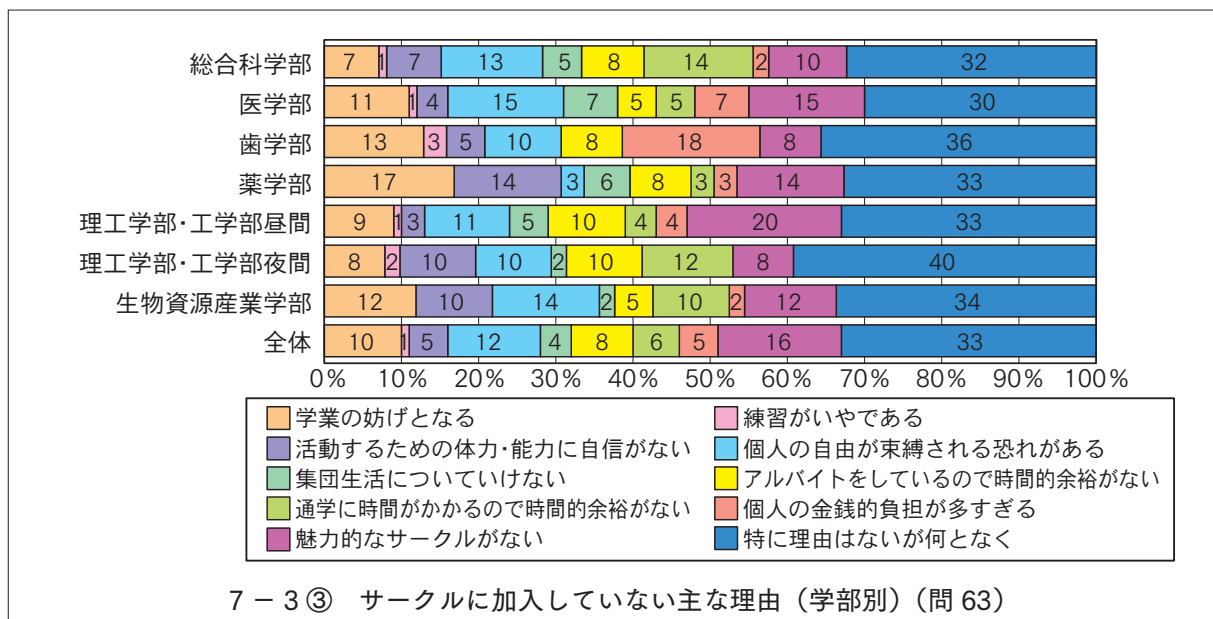
7-3 サークルに加入していない理由 (図 7-3①~図 7-3③)

調査時にサークルに加入していない学生は、2,453 名中 921 名 (38%) で、全体の約 4 割である。加入していない理由は、「特に理由はないが何となく」(33%) が最も多く、「魅力的なサークルがない (16%)」、「個人の自由が束縛される恐れがある (12%)」、「学業の妨げとなる (10%)」、「アルバイトをしているので時間的余裕がない (8%)」と続く。これら上位の理由は前回調査と変わらないが、比率は、「特に理由はないが何となく」が前回 (16%) から倍増していた。男女別に見ると、「特に理由はないが何となく」では、男子が女子より比率が高く、一方、女子では「通学に時間がかかるので時間的余裕が

ない」が男子より高かった。

学部別では、おおむね同じ傾向がみられたが、歯学部では「個人の金銭的負担が多すぎる」が18%と最も比率が高く、薬学部では「個人の自由が束縛される恐れがある」が3%と最も低いという違いがみられた。





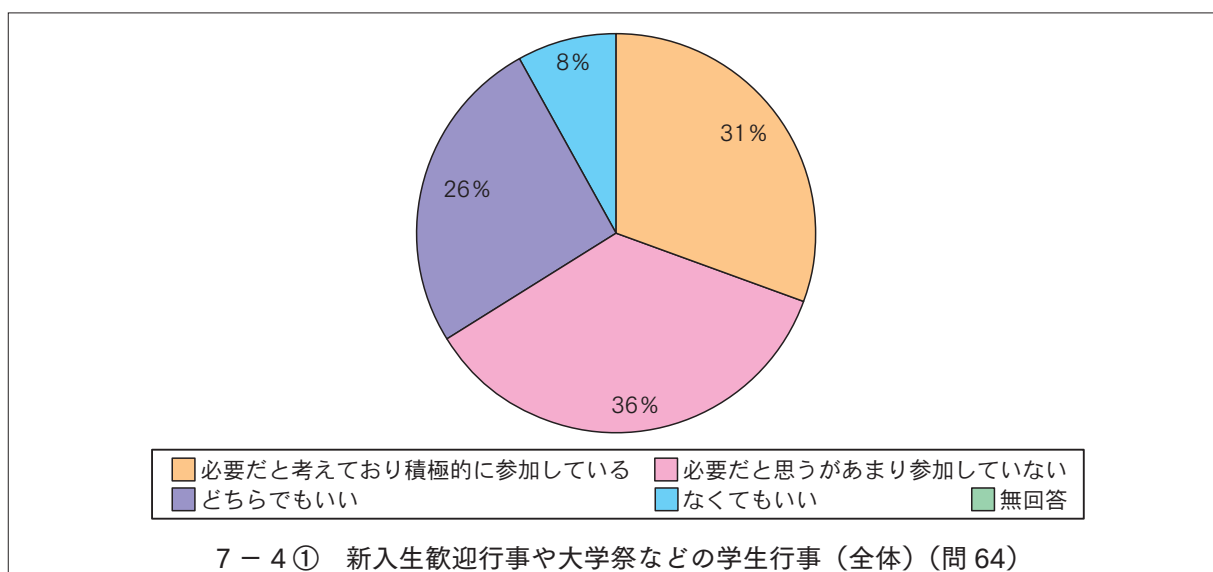
7-4 学生行事（図 7-4①～図 7-4④）

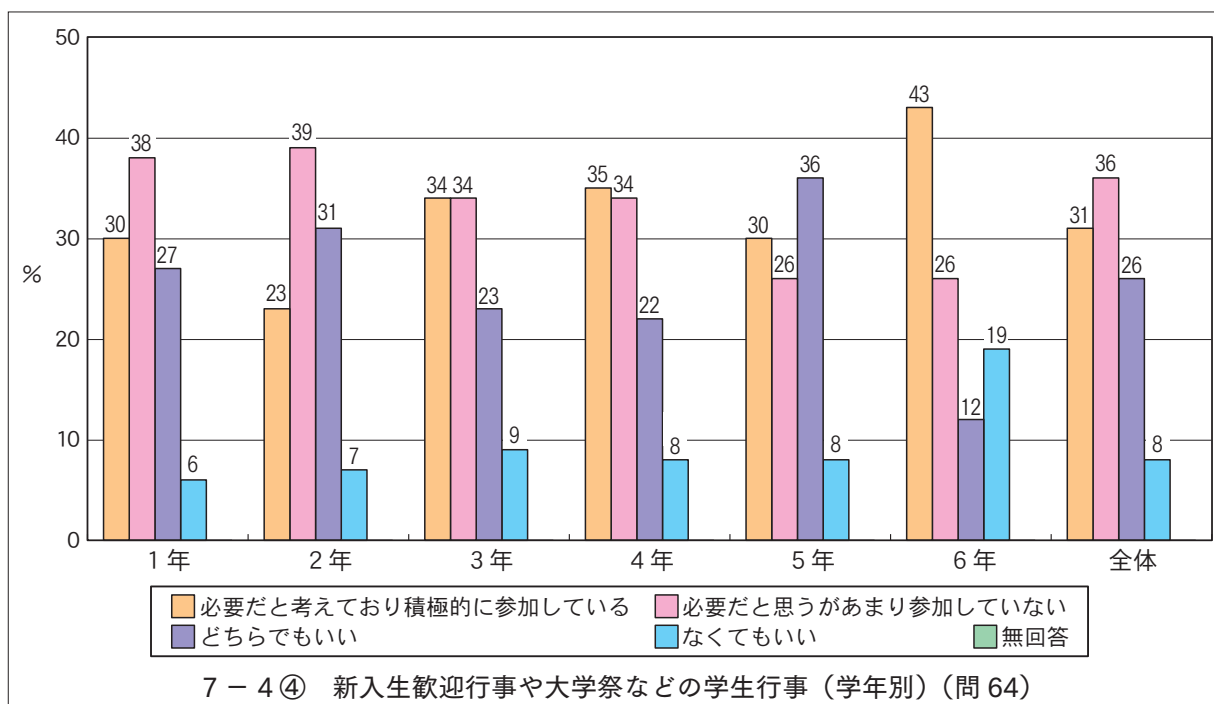
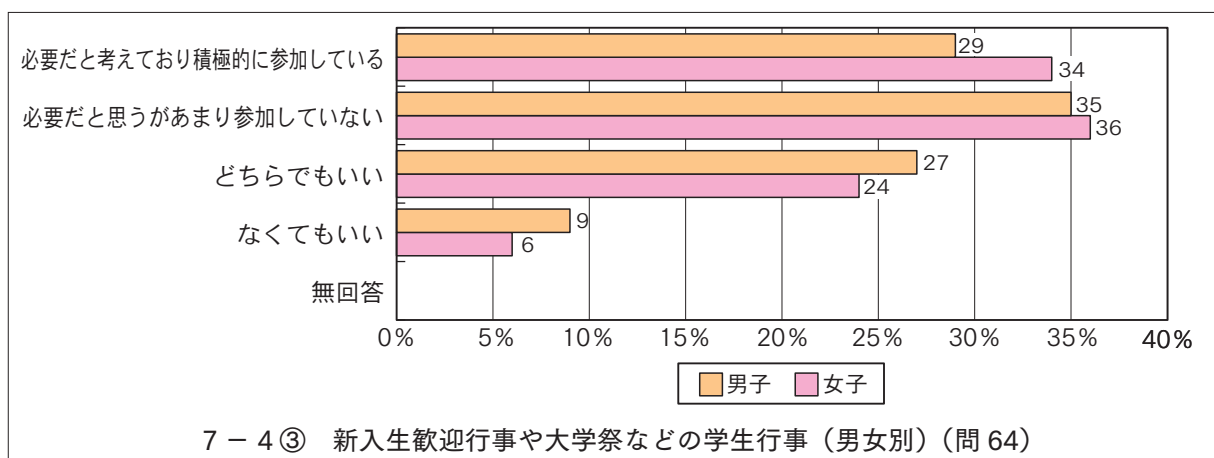
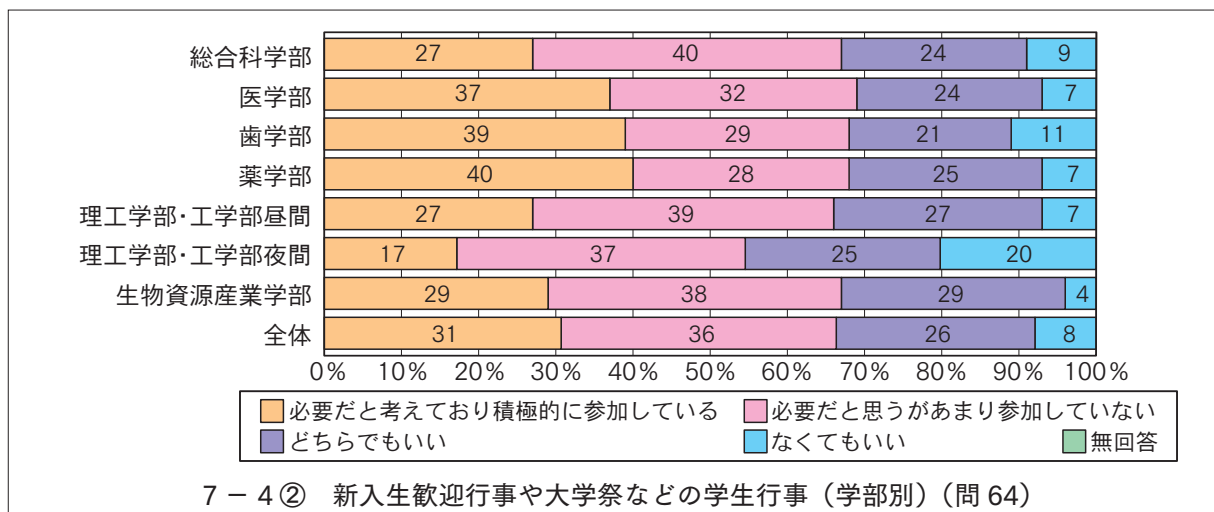
新入生歓迎会や大学祭については、67%の学生が必要と考えているものの、積極的に参加している学生の比率は31%で、前回調査（36%）より減少している。一方で、「どちらでもいい」を選択した学生の比率は増加しており、全体的に学生行事に対する学生の興味は、減少傾向であると思われる。

学部別では、前回調査結果同様、蔵本キャンパス（医・歯・薬学部）に比べ、常三島キャンパスの学部で積極的に参加する学生の比率が低い傾向にある。

男女別では、「積極的に参加した」と答えた学生の比率は、男子が29%、女子が34%で、女子の方が5ポイント多いことがわかる。この傾向も前回と同様であるが、男女の差（前回9ポイント）が小さくなっている。「どちらでもいい」、「なくてもいい」を選択した学生は、男子が36%、女子が30%で、学生行事に否定的な態度を持つ学生の比率も、前回調査に比べ、男女間で差が小さくなっている。

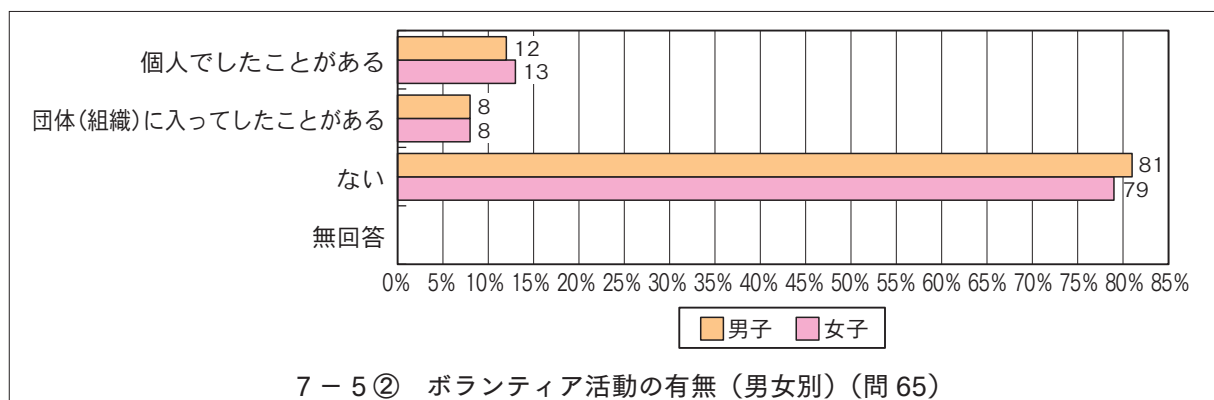
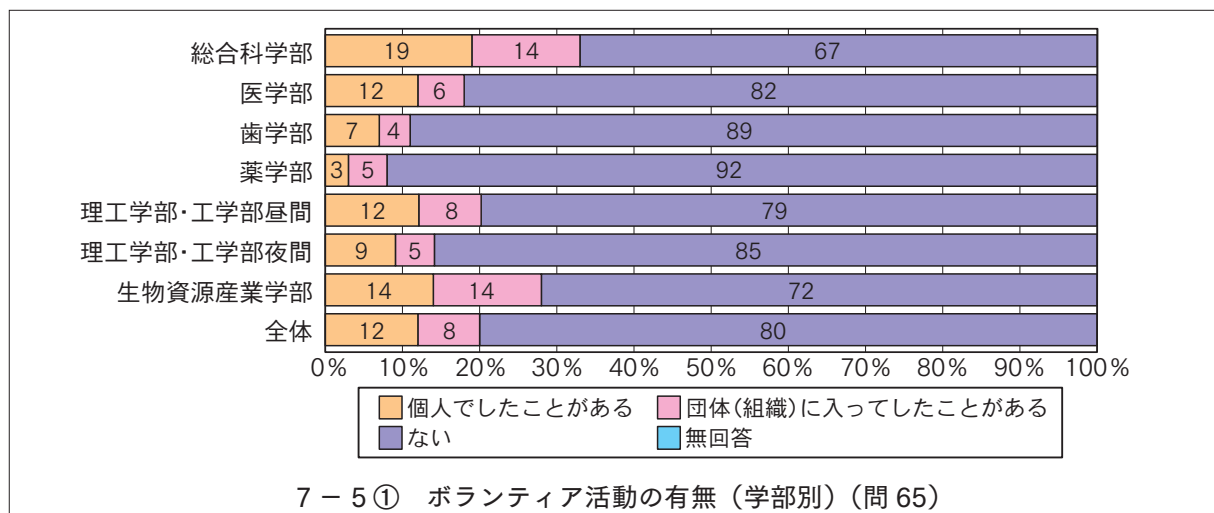
学年別では、前回調査と異なり、積極的に参加した学生の比率は1,2年次で大きく減少していた。理由として、2年に及ぶCOVID-19流行の影響で多くの行事が中止になり、参加機会を失ったことが考えられる。





7-5 ボランティア活動 (図7-5①, 図7-5②)

全体の集計では、ボランティア活動の経験がある学生の比率は、個人で行った経験がある学生が12%、団体に入って行った経験がある学生が8%で、両方を合わせて20%と、前回調査の32%から減少していた。COVID-19 流行下で、活動自体が縮小を余儀なくされたことも大きな要因と思われる。特に、歯学部、薬学部で大きく減少していた。なお、男女別では、違いは見られなかった。



まとめと今後の課題

サークル活動や学生行事、ボランティア活動などの課外活動への学生の参加は、COVID-19 流行下であったことを考慮しても、一般的にここ数年減少傾向が続いている。課外活動は、単位にはならないが、学生の多様な能力の養成、共同活動を行う上での協調性の涵養、また新たな経験による今までにない観点にたった考え方を身につけるために、重要な活動であると考えられることから、学生個々の事情はあるが、可能であれば多くの学生に課外活動に積極的に取り組んでもらいたい。そのために、大学も多くの学生が課外活動に参加できるよう支援することが必要である。その一つの取り組みとして、課外活動に対する情報発信支援が考えられる。サークル活動を行わない理由として最も多かったのが、「特に理由はないが何となく」であった。他の課外活動についても、この様な明確な理由がなくて参加していない学生諸君が多いと思われることから、情報提供は課外活動への参加のきっかけになると期待できる。

第8章 進路・就職について

8-1 進路情報入手手段 (図8-1)

図8-1は、進路を考える上での情報入手手段について複数回答可として尋ねたものである。全体的に前回調査とほぼ同様の傾向を示しており、学部ごとによる差違もそれほど大きくはない。全体では、「インターネット利用」25%、「先輩・知人」21%と多く、次いで「指導教員」13%、「家族等」10%、「大学内の資料」9%、「就職情報誌・新聞・マスコミ」8%の順となっている。蔵本地区の3学部では「先輩・知人」の割合が全体よりやや高く、歯学部および薬学部では比較第一位となっている。また、この両学部および生物資源産業学部では、「指導教員」の比率も全体より高いが（いずれも16%超）、他学部より著しく高いとまでは言えない。これらのことより蔵本地区の3学部では「先輩・知人」の占めるウエイトがやや高く、一方常三島地区の3学部では「インターネット利用」が多い。キャリア支援室からの情報入手率は全体で4%と高いとは言えず、学生の利用を促進する広報活動の一層の進展が望まれる。また前回調査同様、「直接会社に照会」は2%程度に過ぎない。これはコロナによる影響やインターンシップの機会充実等が理由として考えられるが、学生にはより主体的に情報にアクセスするよう促す必要もあると思われる。

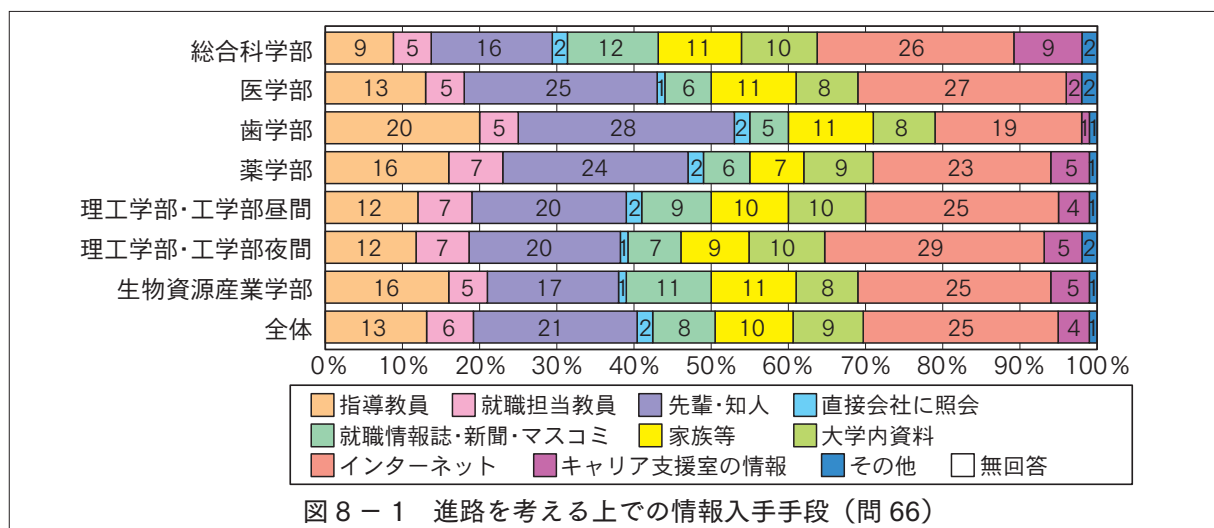
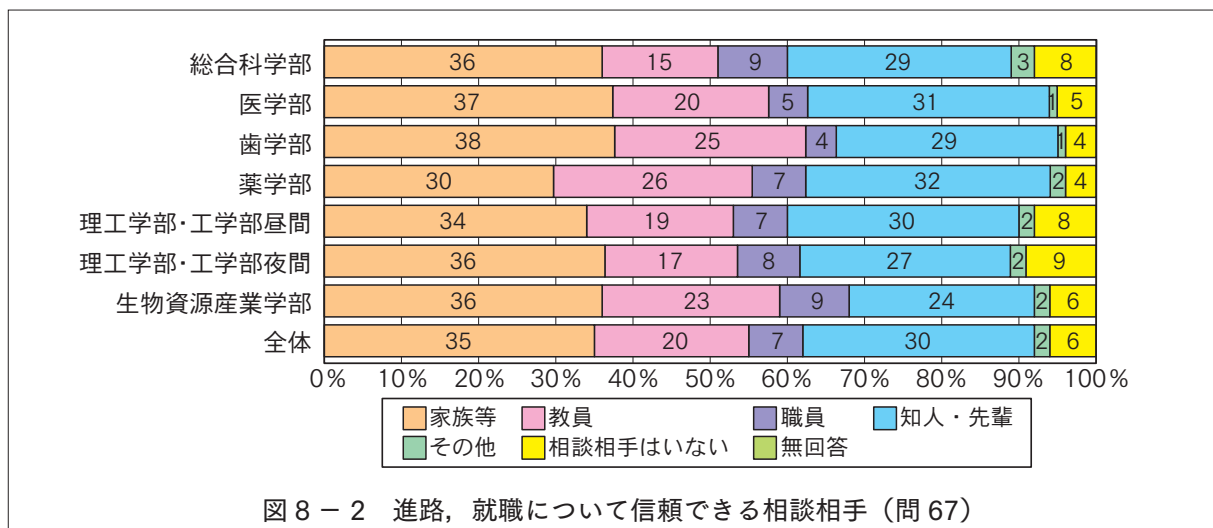


図8-1 進路を考える上での情報入手手段 (問66)

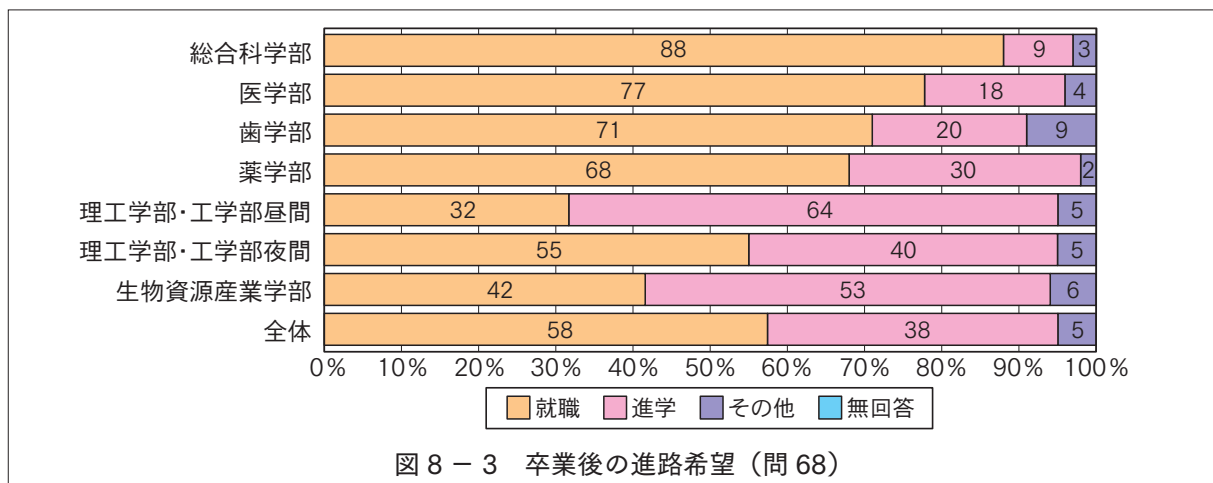
8-2 就職・進学相談相手 (図8-2)

図8-2は、進路、就職について信頼できる相談相手について複数回答可として尋ねたものである。各学部ともほぼ同様の回答分布となっている。上位3つについて、上から「家族等」(全体では35%、学部ごとでは30~38%)、「知人・先輩」(全体では30%、学部ごとでは24~32%)、「教員」(全体では20%、学部ごとでは15~26%)の順であり、前回調査と大差ない。一方で、「相談相手はいない」が各学部4~9%あり無視できない数字である。近年の学生の傾向として、コミュニケーション能力がある学生は大学生活の各ステージをあまり問題なくこなしていくのに対し、他者とのコミュニケーションに苦手意識を持つ学生はさまざまな局面でつまづくことも多く、そのような学生に対する支援が、就職活動のみならず必要とされる場所である。



8-3 就職・進学希望について (図 8-3)

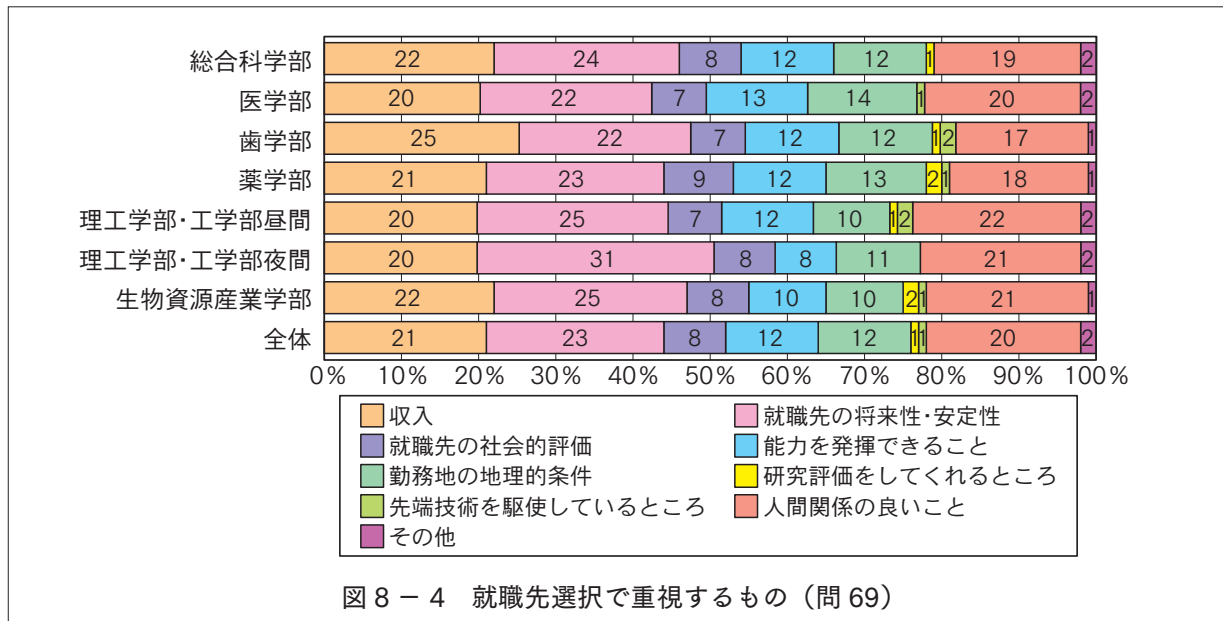
図 8-3 は、卒業後の進路希望について尋ねたものである。就職希望と進学希望の比率は全学部とも前回ならびに前々回調査とあまり変化がない。全体での進学希望者の割合は3分の1強であり、理工学部・工学部昼間コースおよび生物資源産業学部では半数を超えている。それに対し、総合科学部、医学部および歯学部における進学希望者の割合はこの順に低く、これは前回と同様である。学部や専門分野ごとの傾向もあるため一概には言えないが、大学院学生の定員確保という点からは進学希望者を増加させるための方策が求められる。



8-4 就職先選択で重視するもの (図 8-4)

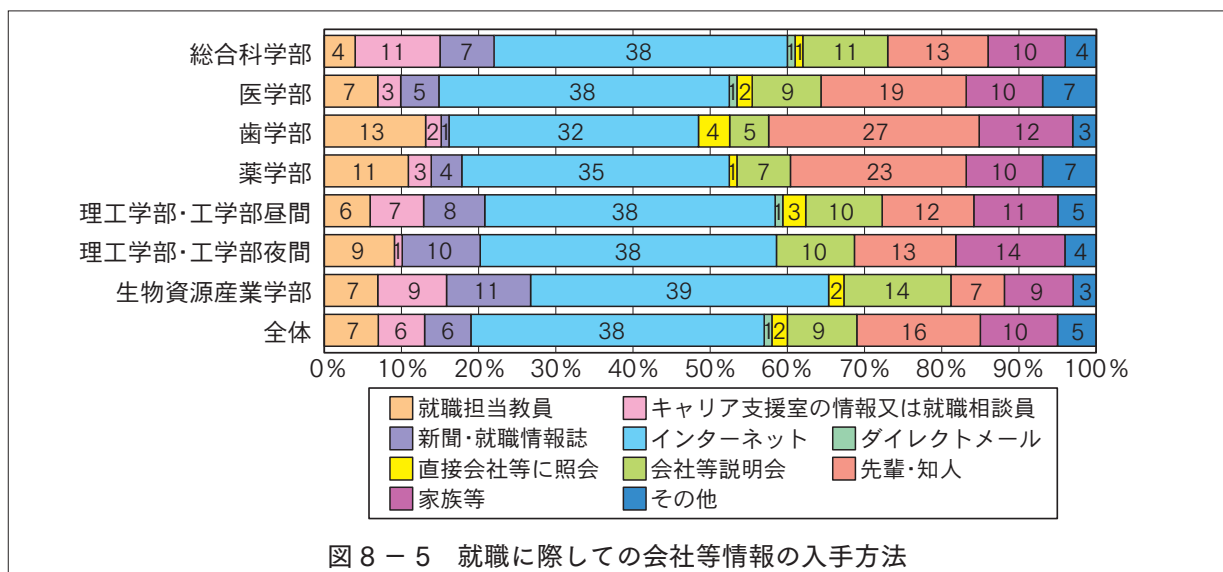
図 8-4 は、前問で「就職」希望と回答した学生に対して、就職先選択で重視するものについて複数回答可として尋ねたものである。各学部ともよく似た傾向を示しており、全体的な傾向も前回・前々回調査と大きくは変わっていない。全体では、「就職先の将来性・安定性」が23%（前回調査23%、前々回調査24%）と最も多く、歯学部を除く全ての学部で比較第一位である。次いで「収入」21%、「人間関係の良いこと」20%、「能力を発揮できること」12%、「勤務地の地理的条件」12%となっており、これらの順位は前回と変動ない。「就職先の社会的評価」は8%と少なく、「先端技術を駆使しているところ」と「研究評価をしてくれるところ」はともに1%とさらに少ない。近年の学生気質を評する言葉として、

「安定志向」「内向き」とはよく言われるところではあるが、そのような傾向が専門分野にかかわらず如実に表れているといえる。



8-5 就職情報の入手方法 (図 8-5)

図 8-5 は、前々問で「就職」希望と回答した学生に対して、就職に際しての会社等情報の入手方法について複数回答可として尋ねたものである。これも各学部とも前回調査および前々回調査とほぼ同様の結果である。全体では「インターネット」が 38% (前回調査 38%, 前々回調査 36%) とやはり多く、次いで「先輩・知人」16%、「家族等」10%、「会社等説明会」9%、「就職担当教員」7%と続く。「インターネット」、「先輩・知人」、「家族等」が上位を占めるのは、8-1 に示した進路を考える上での情報入手手段と同様の結果といえる。また、蔵本地区 3 学部で「先輩・知人」の割合が若干高いことも同様といえる。同地区 3 学部では「キャリア支援室」がいずれも 3% 以下となっており、キャリア支援室の存在の周知に課題の残る結果といえる。キャリア支援室では、蔵本地区においても就職相談体制を整えており、コーディネーターや専門のキャリアカウンセラーと直接面談することも可能である。特に今年度は実態として蔵本地区での利用者数が顕著に増加しているが、主として実際に就職を控えた最終学年



生の利用に留まったためか、ここでは結果に表れていない。学生へのより一層の広報，特にこれまで示してきた同地区での調査結果を勘案すれば、「先輩・知人」による口コミ等の利用が効果的と思われる。なお、かつては学生に対する会社関連情報の主たる提供手段と見なされた「ダイレクトメール」は前回に引き続きほとんど活用されておらず、媒体としての使命をほぼ終えたものと見なされる。

8-6 希望する職種 (図8-6)

図8-6は、問68で「就職」と回答した学生に対して希望職種を複数回答可として尋ねたものである。全体的な傾向は前回からあまり変わっていない。医学部・歯学部・薬学部では「専門職（医師・看護師等）」が56～75%と卓越している。理工学部・工学部では、「技術職」（昼37%，夜52%）、「大学・官公庁の教育・研究職以外の公務員」（昼・夜ともに22%）、「事務職」（昼10%，夜8%）、「企業等の研究職」（昼9%，夜6%）の順となっている。一方生物資源産業学部では、「大学・官公庁の教育・研究職以外の公務員」が23%と比較第一位であるが、「企業等の研究職」19%、「総合職・営業職」18%、「技術職」14%と比較的拮抗している。総合科学部では、「大学・官公庁の教育・研究職以外の公務員」が33%と最も多いが、「事務職」22%、「総合職・営業職」21%も多く、この3職種で4分の3を占める。今回、「大学・官公庁の教育・研究職」と「それ以外」を合わせた「公務員」の割合は前回と変わらないが、前者については13%から3%へと減少している。これは、回答者の多数を占める理工学部・工学部・生物資源産業学部で同職の希望者が減っている（割合で前回から概ね半数以下）ことが影響しているものと思われる。

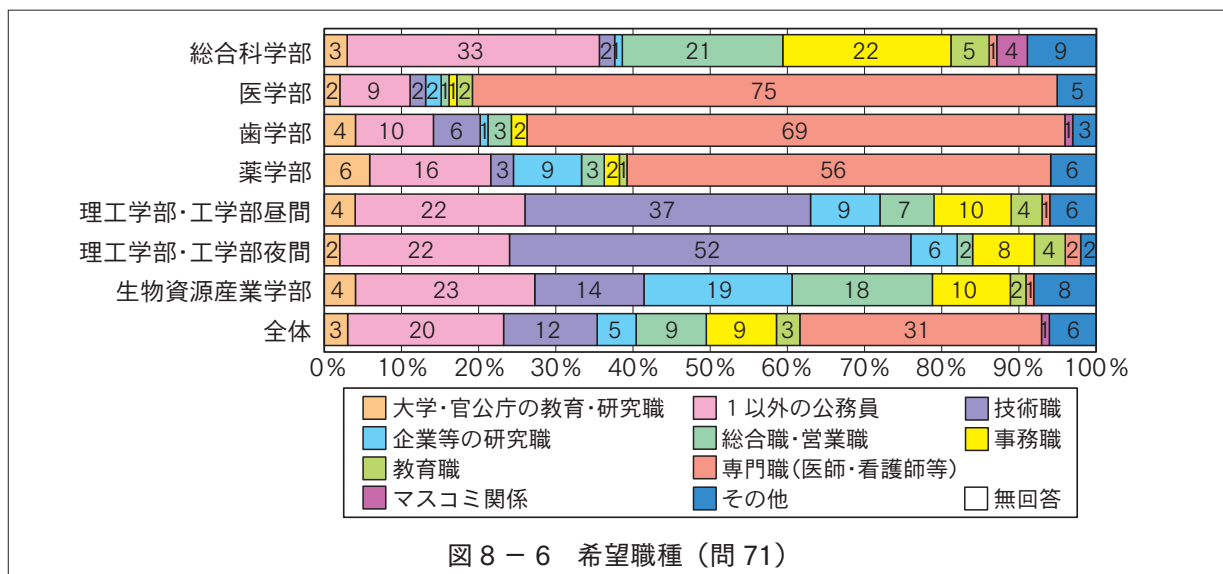
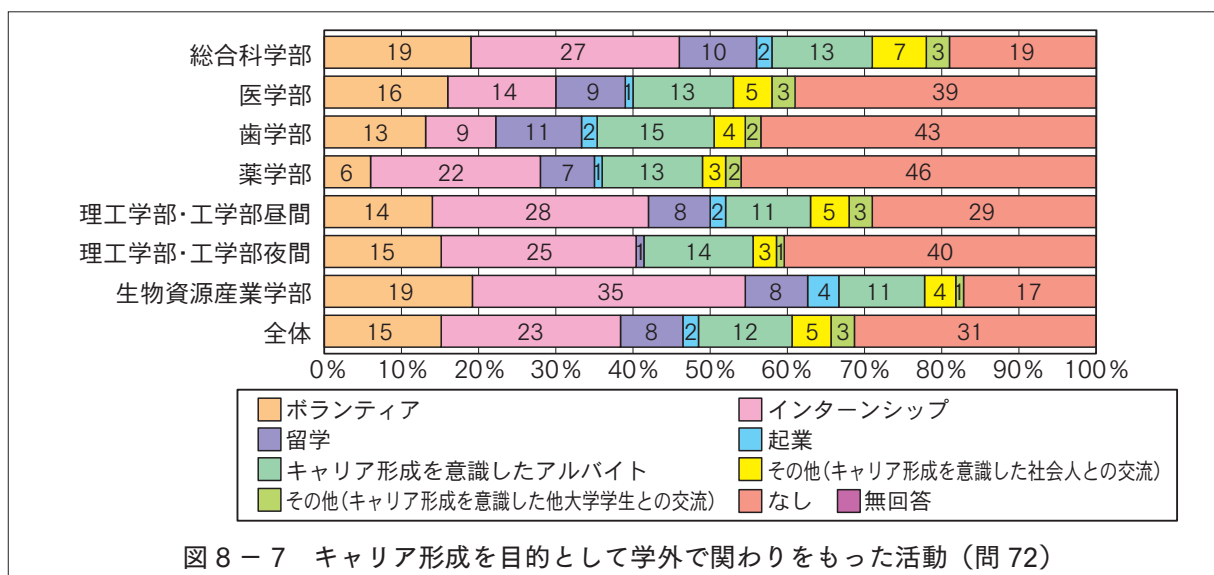


図8-6 希望職種 (問71)

8-7 キャリア形成のための学外活動 (図8-7)

図8-7は、キャリア形成を目的として学外で関わりをもった活動について複数回答可として尋ねたものである。全体では、「なし」が31%で最多であるが、実際の活動としては「インターンシップ」23%、「ボランティア」15%、「アルバイト」12%、「留学」8%の順となった。学部別に見た場合でも、順位に変動はあるものの、この4つが活動の大半を占めている。興味深いのは、総合科学部および生物資源産業学部では「なし」の割合が比較的低く（いずれも20%以下）、何らかの活動経験を有する学生の割合が高い。このようなキャリア形成プロセスに関しても、学部や専門分野ごとに特徴があるものと思われるが、自身の視野を広げるためにも学外活動へも積極的に目を向けてもらいたい。「起業」に

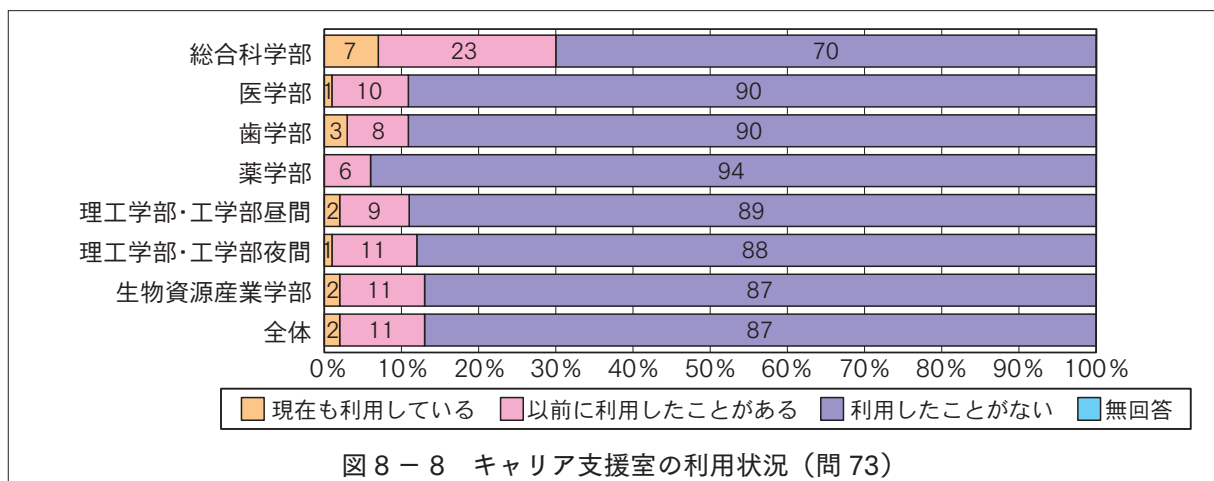
については全体で2%であり、本学のみならずわが国としても学生のみならず若者全般に期待するところではあるが、まだまだハードルが高い実態を表しているものと思われる。



8-8 キャリア支援室の利用状況 (図 8-8)

図 8-8 は、キャリア支援室の利用状況について尋ねたものである。今回、全体で見ても「利用したことがない」が87%（前回調査81%、前々回調査77%）と大きく増やしている。これは、外形的には総合科学部（前回56%→今回70%）および理工学部・工学部（例えば昼間コース前回63%→今回89%）で「利用したことがない」が大きく増加したことによるが、実態としてはコロナ禍により登学禁止期間が長期に渡って設定されたことによるものと思われる。キャリア支援室では、例えば個別相談や模擬面接に対してオンラインでも対応しており、その利用数は増加しているが、資料の閲覧等実際の来室を伴う、かつ最も需要が多いと思われる利用数の減少は否めない。

キャリア支援室ではここ数年、常勤のコーディネーターの増員や蔵本地区における相談体制の強化（8-5）など、支援体制の量的充実に向けてきた。今年度からは未内定学生支援として、学生が企業からオファーを受けることのできる「就職マッチング支援事業」も開始した。さらに、コロナ禍のもと、就職活動の多くがオンライン化されるのに伴い、支援活動のオンライン化のみならず、学生が就職活動でオンラインを使用することを想定したさまざまなアドバイスを行ってきた。ウイズコロナ／ポストコロナの時代を見据えた場合、今後の就職活動はオンラインが主流となるのか、ある程度以前のような対面



に戻るのか、未だ見極めることは困難であるが、キャリア支援室としては、就職活動自体はもちろんのこと、その前段階である情報収集やインターンシップ、模擬面接に代表される試験シミュレーションに至るまで、新たな形式への対応と、それを踏まえてのより一層の利用促進への努力が求められている。特に、就職という1つのイベントで見た場合、8-2にも記したがコミュニケーション能力に不安を有する学生や、活動の最初に出遅れ感に苛まれてしまいその後モチベーションが上がらないままの学生などへの対応が重要となってきている。両者に共通するのは、情報が十分に得られないことに起因する、自身の立ち位置や先行きが見通せないことから来る不安感にあると思われる。そのような学生も含め全ての学生に対して、真に必要とされる情報を調べ受け渡すことに加えて、キャリア形成・就職活動のよりどころとして一層周知・活用されるあり方を引き続き追求する必要がある。

第9章 学部の現状と課題

9-1 総合科学部

総合科学部は、平成28年（2016）4月より、社会総合科学科（1学科）からなる学部として再スタートし、「国際教養コース」「心身健康コース」「公共政策コース」「地域創生コース」の4コースからなる。今回の調査で総合科学部全体の調査票回収率は45.3%で、前回調査の45.0%とほぼ同率である。

「住居・通学について」の項目では、自宅からの通学者は総合科学部では47%であり、全体平均（29%）よりも18%高かった。前回調査は51%であり県内出身者の比率が高い傾向が続いている。これらの結果から総合科学部は「地域密着型の学部」というイメージが県内で強まっている可能性がある。

「家賃支出」については、総合科学部では「5万円未満」の割合が88%であり、前回調査の92%と比べて大きな変化は見られなかった。なお、全学部を通して見てみると、5万円未満の割合は、常三島地区が蔵本地区の学部よりも高くなっており、賃貸物件価格の地域差が反映されていると思われる。通学方法については、全体の傾向と同様に自転車が多くなっている。通学時間は、全体の平均で81%の学生が「30分未満」であるのに対し、総合科学部では71%と若干低めとなっている。これは総合科学部では自宅生の占める割合が高いことが理由だと思われる。

「収入・支出について」では、家庭の年間所得を500万円未満とする回答が総合科学部24%であり、全体平均の19%よりも高くなっている。しかし、わからないと回答した割合が40%前後と高くなっており、アンケートで家庭年収を評価することは難しい。

総合科学部の年収500万円未満の層において、「授業料免除制度は知っているが申請していない」とする回答が32%であり、前回調査46%よりも14%減少していた。また「授業料免除制度を知らない」という回答が14%で、前回の5%から増加しており、学生へのさらなる周知が求められる。

自宅外通学者においては、家計状況として保護者等からの援助が「5万円未満」とする回答は総合科学部66%であり、前回調査の65%と変わりがなかった。援助が全くない割合は17%であり、理工学部・工学部夜間（24%）に次いで高い値となった。1か月の平均支出額は「5万円未満」が総合科学部63%で、全体の平均とほぼ同じ割合である。経済的状況については39%が「やや苦しい」、あるいは「大変苦しい」と回答しており、全体の平均値（32%）よりも高くなっていた。

アルバイトに週3日以上従事している学生の割合は、総合科学部で41%となっており、全学部の中で最も多かった。生物資源産業学部36%、理工学部・工学部（昼間）39%、理工学部・工学部（夜間）31%と、常三島キャンパスの学部の学生のアルバイト日数が蔵本の学部よりも高くなっている。時間数では、週のアルバイト時間が15時間以上の学生は、総合科学部が36%で理工学部・工学部（夜間）について従事時間が多かった。他方、「勉学に支障はない」とする回答は総合科学部で90%であり、長時間労働をしている割には勉学に支障がないと考える学生が多かった。アルバイトの収入は月に3-5万の範囲が最も多く（44%）、全体の平均値（40%）と比べてあまり差は見られていない。アルバイト中のトラブルについては「客とのトラブル」が10%で最も多く、全学部の平均値（7%）よりもやや高かった。今後どのようなトラブルが生じているのか詳しい状況を調べる必要がある。

「健康状態について」では、総合科学部における睡眠時間、喫煙、飲酒のそれぞれの頻度は他学部と大きな違いは認められなかった。唯一、総合科学部の男子の飲酒量は2合以上3合未満の比率が他学部と比べて高かった（75%）。総合科学部の学生の食事については、自宅で昼食をとる割合（66%）が全学部の平均（54%）と比べて高く、コロナ禍でしかも自宅から通っている学生の比率が総合科学部で高いことから当然の結果と言える。

「学生生活上の問題点」では、大学生生活の意義を「勉強や研究」に見いだす割合が総合科学部では40%であり、全学部の中で最低であった。学習意欲の向上に対する取り組みを進める必要がある。また総合科学部では「現在悩みや不安がない」と答えた学生の比率は22%であり、全学部の中で最も低かった。一方、総合科学部では「就職希望」の学生の比率が全学部の中で最も高く、「就職や進路に不安がある」学生の比率は55%であり全学部の中で最も高かった。今後とも様々な就職に関する情報提供を含めた対応が必要であろう。

セクハラを受けたと回答した学生は、総合科学部では前回調査と同じく1%であった（男子0%、女子1%）。この割合は少ないが放置してよいということではなく、セクハラ撲滅のための啓発運動を強化する必要がある。またカルトの勧誘を受けた男子学生が3%であり、カルト勧誘は様々な関連被害に繋がる潜在リスクを有しているため、適切な啓蒙・予防対策を講じる必要がある。また、総合科学部の女子の中で盗難被害に遭った学生の割合が7%あり、大学構内での被害が59%であった。このような迷惑行為の相談で誰にも相談していない学生も存在するため、総合相談部門（学生相談室）の存在を周知する必要がある。

「修学状況について」に関して、本学を選んだ理由が総合科学部では「国立大学だから」が64%であり、「地元の大学だから」が46%となっており、これは他学部よりも高い数値であった。総合科学部の学生は「地元志向」がかなり強いように思われる。前述したとおり、総合科学部は「地域密着型の学部」というイメージが県内で強まっている可能性がある。

所属学部への満足度では、「満足している」および「ほぼ満足している」の合計が総合科学部94%で、全体平均の88%を上回り、全体で最も高率であった。また、授業の満足度では、「満足している」および「ほぼ満足している」の合計は、総合科学部87%で全学平均の82%を上回っている。その一方、授業が満足できない理由として、総合科学部57%が「授業がつまらない」と回答しており、これは全体平均の48%より高い。この結果から、教員は講義で学生を引き付ける工夫が必要であろう。

クラス担任制度については、「満足している」および「ほぼ満足している」学生の比率は82%で全体の中で最も低い。どのような点に満足していないのか詳細な分析が必要である。

「課外活動について」では、何らかのサークル（学内外の文科系・体育系・サポート系サークル）に加入している学生は総合科学部55%である（全体平均62%）。加入しない理由としては、総合科学部では「通学に時間がかかるので時間的余裕がない」14%、「個人の自由が束縛される恐れがある」13%、「魅力的なサークルがない」10%、となっており、おおむね全学平均と同様の傾向である。総合科学部では、「通学に時間がかかるので時間的余裕がない」と回答した学生の割合が全体平均（6%）よりも高めとなっており、自宅通学の学生の割合が高いことに起因していると思われる。

大学入学後のボランティア活動では、総合科学部33%の学生が何らかの活動に従事している。全体平均の20%に比べると高く、学生の多様な能力の養成、共同活動を行う上でボランティア活動に携わることは良い傾向であると思われる。

「進路・就職について」に関して、総合科学部では就職希望が88%であり全学部の中で最も高い。就職先の選択で重視するものとしては、「就職先の将来性・安定性」が総合科学部24%、「収入」22%の順に高く、全体の傾向とおおむね一致していた。会社などの情報入手については大学キャリア支援室の利用が11%であり、全学部の中で最も高かった。希望職種は大学・官公庁以外の公務員志望者が33%、事務職22%、総合職・営業職21%となっており公務員志向が強い。大学キャリア支援室の利用については、総合科学部の中で「利用したことがある」のは30%で全学部の中で最も高い。一方、「利用したことがない」が70%であり、キャリア支援室の紹介などの対応がさらに必要と思われる。

9-2 医学部

医学部は、医学科、医科栄養学科、保健学科の3学科から構成されており、各々の学科の回収者数と回収率は、医学科 292 人 (40.6%)、医科栄養学科 98 人 (48.3%)、保健学科 243 人 (47.3%) であり、医学部全体では 633 人 (44.1%) であった。大学全体の回収率 (42.1%) と比較すると回収率は少し高かった。前回調査の回収率は医学部全体で 60.5% であり、今回は減少している。回収率は、医学科でやや減少し、医科栄養学科と保健学科ではかなり減少した。医学科の回収率は 5 割以下と低く、医学部全体では男子の回収率が女子よりもやや低かった。

医学部は、蔵本地区の他の学部と同様に、卒業時に国家試験 (医師、管理栄養士、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師、保健師等) を受験して免許を取得し、卒業後はそれぞれの専門職に就く学生がほとんどであり、在学中は目的意識を持って学習している学生が多い。これらの点を考慮して、以下に現状と課題を考える。

「住居・通学について」は、「自宅 (家族と同居)」の割合が 26% で、前回調査と同じであり、学生の 4 人に 1 人は自宅から通学している。また、66% の学生が毎月 5 万円未満の家賃を支払っている。「通学方法」では、「自転車」が 77% と一番多く、他学部とほぼ同じ割合である。「通学中の事故あり」が 6% で、1 割弱の学生が通学中に事故を起こしているため、自転車通学を含めて事故に対する注意と交通ルールやマナーの遵守が必要である。

「収入・支出について」は、「家庭の年収」では、「750 万円以上の収入」がある家庭が 31% で、歯学部、薬学部とほぼ同程度であり、全体と比較すると割合がやや高いが、「500 万円未満の収入」の家庭が 15%、「500 ～ 750 万円未満」の家庭が 14% みられる。年収 500 万円未満の家庭において「授業料の全額免除あるいは半額免除を受けている」が 46% あるが、「授業料免除を知っているが申請していない」が 38% あり、「授業料免除制度を知らなかった」が 4% あることから、授業料免除制度を十分に周知して活用してもらう必要がある。「自宅外通学者」について、「保護者等からの援助額」は、「10 万円以上」の学生が 15% であり前回調査の 10% よりやや増加し、「5 万円未満」の学生が 51% であり前回調査の 56% よりやや減少しているが、「保護者等からの援助額」は全体としてあまり変化していない。また、「自宅外通学者」の「1 か月の平均支出額」は、「10 万円未満」が 91% であり、全体の割合とほぼ同じである。全体を対象とした「経済的状況」では、「やや苦しい」と「大変苦しい」を合わせて 25% であり、前回調査よりやや減少している。経済的にゆとりがない学生の割合は他学部と同程度であり、経済的に困窮している学生に対して、授業料免除および奨学金の受給などを通して経済的な支援を行う必要がある。アルバイトは 63% の学生が行っており、従事日数は全体の割合とほぼ同じであり、従事時間の割合も、「5 ～ 10 時間未満」が 34%、「10 ～ 15 時間未満」が 23%、「5 時間未満」の割合が 20% であり、全体の割合とほぼ同じである。しかし、前回調査と同じく、アルバイトを行う学生の 12% が勉学に支障が生じており、何らかの対策が必要である。

「健康状態について」は、「睡眠時間」では、大部分の学生は 4 ～ 8 時間未満であり、他学部とほぼ同じである。「気になる症状」も、他学部とほぼ同じ内容であり、男子女子ともに「頭痛・めまい」、「アトピー・アレルギー」、「不眠」、「下痢・便秘」等が多く、女子では「生理痛・生理不順」が多い。「喫煙について」は、男子の 88%、女子の 99% が喫煙したことがなく、前回調査より割合が増加している。「飲酒について」は、男子の 30%、女子の 45% が飲酒をしないが、1 回当たりの飲酒量は、男子で「3 合以上 4 合未満」の割合が 25%、女子で「4 合以上 5 合未満」の割合が 17% あり、飲酒量について注意が必要である。

「食事について」は、「昼食の利用場所」では「自宅 (下宿)」が 62% で最も多く、次いで「蔵本会館食堂」が 17%、「弁当を購入」が 9% であり、昼食は自宅 (下宿) で食事をする学生が多い。「自宅 (下

宿)」の割合が50%以上あるのは、COVID-19流行のために、遠隔授業が行われることが多くなり自宅で授業を受けるようになったことが理由と考えられる。

「学生生活上の問題点」については、「主な悩みと不安」は、学生の38%は悩みや不安がないが、「悩みや不安」については、「勉強」(38%)に関するものが最も多く、次いで「就職や進路」(34%)、「交友・異性関係」(21%)、「自分の性格」と「生き甲斐や目標」(15%)、「経済状態」(13%)などがある。「迷惑行為」では、「迷惑行為を受けたことがない」学生は、医学部の3学科は94～95%であるが、10%程度の学生が迷惑行為を受けていることから注意喚起が必要である。「悪徳商法の被害」は各学科とも1～4%あるが、保健学科の男子は4%であり被害者が多い。「いたずら電話の被害」と「ストーカーの被害」は、各学科とも1～2%である。「大学内でのセクハラ」は、医学科の女子が1%であり、防止対策を行う必要がある。「大学内でのアカハラ」は、医学科と医科栄養学科が1%、保健学科の男子が2%であり、防止対策が求められる。「サークル退部の阻止」が医学科と医科栄養学科の女子に1～2%、「サークル内でのいじめ」が医学科の男子と保健学科の女子に1%みられたので、サークル活動の指導を十分に行う必要がある。「カルトの勧誘」について、医学科の男子が1%、医科栄養学科の女子が1%、保健学科の男子が4%勧誘を受けており、適切な対策を講じる必要がある。

「修学状況について」は、「本学を選んだ理由」では、「希望する学部・学科があったから」が66%で最も高く、次に「国立大学だから」が52%で、「地元の大学だから」が30%であり、他学部の理由とほぼ同じ割合である。「所属学部満足度」では、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせて92%あり、他学部と同様に満足している学生が多い。「授業の満足度」は、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせて86%あり、全学平均の82%とほぼ同じである。授業に満足していない学生は14%あり、「満足できない」理由として、「教員の教え方に工夫が足りない」が47%、「試験・レポートが多すぎる」が41%、「授業内容がつまらない」が40%、「授業内容が難し過ぎて理解できない」が23%であり、全体の割合とほぼ同じである。「オフィスアワーの利用状況」では、医学部では「オフィスアワーについて知らない」が36%であり、オフィスアワーの周知と活用法を検討する必要がある。「クラス担任制度の満足度」では、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせて91%であり、全体と同じく満足している学生が多い。

「課外活動について」は、「学内の文化系サークルに加入している」、「学内の体育系サークルに加入している」、「学内のサポート系サークルに加入している」を合わせて72%であり、学内のサークルへの加入者が多い。「新入生歓迎行事や大学祭などの学生行事」に積極的に参加している学生は37%で、他学部と同程度に学生行事に積極的に参加している。

「進路・就職について」は、「進路を考える上での情報入手手段」では、「インターネット」が27%、「先輩・知人」が25%と多く、全体の割合とほぼ同じである。「就職に際しての会社等情報の入手方法」も、「インターネット」が38%で最も多く、次に「先輩・知人」が19%で、全体の割合とほぼ同じであり、インターネットによる情報の入手の割合が高い。「希望職種」は「専門職（医師、看護師等）」が75%であり、歯学部、薬学部と同様に卒業後の進路が明確な学生の割合が高い。「キャリア支援室の利用状況」は、90%の学生が利用したことがなく、全体の87%とほぼ同じ割合である。医学部では、診療放射線技師、臨床検査技師などの医療系の職種に就職する学生が多いことから、医療機関に関する就職情報の広報やセミナー開催等によって就職支援を充実させる必要がある。

9-3 歯学部

歯学部は歯学科と口腔保健学科の2学科から構成される。今回の調査の回収者数（回収率）は、歯学科95人（39.3%）と口腔保健学科48人（77.4%）であり、歯学科の回収率は前回調査（88.8%）に比

べおよそ50%減少し、口腔保健学科は前回までは、学生全員から回答が得られていたが、今回はおよそ23%減少した。歯学部全体でみると回収者数と回収率は143人、47.0%であり、回収率は前回調査(90.9%)と前々回調査(81.7%)よりも極端に低かったが、学部別では薬学部(49.4%)に次いで高かった。全学平均も42.1%と低く、これは令和3年度調査時がコロナ禍でのリモート講義が多く行われた影響が出たものと推測される。

歯学部は、卒業時に国家試験(歯科医師、歯科衛生士、社会福祉士)を受験して免許を取得し、それぞれの専門職に就く学生がほとんどであり、在学中は目的意識を持って学習している学生が多い。今回、特に歯学科での回収率の低さから、実態を正確に反映していない可能性も懸念されるが、これらの点を考慮して、以下に現状と課題を考える。

歯学部学生の31%が自宅通学、60%が家族と別居しアパートあるいはマンションを借りており、8%が間借り(下宿)である。約3割は自宅生、約6割はアパート・マンション暮らしの傾向は前回および前々回調査と差異がない。1か月の家賃は3万円~6万円未満が73%を占め、前回調査では79%、前々回調査では73%であった。通学方法は自転車が多く64%を占め、徒歩通学の割合は14%、自動車の割合は10%であった。全学平均と比べると、各回調査と同様、徒歩の割合が高かった。通学時間は15分未満が53%、15分~30分未満が28%、30分~1時間未満が14%であり、前回調査同様の傾向である。また、歯学部学生の14%が通学中の交通事故を経験しており、全体平均の5%より高く、全学部中もっとも高い。

経済面は、家庭の年収が750万円以上の学生の割合は25%であり、前回(52%)および前々回調査(50%)よりも低下した。とくに1500万円以上の割合は8%であり、医学部と並び、全学部の中で最も高かった。一方、500万円未満の収入の家庭は15%であり、前回調査(23%)、前々回調査(22%)と比べると減少傾向にあるが、わからないの解答が50%近くあるため、社会情勢との関連は不明である。年収500万円未満の家庭の授業料免除状況では、「授業料免除を知っているが申請していない」は33%であり、全学部中では割合が低い。一方、「制度を知らなかった」のは10%であり、前回調査(3%)に比べ増加した。全額免除あるいは半額免除を受けている学生は合計34%であり、前回(46%)および前々回調査(38%)よりも減少した。自宅外通学者の保護者等からの援助額については10%が援助を全く受けておらず、この割合は前回調査(11%)とほぼ同じであった。一方、3~7万円未満の援助を受けている学生の割合は42%であり、前回調査(55%)より減少した。10万円以上の援助の割合は11%であり、前回調査(11%)と同等であった。自宅外通学者の1か月の平均支出額は、3~5万円未満が37%、5~7万円が24%で比較的高かった。また、7~10万円未満(19%)、10~15万円未満(5%)、15~20万円未満(1%)の区分のいずれも、全学部平均と同等の傾向にあった。一方、13%の学生は支出額が3万円未満で切り詰めた生活を送っており、前回調査(12%)と同等であった。学生自身の経済状況は、「ゆとりがある」学生の割合は20%であり、一方、「大変苦しい」と回答した学生は8%であり、前回(9%)とほぼ同じであった。奨学金を受給している学生の割合は27%であり、前回調査32%から微減した。一方、64%の学生は奨学金を希望しておらず、また、38%の学生はアルバイトをしておらず、いずれも前回調査とほぼ同様であった。学生の50%は週に1~3日のアルバイトに従事しており、3%の学生は週に5日以上も従事している。1週間のアルバイト従事時間数は、5時間未満の学生の割合が30%、5~10時間未満が32%、10~15時間未満が17%を占める。これら3区分を合計すると79%となり、前回調査とほぼ同様である。歯学部は、高学年では学内臨床実習や研究室配属、学外臨床研修など長時間の実習・研修があるため、長時間のアルバイトは従事しにくいと考えられる。また、アルバイトによって勉学に「支障が生じている」と回答した学生の割合は18%であり、前回調査(19%)と同じであった。アルバイト収入は5万円未満が77%を占め、それほど高額収入は得ていない。78%はアルバイトにおけるトラブルの経験はない一方、20%は何らかのトラブルを経験しており、この割合は

前回（18%）、前々回調査（24%）と同等であった。

歯学部男子学生の51%と女子学生の57%の睡眠時間は6～8時間未満である。また、男子の42%と女子の49%は健康状態について何らかの気になる症状を持っている。女子の気になる症状は生理痛・生理不順（26%）が最も多く、次いで頭痛・めまい（18%）、アトピー・アレルギー（9%）、下痢・便秘（10%）、不眠（13%）である。男子はアトピー・アレルギー（20%）が最も高く、次いで、下痢・便秘（11%）、頭痛・めまい（7%）、不眠（5%）である。喫煙に関して、男子の82%と女子の97%は「喫煙歴がない」。喫煙している男子のうち、ときどき喫煙している学生は4%、毎日喫煙している学生は4%である。喫煙している女子の内訳は不明。飲酒について、男子の29%と女子の45%は「飲酒しない」であり、「たまに飲酒する」割合が最も高く、男子53%、女子49%である。週3回以上の飲酒習慣があると回答した学生の1回あたりの飲酒量は、男子は「2合以上3合未満」が60%で最も多く、「5合以上」が20%である。女子は「1合未満」が67%で最も多く、「1合以上2合未満」が33%を占めている一方で、「2合以上」は0%である。

食事について、歯学部学生の24%は蔵本会館食堂を利用し、19%は昼食に弁当を購入している。蔵本会館食堂の利用は前回調査（24%）と同等であった。一方、自宅、その他が53%を占めている。

大学生活の意義としては「勉強や研究」が48%と最も高く、前回（37%）および前々回調査（44%）よりも増加した。「将来を考えた資格等の取得」は20%、「豊かな人間関係を結ぶこと」は19%であった。一方、「明確な目的はない」は5%であった。歯学部の男子の35%と女子の41%は悩みや不安は「ない」と回答しており、とくに女子は他学部よりも比較的その割合が高い。主な悩みの内容としては、男女ともに「勉強」（男子40%、女子42%）の割合が高く、男子の「経済状況」（29%）は前回調査（22%）よりも増加した。また、相談相手は男女ともに「友人」（男子64%、女子74%）と「家族」（男子45%、女子80%）の割合が高い。一方、「誰にもしない」と回答した男子は22%であり、女子は3%であった。相談相手が「教員」である割合は男子6%、女子4%であった。教員が相談相手となれるような信頼関係の構築、メンター制度のさらなる充実など支援体制を構築・推進していく必要性を感じる。

迷惑行為に関して、91%の学生は迷惑行為を受けたことがないが、男子の4%、女子の3%が「いたずら電話」の被害を受けている。女子の5%が「ストーカー」の被害を受けた経験がある。歯学部女子の1%は「大学内でのセクハラ」の被害を受けており、学内平均と同等である。また、今回調査では、「大学内のアカハラ」の被害はなく、前回調査の11%から改善傾向にあり好ましい状況である。今回調査では、男子の2%が「サークル退部の阻止」「サークル内のいじめ」を受けていることから、学生間のハラスメントについても引き続き注視していく必要がある。「カルトの勧誘」は、女子の1%が被害を受けている。迷惑行為を受けた際の相談先は「友人」が100%であった。また、学生相談室を利用したことがある学生は10%で、前回の13%と同等であった。

大学事務室の対応について「満足」と「ほぼ満足」と感じる学生の割合は合計79%で、前回（60%）および前々回調査（36%）より大きな増加傾向が続いている。一方、「やや不満」と「不満」の合計は21%であり、全学平均よりは高い。歯学部定員の少なさから、一部の学生の不満が数値を押し上げている可能性があるが、引き続き教職員一丸としての学生支援を目指したい。

盗難等犯罪被害は13%の歯学部学生が被害に遭い、前回調査（19%）からは減少した。被害の種類としては、男女とも盗難（男子20%、女子8%）が最も多く、女子では「その他」被害が2%であった。犯罪被害を受けた場所は男女ともに、前回調査と同様に、大学構内（男子73%、女子56%）が最も多いため、早急に大学構内の治安問題点の洗い出しとその改善が必要である。

修学状況として、本学を選んだ理由は「国立大学だから」が57%と最も高く、次いで「希望する学部・学科があったから」（54%）、「地元の大学だから」（34%）であり、前回調査と同じ傾向である。歯学部学生の88%が所属学部に「満足している」もしくは「ほぼ満足している」。この割合は前回（82%）お

よび前々回調査（75%）よりも高く、満足度は増加傾向にある。一方、12%が何らかの不満を抱いている。授業満足度は、「満足」と「ほぼ満足」の合計は85%、「やや不満足」と「不満足」の合計は14%であり、前回調査と比べて、満足が増加し不満足が減少した。不満な理由として、「教員の教え方に工夫が足りない」（52%）、次いで「授業内容がつまらない」（33%）の割合が高い。「教員の教え方に工夫が足りない」の割合は医学部と歯学部が高いことから、大量の難度の高い内容を学生がこなせる工夫が求められていることが考えられる。

オフィスアワーを「利用したことがある」歯学部学生は61%であり、全学部の中で突出して高い割合である。一方、「オフィスアワーがあるのは知っているが、利用したことはない」学生は24%であり、理由としては「教員に相談するのが面倒である」（36%）、「講義内容を十分理解できるのでその必要がない」（30%）、「オフィスアワーの時間が短く利用しにくい」（9%）となった。一方、「講義の理解は充分ではないが、どのように質問してよいか分からない」という心配な回答も15%あり、このような学生に対して積極的な対処をすることが必要である。

担任制度の満足度について、「満足している」、「どちらかといえば満足している」が94%であった。一方、「どちらかといえば不満足である」も6%あり、さらなるきめ細かな対応が必要である。

図書館の利用回数については、歯学部学生の28%は週1回以上の頻度で、約5割程度の学生は月1回以上の頻度で図書館を利用している。一方、図書館をほとんど利用しない学生も21%いる。図書館利用の理由は「自習」（65%）が最も多い。図書館サービスの満足度としては、「満足している」、「どちらかといえば満足している」が95%であった。

課外活動として、歯学部学生の70%が学内のサークルに加入しており、その内訳は体育系47%、文科系22%、サポート系1%である。一方、「加入したことがない」と「以前加入していたが現在は加入していない」を合わせると29%である。サークルに加入しない理由として、「個人の金銭的負担が多すぎる」と回答した学生が18%で最も多く、前回の「学業の妨げとなる」（26%）から入れ替わった。また、この割合は全学部の中で最も高い。次いで「学業の妨げとなる」13%、「個人の自由が束縛される恐れがある」10%、「アルバイトをしているため時間的余裕がない」8%であった。サークルに加入した主な動機は、「サークルの活動内容に魅力があったから」が40%と最も多く、ついで、「学生生活を豊かにするため」20%、「先輩・友人に勧められたから」13%、「友人を得るため」12%となった。

歯学部学生の39%は学生行事が「必要だと考えており積極的に参加する」と回答した。一方、「必要だと思うがあまり参加してない」、「どちらでもいい」、「なくてもいい」が合計61%あり、行事参加に対する温度差がはっきり分かれる結果となった。89%の歯学部学生はボランティア活動の経験がなく、前回調査（72%）から増加した。

歯学部の場合、進路や就職の情報の入手手段は限られており、「先輩・知人から」（28%）と「指導教員から」（20%）が多い。進学・就職の相談相手は他学部同様、家族等（38%）が最も割合が高く、次いで知人・先輩（29%）、教員（25%）である。歯学部学生の71%が就職を希望し、進学希望は20%であり、前回と同様であった。歯学科においては歯科医師免許取得後1年以上の臨床研修が義務づけられているため、大学卒業後すぐに進学できないことが結果に反映されている。昨年度より、臨床研修1年目から基礎系大学院入学が認められたことから、その周知を徹底し、進学希望者の増加に期待したい。就職先選択で重視するものは「収入」（25%）、「就職先の将来性・安定性」（22%）、「人間関係の良いこと」（17%）、「能力を発揮できること」（12%）が高い。就職情報の入手先として、「インターネット」（32%）が最も高く、次いで「先輩・知人」（27%）、「就職担当教員」（13%）である。希望する職種は専門職が69%であり、卒業後の進路が明確な学生の割合が高い。キャリア形成のための学外活動について、「キャリア形成を意識したアルバイト」（15%）、「ボランティア」（13%）、「留学」（11%）の割合が高い。また、9割の歯学部学生はキャリア支援室を利用したことがない。その代わりに、歯学部学生委員会は独自の研

修医マッチング説明会や卒業生・開業OBによる就職説明会を開催し、学生を支援している。毎年、歯学部同窓会主催で同窓生と歯学科6年生、口腔保健学科4年生との懇親会を設け、全国各地の歯科医師や歯科衛生士の需給状況などの情報を直接収集できる機会を提供している。今後も、歯学科学生に対しては同窓会や後援会の協力を得ながら、口腔保健学科学生に対してはキャリア支援室と連携を図りながら、医療専門職に適した就職支援体制を充実させたい。

以上、歯学部学生生活の実態からいくつかの重要な課題が浮かび上がった。本調査はコロナ禍において行われたことから、これまでの調査結果と直接比較出来ない点も多いと推測するが、問題点に対する概略を以下に示し、今後さらに具体的対策を検討する。

- 1) ハラスメント防止の啓発と徹底
- 2) 不熱心な学生に対する積極的指導
- 3) 理解不十分な学生に対する学習面のサポートと講義内容の検証
- 4) 大学事務室の対応改善
- 5) 大学構内の治安改善

その他として、孤立学生（不登校学生を含む）に対する支援体制の強化

9-4 薬学部

薬学部は、現在異なる2つの教育制度が学年進行中で、2年次以上は薬剤師養成を主たる目的とする6年制の薬学科と、創薬・製薬科学の研究者養成を目的とする4年制の創製薬科学科の2学科で構成され、1年次は4年制を融合した新6年制の薬学科のみで構成されている。そのため今回の調査対象の内訳は、薬学科291名（1年生85名、2～6年生206名）、創製薬科学科124名（2～4年生）の合計415名である。回収率は、薬学科52.2%、創製薬科学科42.7%、薬学部全体で49.4%（前回調査94.1%、前々回調査92.2%）と、前2回の調査から大きく低下した。回収率の減少は全学的に見られ（42.1%）、その主な原因はCOVID-19流行下、感染防止対策として調査方法をこれまでの紙媒体からWEBを用いた方法に変更したためと考えられる。WEBを用いた調査法では当初から回収率の低下が危惧されたことから、メールにて何度となく調査への協力を呼び掛け、回答期限も延長したが、回収率は上がらなかった。薬学部の状況をよりの確に把握するためには、アンケート回収率の向上が必須であることから、WEB調査における新たな回収率向上に向けた工夫が課題となる。

「住居・通学」について、自宅からの通学生の割合は19%（全体平均29%）であり、他学部と比較して最も低い。この結果は、前回調査（19%）、前々回調査（17%）と同様であり、県外からの入学者が多い傾向に変わりはない。通学方法としては「自転車」が最も多く（79%）、通学時間は「15分未満」が76%であった。通学中に交通事故に遭った学生の割合は7%（全体平均5%）であり、前回調査（12%）、前々回調査（14%）よりは減少しているが、今後も交通安全への意識喚起に継続的に努める必要がある。

「収入・支出」について、「家庭の年収状況がわからない」との回答が38%と高かったことから、前回調査との数値の比較は難しいが、前回同様、500万円～1000万円の家庭が多かった。自宅外通学生の1か月の平均支出額は全体平均とほぼ同じで、3～5万円未満が最も多く（40%）、7万円以上と回答した割合は21%と前回調査（28%）から減少している。一方で、アルバイトをしていない学生の割合は46%で、全体平均38%より高く、前回調査（37%）からも増加している。アルバイトに従事している学生も、勉学に支障をきたさない範囲で行っている学生が多く（87%）、1週間のアルバイト従事時間が10時間未満が58%（全体平均48%）、1ヶ月のアルバイト収入が3万円以下が41%（全体平均28%）と、いずれの割合も全体平均より高い。一方で、保護者から1か月に7万円以上の援助を受けている学生は25%と多く、奨学金については40%の学生が「現在受給中であり、受給の継続（または増額）」

を希望する」と回答した。経済状況について、「やや苦しい」あるいは「大変苦しい」と回答した学生が34%を占め、増加がみられた前回調査(35%)と同じであった。これらの結果は、COVID-19禍の影響の有無にかかわらず、学生の多くが依然として生活に余裕がないことを示唆しており、奨学金や授業料免除等の学生への経済的支援は今後も重要課題である。なお、授業料免除制度の周知に努めているが、「授業料免除制度を知らなかった」と回答した年収500万円未満の家庭の学生は12%(全体平均9%)と、前回調査(4%)から大幅に増加していたことから、周知方法の再検討が必要と思われる。

「健康状態」について、睡眠不足とされる6時間未満と回答した学生の割合が男子35%、女子40%と前回調査と変わらなかった。気になる症状が「特にない」と回答した学生は男子では79%と、前回調査(63%)から増加したが、女子では53%と前回調査(52%)と変わらず、半数近くの学生が何らかの気になる症状を抱えている。今後も健康維持管理を目的とした専門相談機関であるキャンパスライフ健康支援センター保健管理部門と連携した、きめ細かい生活指導の必要性が感じられる。喫煙に関しては、「したことがない」と回答した学生は、男性89%、女性96%。飲酒に関しては、飲酒習慣がみられなかった(1週間の飲酒回数が0~2回)学生の割合は、男性94%(前回調査78%)、女性98%(前回調査75%)と、ともに増加しており、COVID-19流行下での行動制限により、飲酒機会が減少したことが一因と思われる。

「食事」について、昼食の利用場所として「蔵本会館食堂」との回答(64%)が最も多く、前回調査(62%)と変わらないが、「自宅(下宿)」が19%と、前回調査(8%)から倍増したのは、COVID-19流行の影響が大きいと思われる。

「学生生活上の問題点」について、多くの学生が様々な不安・悩みを抱えている(悩みや不安が「ない」との回答は34%)。しかし、前回調査(32%)と変わらないことから、COVID-19禍で就学・生活環境が変化した影響はあまりないようである。「迷惑行為を受けたことはない」と回答した学生の割合は、男子で90%、女子で92%と、前回調査と変わらない。しかし、多くはないが、いたずら電話、ストーカー、ハラスメント等の被害を受けた学生がいる。迷惑行為を受けた学生は、友人、家族、教員(担任・指導教員以外)、学生相談室に相談しており、「誰にも相談しない」と回答した学生が今回は一人もいなかった(前回調査38%)。学生に、問題を一人で抱え込まずに誰かに相談することを指導してきた結果が反映されたのであれば幸いである。精神面のケアを含め総合相談部門(学生相談室)と連携した継続的な啓蒙活動・予防対策を推進していくことが求められるが、「総合相談部門(学生相談室)を知らない」と回答した学生が16%おり、前回調査(33%)及び全体平均(21%)よりは低いが、周知に一層努める必要がある。大学生活の意義について、「勉強や研究」と回答した学生の割合が62%と、今回も薬学部が最も高く、専門性の高い職業に結びつく学業への意識が高いことがうかがえる。

「修学状況」について、本学を選んだ理由としては前回調査と同様、「希望する学部学科があったから」、「国立大学だから」の順に回答が多く、薬学部に「満足している」あるいは「ほぼ満足している」と答えた学生は91%(前回調査81%)、授業に対して「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた回答は88%(前回調査82%)で、ともに前回調査から増加している。1年次から学科毎に特色ある科目を導入したことなどが、高い目的意識を持って入学した学生の満足度に結びついたと推察される。一方で、授業に満足できない理由として、前回調査でも上位であった「授業内容がつまらない」、「教員の教え方に工夫が足りない」に加え、今回「授業内容が難しすぎて理解できない」、「試験・レポートが多すぎる」が増加した。COVID-19流行下で多くの授業が対面から遠隔になったことが一因と考えられるが、授業改善への要望として教員は受け止める必要がある。学習支援制度の利用状況に関しては、オフィスアワーを「利用したことがある」は29%(前回調査32%)、クラス担任制度に「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせて91%(前回調査94%)と変わりが無い。図書館の利用状況は、これまでと変わらず低い。その理由として、薬学部内に学習スペースがあることで、図書館の主な利用

目的である「自習」(73%)が、ある程度満たされているためと思われる。

「課外活動」について、サークルへの加入率は81%と高く、加入動機として「友人を得るため」(28%)と「学生生活を豊かにする」(24%)を挙げた学生の割合が他学部に比べて多いのが特徴である。一方で、ボランティア活動への参加はこれまでと同様に低調であり、参加した学生の割合は8%と、前回調査(24%)からも大きく減少している。COVID-19流行下で、ボランティア活動自体が縮小されたことが大きな要因と思われるが、ボランティア活動は学生教育の一端を担う面もあることから、学部として学生の活動を促す取り組みの必要性を感じる。

「進路・就職」について、就職を希望する学生は68%であり、希望職種としては「専門職(薬剤師)」が最も多い(56%)。薬学科と創製薬科学科では卒業後の進路が大きく異なるため、回答数に占める薬学科生の割合が創製薬科学科生に比べて高いことを反映した結果であると思われる。就職先選択で重視する要件として、「収入」、「将来性・安定性」、「人間関係の良いところ」が上位を占めていた。情報入手手段としては、「先輩・知人」、「インターネット」、「指導教員」が上位を占め、一方で、94%の学生が「キャリア支援室を利用したことがない」と回答している。薬学部では独自の就職支援活動に加え、キャリア支援室とも連携した就職支援の強化を図っているが、今後も学生のニーズに応じたきめ細かい就職支援に一層努力する必要がある。

教育目標が異なる6年制薬学科と4年制創製薬科学科を併設する薬学部では、令和3年度入学生から6年制に4年制を発展的に融合した新薬学科に一本化された。今回の調査の結果は、COVID-19禍の影響が反映したと思われる項目もみられたが、全体として前回調査結果と大きく変わっておらず、学部学生の生活実態には教育制度変革による大きな変化は見られなかった。しかし、暫くは学年進行に伴う教育制度改革の影響を的確に把握するために、本調査の回収率を向上させて、信頼性の高いデータ収集を心掛ける必要がある。そして、集めたデータを活用して、学生の視点に立ったより良い修学・生活環境の実現に向けた実効性のある学生支援体制の充実に努めていくことが求められる。

9-5 理工学部(工学部を含む)

理工学部は工学部の多数分野と旧総合科学部の理系分野が統合し改組した学部であることから、工学部を合わせて両学部学生の動向について検討する。なお、本項では、学部名を書かずに昼間、夜間と記載している場合は理工学部・工学部に該当する。

「住居・通学」について、理工学部・工学部昼間の学生は自宅が25%と他学部と比べて低く、夜間の学生は40%と他学部と比べてやや高い。また、1ヶ月家賃は、4万円未満とする学生の割合が昼間で58%、夜間で70%とどちらも他学部に比べて高い値となっている。

「収入・支出」について、夜間では、年収が500万円未満と回答した学生が44%と最も多く、他学部と明らかな差異が見られる。また、750万円未満とする学生は、夜間では53%と半数以上に上っている。一方、昼間は薬学部や生物資源産業学部と同程度の33%であり、大学全体の平均に近い。30%以下と回答している医学部や歯学部の学生との差異が認められる。また、保護者からの援助が全くないと回答した学生が昼間では他学部と同程度の10%であるが、夜間では24%とやや高い。現在の経済状況について理工学部・工学部昼間の学生は「大変苦しい」が9%であり「やや苦しい」も含めると33%と大学全体の平均に近い。一方、夜間の学生は「大変苦しい」が16%であり「やや苦しい」も含めると47%とやや高い傾向にある。奨学金を受給している学生は昼間では37%であり大学全体の平均に近い。一方、夜間では51%と他学部に比べて多い。引き続き大学としては経済的不均衡を考慮しながら学内での奨学金の採用方法等について検討していく必要があるだろう。

「健康状態」について、喫煙の頻度や程度については、理工学部・工学部の男子に喫煙の回答が若干

見受けられるが、大学全体としても喫煙する学生は少なくなっている。飲酒について、男子学生（女子学生）の回答では「飲酒はしない」が昼間では50%（47%）であり夜間では48%（67%）となっている。また、「たまに飲酒する」が昼間では40%（40%）であり夜間では47%（22%）となっていることから理工学部・工学部共に現状を維持していくことが望まれる。飲酒の量については若干多くなっている男子学生がいることがわかるが、その他の項目では他学部と大きな差異は認められない。「食事」について、昼食は主にどこを利用しているかの回答として、自宅（下宿）が昼間は53%であったのに対して夜間は77%となっており他学部と比較しても高い。コロナ禍の影響も考慮する必要があることから次年度以降の動向が気になるところである。

「学生生活上の問題点」について、大学生生活で何を重視して生活しているかの回答として「勉強や研究」が理工・工昼間では47%、夜間では55%となっており大学全体の平均に近い。コロナ禍の影響も否定できないが学生の本分である勉強や研究に価値を見出せている点は良い傾向と見てよい。一方、「サークル活動」は理工・工昼間では5%、夜間では1%とかなり低い結果となっている。豊かな人間関係を構築するうえでサークル活動の度重なる自粛要請は学生の大学生生活に大きな影響を与えていると推察される。現在の悩みや不安についての複数選択において理工・工昼間の学生は「就職や進路」に47%と一番多くの回答をしている。夜間の学生は「勉学」に48%と回答していて昼間と夜間の学生間に若干の差異が見られる。今後も引き続き学生への指導や相談においてきめ細やかな対応が必要である。また、勉学や研究への動機・意欲を向上させるためのさらなる取り組みも必要であろう。理工学部・工学部では“履修相談室（学びの相談室）”を設置し、“学生支援センター総合相談部門（学生相談室）”等との連携を行なっているが、総合相談部門（学生相談室）等の利用は少なく、友人が主な相談相手となっている。女子は男子に比べて友人や家族に相談する割合が高い。また、「誰にも相談しない」と回答する学生が男女で2割～3割程度おり「教員に相談する」は男女とも数%に留まっている。教員側からも学生に積極的に働きかけ学生にとって相談しやすい存在となるよう努力していく必要がある。悪徳商法やいたずら電話等も若干ではあるが被害を受けているようである。一方で「誰にも相談しない」と回答する学生が一番多く33%に上っている。総合相談部門（学生相談室）には女性職員の相談員もおり、気軽に相談できることをさらに周知していく必要がある。

「修学状況」について、理工学部・工学部学生の入学動機は、複数回答において「国立大学だから」が多く、昼間の学生で63%、夜間の学生で68%の回答があり大学全体の平均が61%であることから分かるように理工は他学部とほぼ同様であると考えられる。次に多かった「希望する学部だから」の回答は45%程度であり、「地元の大学だから」の35%程度が続いている。理工学部と工学部への満足度については、「満足」と「ほぼ満足」を合わせると昼間で84%、夜間で88%とどちらも高い数値がでていいる。授業の満足度については、「満足」と「ほぼ満足」を合わせると昼間で77%、夜間で88%となっておりまずまずの評価を得られているものと考えられる。一方、授業が満足できない理由の複数回答における多数の理由が「授業内容がつまらない」となっている。昼間の学生では47%であるのに対して、夜間の学生では78%と他学部と比較しても極端に高い値を占めている。コロナ禍による遠隔授業の影響は否定できないが教員側の授業改善は必須である。オフィスアワーの利用については昼間で13%、夜間で19%とあまり利用されていないことがわかる。TeamsやZoomなどのリモート機能を用いた指導や相談に切り替えていくことも検討に値すると思われる。現在のクラス担任制度の満足度は、「満足」と「ほぼ満足」を合わせて、昼間で92%、夜間で96%と概ね好評であることが分かる。引き続きクラス担任にはきめ細やかな指導をお願いしたい。

「課外活動」について、学内・学外を問わずサークル活動に加入していない学生が昼間で46%、夜間で69%であり、何らかのサークル活動に加入している割合が他学部と比較してもかなり低い傾向にある。サークル活動に加入した主な動機は「サークル活動内容の魅力」と答える学生が昼間で47%、夜

間で39%となっており他の理由より高い値を示している。サークルに加入しない主な理由としては「学業の妨げとなる」「個人の自由が束縛される」「アルバイトをしていて時間的余裕がない」がそれぞれ10%程度選択されている。また、「特に理由はない」の回答が一番多く昼間で33%、夜間で40%となっている。大学祭はコロナ禍の影響で中止となったが、参加するか否かは別として新入生歓迎行事や大学祭などの学生行事が「必要だ」と考えている学生は半数以上いることがわかる。

「進路・就職」について、就職先を考える上での情報は、複数回答において「インターネット」と回答した理工・工の学生が昼間で25%、夜間で29%と最も多く、次いで、「先輩・知人」が20%であり、「指導教員」が12%と続いている。進路・就職について信頼できる相談相手については、「家族等」が昼間で34%、夜間で36%と高く、「知人・先輩」が昼間で30%、夜間で27%と続き、若干下回って「教員」、「職員」の順となっている。就職先選択で重視するものについては、「就職先の将来性」が25%～31%、「人間関係の良いこと」が21～22%、「収入」が20%となっており、安定志向や内向きの気質傾向が表れている。就職に際しての会社等の情報の入手方法については、「インターネット」が38%と最も高く、「就職担当教員」や「キャリア支援室や就職相談員」と回答する学生は数%にとどまっている。希望職種は理工学部・工学部の特性から「技術職」が昼間で37%、夜間で52%と他学部とは異なる傾向がみられる。また、「教育・研究職」と「公務員」を合わせると25%程度の学生が希望職種として検討していることがわかる。キャリア形成を目的として学外で関わりをもった活動について、昼間の学生では「インターンシップ」が28%、「ボランティア」が14%、「キャリア形成を意識したアルバイト」が11%と続き、「なし」の回答も29%となっている。夜間の学生では「なし」が40%と高くなっている。キャリア支援室の利用状況については理工学・工学部の昼間・夜間共に1割程度の学生が利用するにとどまっているが、キャリア支援室では就職ガイダンスやセミナーなどの開催件数を増やすなど、様々なサービス内容の充実を図っているため積極的に利用してもらいたい。

9-6 生物資源産業学部

平成28年に新設された生物資源産業学部（1学年定員100名）は、令和元年に完成年度を迎え、2期生が卒業した。対象者407人中159人（回収率39.1%）から回答を回収し、平均を下回る回収率であったが、本学部学生の実態を検討した。前回の調査結果も踏まえて、今回の調査結果から見えてくる本学部の現状と課題を以下にまとめた。

「住居・通学」については、「自宅（家族と同居）」から通学している学生の割合が34%（前回37%）で他学部と同等で、家族と別居して「アパート・マンション」から通学している学生の割合も56%（前回45%）と他学部と同等であった。前回調査時に比べて「アパート・マンション」から通学者が多くなっている。「5万円未満」の家賃を支払っている学生の割合が85%であり、前回（87%）より減少している。通学方法については、「自転車」が最も多く67%であり、「バス・JR」を利用する学生の割合は13%と前回（13%）と同等であった。通学時間は「15分未満」が58%であったが、バス・JRの利用を反映してか「30分～1時間未満」も17%と高い。通学中の「交通事故」の被害については、前回13%、今回3%と下がっているが、なお今後も交通安全への注意喚起が必要である。

「収入・支出」については、「家庭の年収」では、前回の傾向は医歯薬系学部類似していたが、今回は全学部の平均値に等しい。そのせいか、授業料免除を受けている学生（年収500万円未満の家庭）の割合も比較的他学部と相似している。収入のうち保護者からの援助額は、自宅外通学者で「5万円未満」が61%を占めており、その一方で、保護者からの援助が「全くない」学生も11%存在する。自宅外通学者の1ヶ月の平均支出額は、「7万円未満」がほぼ9割（87%）を占めている。現在の経済状況は、23%の学生が「やや苦しい」、4%の学生が「大変苦しい」と回答しており、コロナ禍でもあり経済的な

支援が必要である。奨学金については、41%の学生が受給を受けており、前回42%と同等であった。「アルバイト」については、62%の学生が行っており、従事時間は1週あたり「15時間未満」の学生が66%を占める。「アルバイトで勉学に支障がある」と答えた学生は11%であり、前回調査時（11%）と同等で、全学部の中では2番目に低い。また、アルバイト収入額として、1か月あたり5万円未満が71%と他学部と同等であった。

「健康状態」については、「睡眠時間」では、他学部と同様に大半の学生が、4～8時間である。男子学生の31%および女子学生の43%が何らかの気になる症状があると回答しており、保健管理センターと連携した対処を推進すべきと思われる。「喫煙について」は、男子で95%、女子では100%の学生が「喫煙したことがない」と回答し、「飲酒について」は、約半数（男子47%および女子52%）の学生は、飲酒はしないと回答しており、前回（男子33%および女子34%）に比較して増加していることから学生同士の飲酒の機会等も減少していることが伺われる。

「食事」については、約半数（55%）の学生が昼食を自宅で取っており、常三島の食堂利用者は36%と前回（47%）より減少している。

「学生生活上の問題」については、「大学生活で何を重視した生活をしていますか」に対する回答としては、「勉強や研究」と答えた学生の比率は、54%で前回調査時40%より上昇した。「明確な目的はない」と答えた学生の割合が13%あったが、前回（20%）と比較して学生への指導改善が行われていると思われる。「悩みと相談」については、本学部男子の32%と女子の21%は「悩みや不安はない」と回答している。悩みの内容は、本学部では「就職や進路」および「勉学」が多かった。本学部は新設学部であり、就職先などに不安を抱えている学生が多いと思われる。悩みの相談相手としては、男女共に「友人」（男子63%、女子64%）と「家族」（男子60%、女子68%）の割合が多かった。一方で、2割程の学生（男子19%、女子15%）は「誰にもしない」と回答しており、前回と同様の結果となりクラス担任や指導教員がよき相談相手になれるような体制をより一層強化すべきと考える。「迷惑行為」を受けた学生の割合は非常に低く（4%）、主な迷惑行為としては、「いたずら電話」、「ストーカー」、「セクハラ」などであり、相談先として「家族」に相談していた。さらに、学生相談室は13%の学生が利用しており、大学事務の対応に対しても「ほぼ満足している」以上が88%と3番目に高い値であった。また、盗難犯罪被害として4%の学生が被害にあっており、そのほとんどが盗難であった。被害場所としては、主に大学構内、自宅・アパートであり、指導教員等を通じ一層の注意喚起が必要である。

「修学状況」については、「本学を選んだ理由」では、「国立大学だから」が64%で最も多く、「希望する学部・学科があったから」が47%、「地元の大学だから」が34%と続いている。「所属学部の満足度」は、「満足している」、「ほぼ満足している」と答えた学生の割合は86%（前回75%）で、「やや不満足である」、「不満足である」と答えた学生は13%（前回24%）と前回に比較して改善が認められた。「授業の満足度」に関しては、「満足している」、「ほぼ満足している」と答えた学生の割合は85%で、「やや不満足である」、「不満足である」と答えた学生は15%である。授業に満足できない理由としては、「授業内容がつまらない」（71%）が突出しており、「教員の教え方に工夫が足りない」（50%）が、これに続く。また、本学部では、「オフィスアワー」についての認知度は、85%と高く、「図書館の利用状況」に関しては、「1週間に1回以上来館する」学生の割合が26%（前回45%）と年々減少しており、コロナの影響によるものと推定されたが、学部専用の建物がないことも関連しているものと考えられる。

「課外活動」については、「学内の文化系サークルに加入している」と「学内の体育系サークルに加入している」を合わせて55%である。加入理由として、「サークルの活動内容に魅力があったから」が51%を占めている。また、「サークルに加入していない理由」についての質問では、「学業の妨げとなる」や「魅力的なサークルがない」、「個人の自由が束縛される」が挙げられている。「学生行事に積極的に参加している」学生の割合は29%で、「ボランティア活動の経験」がある学生については、28%であった。

「進路・就職」については、本学部では、「進路情報入手手段」は「インターネット」、「先輩・知人」、「指導教員」の順序で割合が多く、「相談相手」は「家族等」、「先輩・知人」、「教員」の順序で割合が多い。また、「就職」を希望する学生と「進学」を希望する学生の割合は、それぞれ42%、53%と進学希望者が11%多かった。「就職の希望職種」は、本学部の特徴として「公務員」、「技術職」、「企業等の研究職」、「総合職・営業職」、「事務職」など多岐に亘っている。「学外で関わりをもったキャリア形成項目」については、本学部では長期インターンシップが必修化されていることもあり、「インターンシップ」の割合が35%と他学部より抜き出て高い。「キャリア支援室の利用状況」は、87%の学生が「利用したことはない」と回答しており、今後、周知方法もしくは利用方法の強化を図ることが必要である。

本年度の調査結果から、前回の調査結果において目立っていた本学部の特徴として図書館の利用頻度はコロナ禍で登校機会の減少に伴い、利用度の低下が認められた。一方、進学希望者が増えてきており、今回の調査で得られた貴重なデータを活かすべく、今後は、学部専用棟建設の検討も視野に入れ、より良い修学・生活環境を構築するための学生支援に尽力していくことが求められる。

第10章 総括と提言

第30回学生生活実態調査は、本学に在学する学部学生全員（5,821人）を対象として実施し、2,453人から回答を得た。回収率は、第27回59.1%、第28回64.0%、第29回68.6%と着実に向上していたが、今回は42.1%であった。調査方法の改善・検討が行われ冊子体による調査を取り止めることとなりWEBによる調査のみを実施することとなった。このことが回収率の低下につながったと考えられる。加えて学生生活を一変させている新型コロナウイルスの影響も否定できない。回答者の心理的負担軽減と回収率確保のために設問数の削減も試みたが、まだ十分とは言えず次回以降のさらなる見直しが必要であろう。実態の正確な把握には高い回収率が必須であり今後この回収率を上げる新たな工夫が求められる。

調査項目は、「基本的事項」、「住居・通学」、「収入・支出」、「健康状態」、「食事」、「学生生活上の問題点」、「修学状況」、「課外活動」、「進路・就職」の9項目である。過去の調査と現状を対比して質問内容の見直し（内容修正、設問の削除）を行い、今回の総設問数は73問とした。

今回の調査結果から把握した学生生活の現状と問題点を整理し、全学的な立場から学生生活支援を実施していくために、以下の総括と提言をまとめた。

1. 住居・通学について

全体の80%以上が30分未満の通学時間であることから、大学の近くに住居があり、通学している学生が多い。一方、今回の調査では通学中に何らかの交通事故に遭った学生は、全体として5%であり、前回調査と比べて半減している。本学においては自転車通学者が73%にも達していることから、自転車事故への注意喚起と交通安全に関する指導を今後も継続していく必要がある。

2. 経済状況について

学部間に差はあるが、家庭の収入が250万円未満に満たない家庭が8%で、これに対応して「生活が大変苦しい」という学生が8%、「生活がやや苦しい」という学生が24%にのぼる。授業料免除制度に関しては、「授業料免除は知っているが申請していない」との回答を、年収250万円未満の家庭では28%、年収250～500万円未満の家庭では40%がしている。今後、免除制度の周知徹底を図ると同時に、授業料免除の制度を活用しない理由について調査し、申請しやすい環境や体制を整えるように取り組む必要がある。

生活費や学資のためにアルバイトをしている学生の比率は58%である。一方で、18%の学生がアルバイト中に何らかのトラブルに巻き込まれている。今後は、被害に遭った学生からの情報収集を含め、被害を未然に防ぐように方策を練る必要がある。

3. 健康状態について

4時間未満の過度の睡眠不足の学生が男子2%女子1%、さらに何らかの気になる症状を抱えている学生が男子27%女子44%で、ほぼ例年と同様である。これらの症状への対処や生活習慣等の生活面の指導を含めた対処法の事例や解決の手伝いをする仕組みが、キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門等の大学側の仕組みとしてあることを十分に知らせることが大事である。また、毎年の健康診断をしっかりと受診するような周知も不可欠である。

喫煙については、現在でも4%の学生が喫煙をしている。これら喫煙学生に対しては、積極的な禁煙指導や治療などの対策が必要である。キャンパス内の禁煙区域は年々拡大しており、構内における

分煙の徹底やマナー向上、非喫煙者への配慮をさらに目指すべきである。

4. 食事について

朝食をほとんど取らない学生が22%いるという状況は、前々回、前回調査とほぼ同じである。これについては生協食堂からの協力もあるが、なかなか改善していない。当人も自覚するような顕著な障害が現れないためであろう。住居別では、学生寮、間借り（下宿）、アパート・マンション（家族と別居）学生の朝食率がそれぞれ33%、37%、39%であり、自宅学生の59%に比べて大きく下回っている。勉強効率の低下に加え、健康への影響も懸念される。一人暮らしの学生に対する健康指導を推進していく必要がある。

大学内の食堂の利用者が、前回調査の49%から29%に減少し、自宅で昼食を取る学生が18%から54%に増加したことは、新型コロナウイルスの影響により、自宅でのオンライン授業が中心となったためと考えられる。

5. 学生生活上の問題点について

大学生活の意義として、「勉強や研究」を重視する学生が最も多いことは望ましい傾向であるが、一方で、「明確な目的はない」というネガティブな回答も依然として12%ほど存在していることは問題で、ケアする必要がある。

悩みや問題があっても誰にも相談しない学生が、男子の19～33%、女子の3～33%相変わらず存在し、その中には相談すること自体によって何らかの解決法が見つかるものも存在するはずである。担任教員やゼミの指導教員などは、悩みを持ちながら相談できずにいる学生を見つけたら、相談先や相談方法について伝えていくことを心がける必要がある。

また、キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門（学生相談室）があることを知らない学生が21%存在し、前回調査より減少したが、総合相談部門での相談が必要と思われる学生に対して、相談方法も含め、十分に情報が行きわたるようにしっかりと周知する必要がある。

何らかの迷惑行為を受けたことがある学生は6%であり、前回調査（13%）より減少した。未成年および成人後間もない学生が様々なトラブルに巻き込まれないように、対処法をしっかりと伝えておく必要がある。

セクハラおよびアカハラについては全体では共に1%に満たない比率であるが、学部によっては1～2%の学生がハラスメント被害にあったと答えている。大学内におけるハラスメント行為を根絶に向けて、学生・教職員等の構成員全てが十分な意識共有のもと真摯に取り組み続けて行く必要がある。

6. 修学状況について

現在のクラス担任制への満足度はほぼ90%であり、担任制度がうまく機能していることが伺える反面、「オフィスアワーについて知らない」学生が30%もおり、その活用方法も含めて周知が必要である。

図書館の利用については、「1週間に1回以上来館する」と回答した学生が、前回調査43%から24%に減少したものの、サービスに対する満足度は96%に上昇した。一方で、「半年に1回程度以下の来館頻度である」と回答した学生は、前回調査21%から41%に増加した。ここにも、新型コロナウイルスによる活動制限の影響が現れたと考えられる。今後は、折りにつけ大学内における修学施設である図書館の積極的な利用を促すことが肝要である。

7. 課外活動について

サークル加入率は全体で62%を占めており、前々回および前回調査とほぼ同じである。課外活動を通して、学生が社会人として必要な様々な資質を自主的に身につけ、鍛練することを切に願う。38%の学生が課外活動を行っていないが、課外活動以外の学園祭等の学生行事やボランティア活動などで、社会における必要な資質を自主的に学んでいただきたい。

新入生歓迎行事や大学祭については「必要だ」と考える学生が、前回とほぼ同様に全体で67%であり、「どちらでもいい」「なくてもいい」とする学生が全体で34%であった。学生の興味が多様化している結果と考えられる。

8. 進路・就職について

進路情報の主な入手先は「指導教員」、「先輩・知人」、「インターネット」となっており、キャリア支援室は4%であった。また、「就職・進学相談相手」では、家族等35%、知人・先輩30%、教員20%と続き、一方で、「相談相手はいない」の回答も前回と同様に6%あり、さらなる学生支援の充実が求められる。

前回の調査で新たな設問として加えた「キャリア形成」においては、キャリア形成を目的に学外と関わりをもった項目として「ボランティア」、「インターンシップ」、「アルバイト」などが挙がっており、前回調査と同様、最も回答数が多いのは「インターンシップ」である。しかし、本学のキャリア支援室を利用したことがない学生が87%もいるのは問題であり、キャリア支援室の活用方法も含めた学生への周知やサポートが求められる。

学生支援室としては、今回の調査結果が徳島大学における今後の学生支援に適切に反映されるよう願っている。

あ と が き

この調査の目的は「今後の福利厚生などの改善および修学支援に関する基礎資料を得ること」です。昭和28年から約3割の学部学生を対象として調査が始まり、平成16年の第22回調査からは学部生全員を対象として調査が継続されてきました。今回の調査回収率は42.1%となり本学学部生の4割強の皆さんにご協力いただき学生生活に関する詳細かつ貴重なデータを収集することができました。

昨今の時代の流れもあって紙媒体による調査が取り止めとなり、調査には大学の学務システムが利用されています。WEBのみによる調査回収の試みとしてはまずまずの回収率であったと考えています。大学のシステム以外にもLINEなどのSNSを利用した調査や情報提供などの新しい方法および調査協力の得やすい回答数と設問内容等の見直しにも真剣に取り組む必要があると思われれます。

新型コロナウイルス感染症が世界規模で大流行し、大学生の学生生活も激変しています。今年度は感染症対策により対面授業が禁止になる期間もありましたし、感染症対策の整った講義室の確保ができずにオンライン授業のみとなってしまったクラスも少なくない状況でした。一方、社会環境の変化に伴い経済的支援を必要とする学生が増えてきている状況も気になります。WITHコロナの新しいライフスタイルが社会全体で確立し一刻も早く大学が本来の姿に戻れることを願っています。

最後に、本調査の実施にあたり貴重なデータを提供していただきました本学学生の皆さんにお礼を申し上げます。調査データを分析し報告書をまとめていただきました徳島大学総合教育センター学生支援部門学生生活支援室会議の委員および協力各位には、年度末の多忙な時期に示唆に富んだ分析結果を提供いただき感謝申し上げます。また、報告書作成を支えていただいています学生生活支援課の事務職員の皆さまにお礼申し上げます。本報告書が徳島大学での学生教育や学生支援および大学運営の改善のために反映され、さらに好ましい学生生活の環境整備に向けて有効に活用されれば幸いです。

令和4年3月

高等教育研究センター
キャリア支援部門学生支援班学生生活支援室長

小 野 公 輔



令和4年3月

徳島大学



徳島大学は、学校教育法第109条第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準を満たしている」と認定されました。(令和2年3月24日)

- ・ 認定評価機関：独立行政法人大学評価・学位授与機構
- ・ 認定期間：7年間
- ・ (令和2年4月1日～令和9年3月31日)